

**平成 30 年度
島根県再生可能エネルギー及び省エネルギー
に関する県民意識・実態調査**

調査報告書

平成 31 年 2 月

島根県

目次

第1章 調査概要

1-1. 目的.....	1
1-2. 調査項目.....	1
1-3. 調査設計.....	1
1-4. 回収結果.....	1
1-5. 報告書の見方.....	1
1-6. 調査対象の特性.....	2
1-6-1. 県民アンケート.....	2
1-6-2. 事業者アンケート.....	4
1-7. 標本抽出方法.....	6
1-7-1. 県民アンケート.....	6
1-7-2. 事業者アンケート.....	7
1-8. 標本誤差.....	8

第2章 集計結果・分析

2-1. 県民アンケート.....	10
2-1-1. 再生可能エネルギーへの関心と施策情報の入手先.....	10
2-1-2. 家庭への再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の導入状況及び意向.....	11
2-1-3. 再生可能エネルギーへの意識.....	28
2-1-4. 家庭における省エネルギーの取組.....	31
2-1-5. 家庭での取組改善ポテンシャル.....	41
2-1-6. 設備の買い替え選択.....	44
2-2. 事業者アンケート.....	45
2-2-1. 事業所への再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の導入状況及び意向.....	47
2-2-2. 事業所における省エネルギーの取組.....	61

資料編

- 資料 1. 単純集計結果
- 資料 2. アンケート調査票

第1章 調査概要

1-1. 目的

国の「エネルギー基本計画」の見直しに併せ、本県の「再生可能エネルギー及び省エネルギーの推進に関する基本計画(平成27年9月策定)」の見直しを検討するにあたっての基礎資料とする。

1-2. 調査項目

○県民アンケート

- (1) 再生可能エネルギーに関する意識-----7項目
- (2) 家庭での再生可能エネルギー設備等の導入状況や意向----15項目
- (3) 家庭での省エネ行動-----51項目
- (4) 使用している機器等の状況-----4項目

○事業者アンケート

- (1) 事業所での再生可能エネルギー設備等の導入状況や意向--13項目
- (2) 事業所での省エネ等の取組-----58項目

1-3. 調査設計

【調査地域】 島根県全域

【調査対象】 県 民：島根県内の市町村に居住する満18歳以上の男女
事業者：島根県内の市町村に所在する事業所

【標本数】 県 民：2,200人
事業者：2,000件

【抽出方法】 県 民：層化無作為抽出法
事業者：無作為抽出（帝国データバンクからのデータ使用）

【調査方法】 郵送（調査期間中にお礼（督促）状を1回発送）

【調査時期】 平成30年9月

1-4. 回収結果

【回収数】 県 民：1,448件（回収率 65.8%）
事業者：1,220件（回収率 61.0%）

1-5. 報告書の見方

- (1) 調査結果の数値は百分比（%）で示している。これらの数値は少数第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100%を超えることがある。
- (3) 本調査は、「標本抽出による調査」であるため、全数調査を行った場合との間には、「標本誤差」が生じる。「標本誤差」については、8ページのとおり。
- (4) 平成22年度と平成26年度に実施した省エネルギー行動等に関する県民・事業者アンケートと同じ調査項目については、その結果との比較によって意識・行動の経年変化を示している。

1-6. 調査対象の特性

1-6-1. 県民アンケート

区分		実数	比率 (%)
総数		1,448	100
年代	10代	16	1.1
	20代	93	6.4
	30代	160	11.0
	40代	215	14.8
	50代	259	17.9
	60代	342	23.6
	70代以上	353	24.4
	無回答	10	0.7
地区	松江地区	500	34.5
	雲南地区	118	8.1
	出雲地区	351	24.2
	大田地区	122	8.4
	浜田地区	176	12.2
	益田地区	125	8.6
	隠岐地区	48	3.3
	無回答	8	0.6
世帯	働き世代と65歳以上を含む世帯	395	27.3
	高齢者世帯	324	22.4
	子育て世帯	212	14.6
	働き世代のみの世帯	212	14.6
	3世代世帯	165	11.4
	単身世帯	91	6.3
	その他の世帯	7	0.5
	無回答	42	2.9
住居形態	一戸建て	1,212	83.7
	集合住宅（アパート・マンション等）	225	15.5
	無回答	11	0.8
オール電化導入	はい（導入している）	517	35.7
	いいえ（導入していない）	916	63.3
	無回答	15	1.0

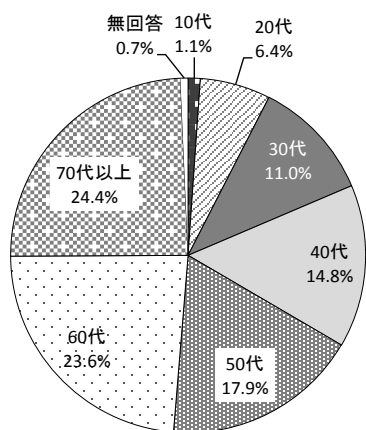
■世帯について

以下の通り、世帯を分類した。

世帯種別	17歳以下	18歳以上～ 64歳以下	65歳以上	備考
働き世代と65歳以上を含む世帯		●	●	18歳以上～64歳以下の者と65歳以上の者の世帯
高齢者世帯			●	65歳以上の者のみの世帯
子育て世帯	●	●		17歳以下の者と18歳以上～64歳以下の者の世帯
働き世代のみの世帯		●（複数）		18歳以上～64歳以下のみの世帯（単身世帯は除く）
3世代世帯	●	●	●	17歳以下の者と18歳以上～64歳以下の者と65歳以上の者の世帯
単身世帯		●（1人）		65歳以上の単身世帯は除く
その他の世帯	●		●	上記以外の世帯（例：17歳以下の者と65歳以上の者の世帯等）

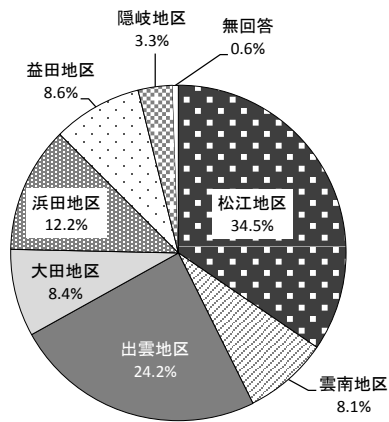
■ 回答者の主な特性

年代



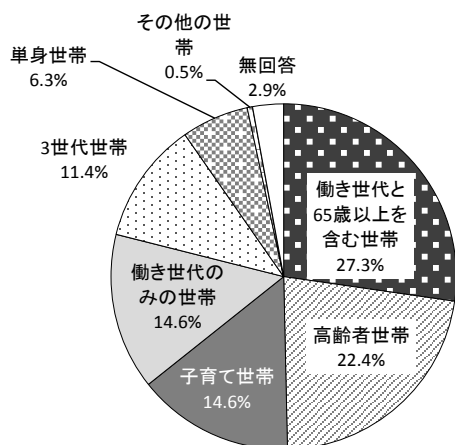
(n=1,448)

地区



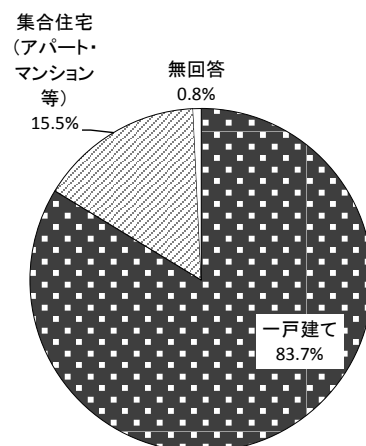
(n=1,448)

世帯



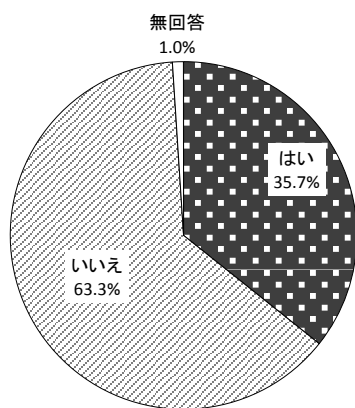
(n=1,448)

住居形態



(n=1,448)

オール電化導入



(n=1,448)

1-6-2. 事業者アンケート

区分		実数	比率 (%)
総数		1,220	100
地区	松江地区	420	34.4
	雲南地区	126	10.3
	出雲地区	309	25.3
	大田地区	108	8.9
	浜田地区	140	11.5
	益田地区	87	7.1
	隠岐地区	22	1.8
	無回答	8	0.7
業種	農業	44	3.6
	林業	8	0.7
	漁業	6	0.5
	鉱業、採石業、砂利採取業	3	0.2
	建設業	324	26.6
	電気業	30	2.5
	ガス業	4	0.3
	熱供給業	5	0.4
	運輸業、郵便業	34	2.8
	製造業	141	11.6
	その他	601	49.3
	無回答	20	1.6
	部門	産業部門	526
運輸部門		34	2.8
民生業務部門		640	52.5
無回答		20	1.6
従業員数	1～4人	423	34.7
	5～9人	306	25.1
	10～19人	215	17.6
	20～29人	79	6.5
	30～49人	79	6.5
	50～99人	54	4.4
	100～199人	16	1.3
	200～299人	7	0.6
	300人以上	7	0.6
	無回答	34	2.8
延床面積	1～100㎡未満	256	21.0
	100～500㎡未満	414	33.9
	500～1,000㎡未満	117	9.6
	1,000～2,000㎡未満	81	6.6
	2,000～5,000㎡未満	72	5.9
	5,000～10,000㎡未満	19	1.6
	10,000㎡以上	30	2.5
	無回答	231	18.9

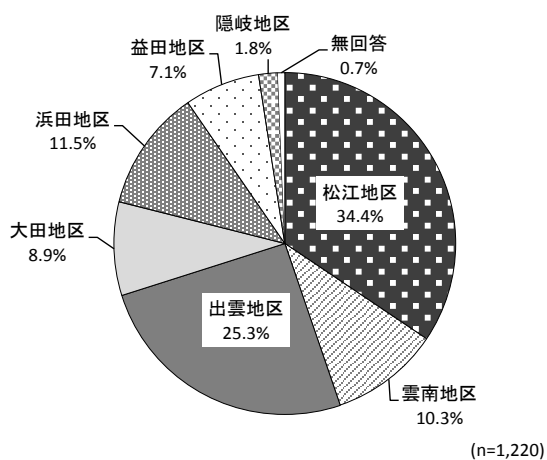
■部門について

温室効果ガス排出量算定に係る部門分類と業種の関係は、以下の通りである。

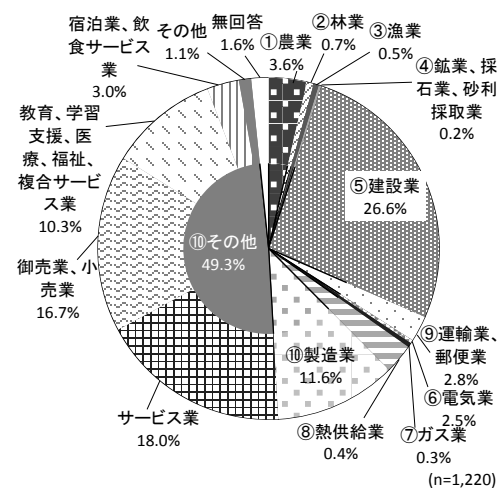
部門	定義
産業部門	業種の「農業」、「林業」、「漁業」、「鉱業、採石業、砂利採取業」、「建設業」、「製造業」を選択した事業者
運輸部門	業種の「運輸業、郵便業」を選択した事業者
民生業務部門	業種の上記以外を選択した事業者

■回答者の主な特性

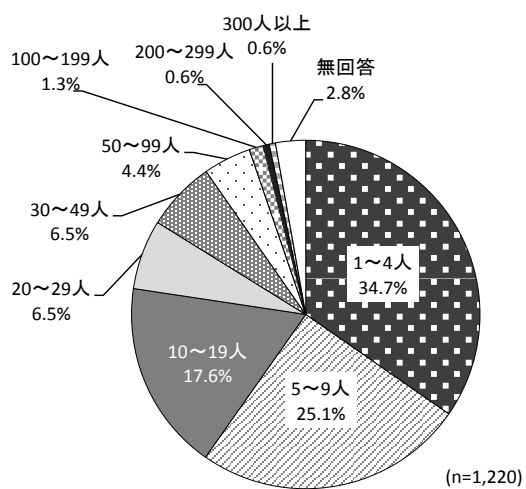
地区



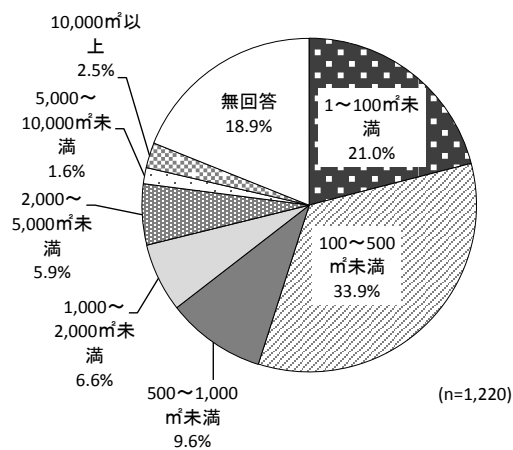
業種



従業員数



延床面積



1-7. 標本抽出方法

1-7-1. 県民アンケート

- (1) 母集団：島根県内の市町村に居住する満 18 歳以上の男女
- (2) 標本数：2,200 件
- (3) 抽出方法：層化無作為抽出法

■層化

- (1) 県内の市または郡を単位として、次の 7 地区に分類した。

松江地区：松江市、安来市
雲南地区：雲南市、仁多郡、飯石郡
出雲地区：出雲市
大田地区：大田市、邑智郡
浜田地区：浜田市、江津市
益田地区：益田市、鹿足郡
隠岐地区：隠岐郡

■標本数の配分

地区別の層における推定母集団数（平成 29 年 10 月 1 日現在の 18 歳以上推計人口）の大きさにより、2,200 の標本を比例配分した。

■抽出

- ① 抽出に関する各層内における市町村の配置順序は、総務省設定の市町村コードに従った。
- ② 対象者の抽出は、地区別・市郡別の層において比例配分した標本数に応じて抽出間隔を下記の通り算定し、選挙人名簿を用いて、抽出した基点から等間隔抽出法によって抽出した。

$$\frac{\text{各層における推計人口合計}}{\text{各層で算出された標本数}} = \text{抽出間隔}$$

- ③ 以上の結果、各地区の標本数は次ページのとおりである。

地区別標本数

地区	摘要	計	地区	摘要	計
松江地区	人口	199,462	浜田地区	人口	68,851
	標本数	767		標本数	265
雲南地区	人口	47,447	益田地区	人口	51,317
	標本数	183		標本数	197
出雲地区	人口	142,277	隠岐地区	人口	17,232
	標本数	547		標本数	67
大田地区	人口	45,325	計	人口	571,911
	標本数	174		標本数	2,200

1-7-2. 事業者アンケート

- (1) 母集団：島根県内の市町村に所在する事業所
- (2) 標本数：2,000件
- (3) 抽出方法：無作為抽出（帝国データバンクのデータ使用）

1-8. 標本誤差

層化無作為抽出法による標本誤差は、次の式で算出される。

$$\pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(1-P)}{n}}$$

N：母集団数

n：実回答数

P：回答比率

なお、Nはnよりもはるかに大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ とみなすことができる。

算出した標本誤差の範囲は次のとおりである。

標本誤差早見表（信頼度 95%）【県民】

区 分		実回答数 n	標本誤差 (%)				
			10 または 90	20 または 80	30 または 70	40 または 60	50
総 数		1,448	1.6	2.1	2.4	2.6	2.6
地 区	松江地区	500	2.7	3.6	4.1	4.4	4.5
	雲南地区	118	5.5	7.4	8.4	9.0	9.2
	出雲地区	351	3.2	4.3	4.9	5.2	5.3
	大田地区	122	5.4	7.2	8.3	8.9	9.1
	浜田地区	176	4.5	6.0	6.9	7.4	7.5
	益田地区	125	5.4	7.2	8.2	8.8	8.9
	隠岐地区	48	8.7	11.5	13.2	14.1	14.4
年 代	10代	16	15.0	20.0	22.9	24.5	25.0
	20代	93	6.2	8.3	9.5	10.2	10.4
	30代	160	4.7	6.3	7.2	7.7	7.9
	40代	215	4.1	5.5	6.3	6.7	6.8
	50代	259	3.7	5.0	5.7	6.1	6.2
	60代	342	3.2	4.3	5.0	5.3	5.4
	70代以上	353	3.2	4.3	4.9	5.2	5.3
世 帯	働き世代と65歳以上を含む世帯	395	3.0	4.0	4.6	4.9	5.0
	高齢者世帯	324	3.3	4.4	5.1	5.4	5.6
	子育て世帯	212	4.1	5.5	6.3	6.7	6.9
	働き世代のみの世帯	212	4.1	5.5	6.3	6.7	6.9
	3世代世帯	165	4.7	6.2	7.1	7.6	7.8
	単身世帯	91	6.3	8.4	9.6	10.3	10.5
	その他の世帯	7	22.7	30.2	34.6	37.0	37.8
住 形 居 態	一戸建て	1,212	1.7	2.3	2.6	2.8	2.9
	集合住宅（アパート・マンション等）	225	4.0	5.3	6.1	6.5	6.7

※表の見方

「標本誤差」とは、全体（母集団）から一部の標本を抽出して行う標本調査と、全体を対象に行う調査とを比べた時に生じる調査結果上の誤差のことである。

例えば『松江地区（n=500）の、ある設問中の選択肢（例：「そう思う」）の回答比率が10%であった場合、母集団におけるその回答比率の誤差の範囲は±2.7%の範囲内（母集団で「そう思う」と回答する人の比率は、7.3%～12.7%）である、と95%の確率で言える』とみることができる。

「信頼度95%」とは、100回同じ調査を行って、95回同じ結果（同じ誤差範囲）が出ると想定される、という意味である。

標本誤差早見表（信頼度 95%）【事業者】

区 分		実回答数 n	標本誤差（%）				
			10 または 90	20 または 80	30 または 70	40 または 60	50
総 数		1,220	1.7	2.3	2.6	2.8	2.9
地 区	松江地区	420	2.9	3.9	4.5	4.8	4.9
	雲南地区	126	5.3	7.1	8.2	8.7	8.9
	出雲地区	309	3.4	4.6	5.2	5.6	5.7
	大田地区	108	5.8	7.7	8.8	9.4	9.6
	浜田地区	140	5.1	6.8	7.7	8.3	8.5
	益田地区	87	6.4	8.6	9.8	10.5	10.7
	隠岐地区	22	12.8	17.1	19.5	20.9	21.3
部 門	産業部門	526	2.6	3.5	4.0	4.3	4.4
	運輸部門	34	10.3	13.7	15.7	16.8	17.1
	民生業務部門	640	2.4	3.2	3.6	3.9	4.0
従 業 員 数	1～4人	423	2.9	3.9	4.5	4.8	4.9
	5～9人	306	3.4	4.6	5.2	5.6	5.7
	10～19人	215	4.1	5.5	6.3	6.7	6.8
	20～29人	79	6.8	9.0	10.3	11.0	11.3
	30～49人	79	6.8	9.0	10.3	11.0	11.3
	50～99人	54	8.2	10.9	12.5	13.3	13.6
	100～199人	16	15.0	20.0	22.9	24.5	25.0
	200～299人	7	22.7	30.2	34.6	37.0	37.8
	300人以上	7	22.7	30.2	34.6	37.0	37.8
延 床 面 積	1～100㎡未満	256	3.8	5.0	5.7	6.1	6.3
	100～500㎡未満	414	2.9	3.9	4.5	4.8	4.9
	500～1,000㎡未満	117	5.5	7.4	8.5	9.1	9.2
	1,000～2,000㎡未満	81	6.7	8.9	10.2	10.9	11.1
	2,000～5,000㎡未満	72	7.1	9.4	10.8	11.5	11.8
	5,000～10,000㎡未満	19	13.8	18.4	21.0	22.5	22.9
	10,000㎡以上	30	11.0	14.6	16.7	17.9	18.3

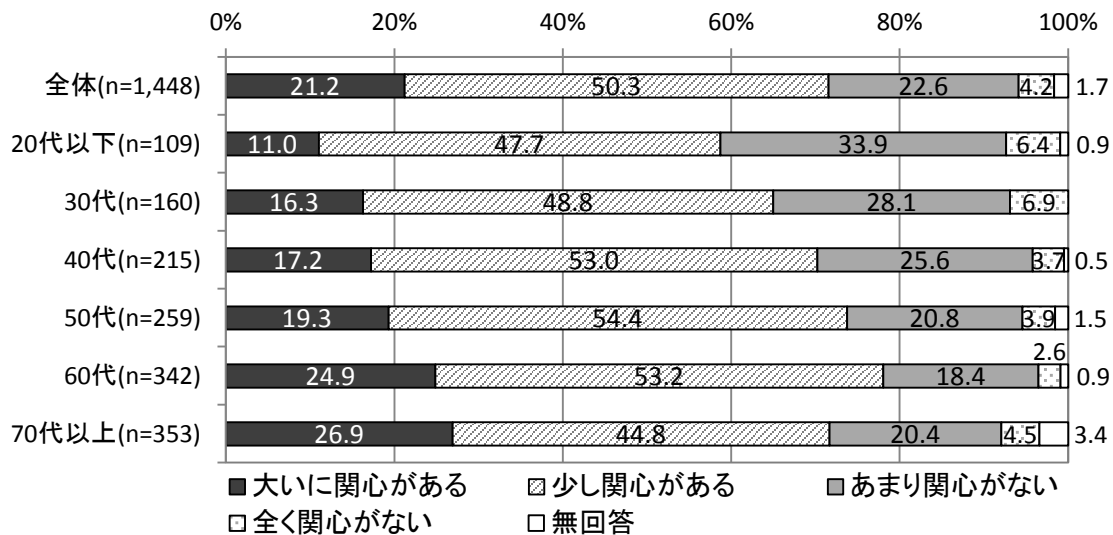
第2章 集計結果・分析

2-1. 県民アンケート

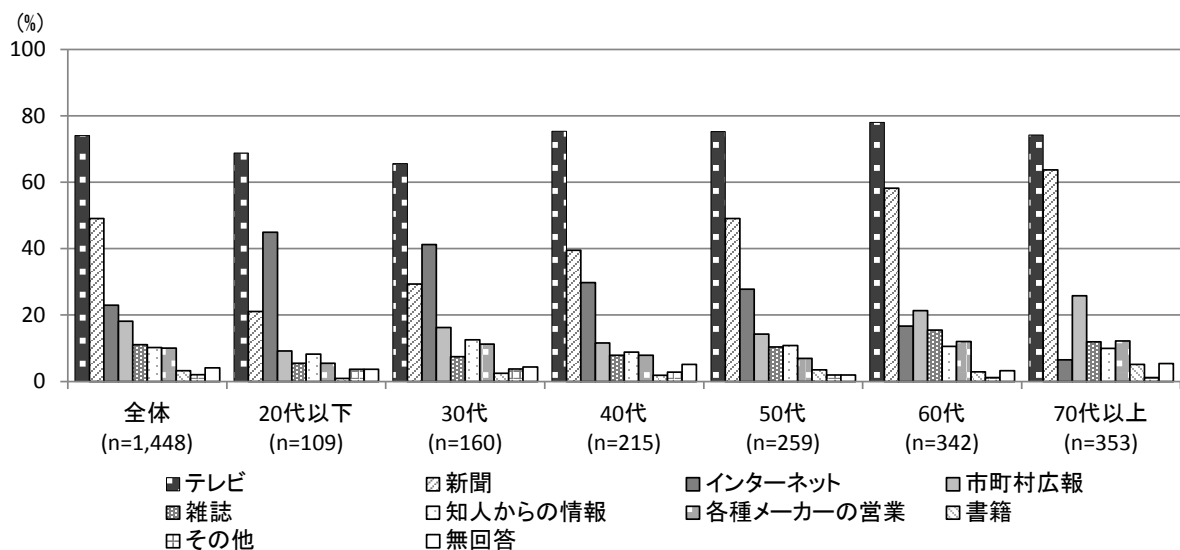
2-1-1. 再生可能エネルギーへの関心と施策情報の入手先

- ・「大いに関心がある」と「少し関心がある」を合わせると全体の約 7 割を占めており、再生可能エネルギーへの関心は高いといえる。
- ・施策情報の入手先は、「テレビ」が 7 割以上で最も多く、次いで新聞が 5 割程度である。
- ・再生可能エネルギーへの関心を年代別にみると、年代が高くなるにつれて再生可能エネルギーへの関心が高くなっている。
- ・再生可能エネルギーに関する施策情報の入手先を年代別にみると、「新聞」と「インターネット」について年代による傾向が明らかであり、「新聞」は年代が高いほど、「インターネット」は年代が低いほど回答割合が高い。

■再生可能エネルギーへの関心（年代別）



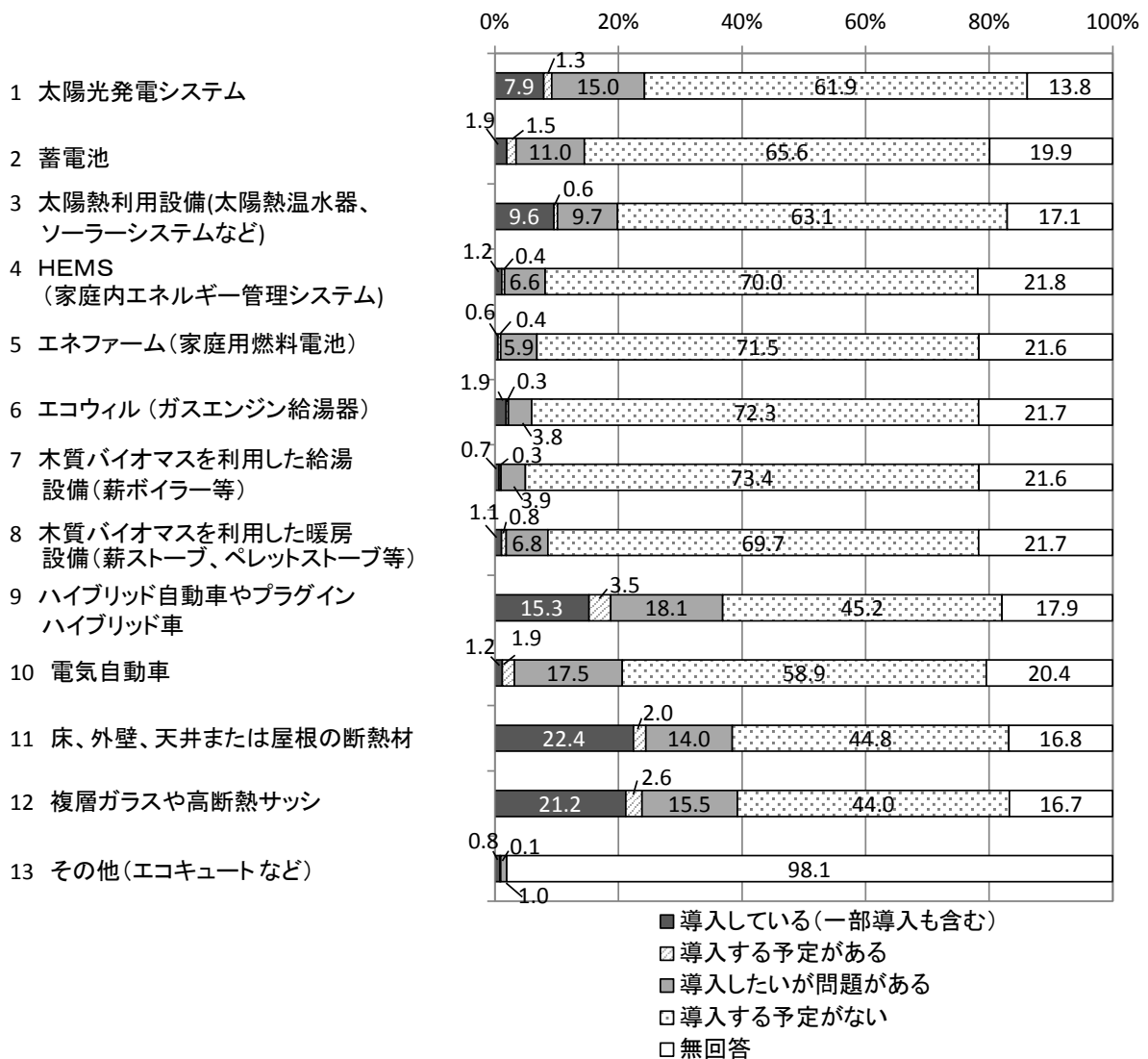
■再生可能エネルギーに関する施策情報の入手先（年代別）



2-1-2. 家庭への再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の導入状況及び意向

(1) 家庭で導入・検討している設備

- ・家庭への再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入割合は全般的に低かった。
- ・「床、外壁、天井または屋根の断熱材」や「複層ガラスや高断熱サッシ」の導入割合は約 2割で、比較的導入割合が高くなっている。



(2) 島根県の再生可能エネルギー設備導入支援のための補助・助成制度

島根県の再生可能エネルギー設備導入支援では、市町村が補助制度を設けた場合に、県が市町村に対して補助を行っている。

住宅用太陽光発電設備については、補助制度を設けている17市町のうち、7市町が県からの補助金と同額の補助金を設定し、10市町は県の補助金に上乗せして補助を行っている。

蓄電池設備については、8市町が補助制度を設けており、全て県の補助金と同額の設定である。

■島根県 再生可能エネルギー設備導入支援のための補助・助成制度一覧（太陽光関連）

地区	実施主体	制度名称	補助金額・限度額	
			住宅用太陽光発電設備	蓄電池設備
	島根県	島根県太陽光発電等導入支援事業補助金	1万円/kW（上限4万円） ※市町村対象	10万円（太陽光発電設備とセットで導入すること。設置経費を上限とする） ※市町村対象
松江地区	松江市	松江市再生可能エネルギー機器等導入促進事業補助金	3.4万円/kW（上限13.6万円）	設置費用（上限10万円）
	安来市	安来市太陽光発電システム等設置費補助金	1万円/kW（上限4万円）	設置費用（上限10万円）
雲南地区	雲南市	雲南市太陽光発電導入促進事業補助金	1万7千円/kW（上限4kW）※1） ※島根県補助金分は別途加算	
	奥出雲町	奥出雲町新エネルギー設備導入促進事業奨励金	5万円/kW（上限4kW、20万円）※2）	設置費用（上限10万円）
	飯南町	飯南町新エネルギー設備導入促進事業補助金	4万円/kW（上限16万円）	
出雲地区	出雲市	出雲市太陽光発電設備等導入補助金	1万円/kW（上限4万円）	設置費用（上限10万円）
大田地区	大田市	大田市太陽光発電導入促進事業費補助金	1万円/kW（上限4万円）	設置費用（上限10万円）
	川本町	川本町住宅用太陽光発電システム設置費補助金	5万円/kW（上限20万円）	
	美郷町	美郷町新エネルギー設備導入促進事業補助金	6万円/kW（上限24万円）	設置経費（上限10万円）
	邑南町	邑南町太陽光発電システム等設置事業補助金	1万円/kW（上限4万円）	設置経費（上限10万円）
浜田地区	浜田市	浜田市住宅用太陽光発電システム設置事業補助金	1万円/kW（上限4万円）	
	江津市			
益田地区	益田市	益田市住宅用太陽光発電システム設置費補助金	1万円/kW（上限4万円）	設置費用（上限10万円）
	津和野町	津和野町太陽光発電システム等導入促進事業補助金	5万円/kW（上限15万円）	
	吉賀町	吉賀町太陽光発電システム等導入促進事業補助金	最大出力3kW以下…2万5千円/kW 最大出力3kWを超え4kW以下…1万円/kW （上限8万5千円）	
隠岐地区	海士町	海士町太陽光発電システム設置費補助金	3万円/kW（上限12万円）	
	西ノ島町	西ノ島町住宅用太陽光発電導入支援事業補助金	5万円/kW（上限20万円）	
	隠岐の島町	隠岐の島町住宅用太陽光発電システム設置事業補助金	1万円/kW（上限4万円）	
	知夫村			

注）特記のない場合、市町村の補助金額には、島根県補助金額分を含む。

○平成30年7月現在

※1）パナソニックESソーラーシステム製造（株）製品の場合は更に単価1万7千円を上乗せ。

※2）ただし、パナソニック製以外は3万円/kW（上限4kW、12万円）

太陽熱利用設備（ソーラーシステム）については11市町が補助制度を設けており、うち10市町は県の補助金額（上限30万円）と同額の設定であるが、海士町のみ上限を40万円として金額を上積みしている。

木質バイオマス熱利用設備については、県が市町村費の1/3以内（上限20万円）の補助制度を定めており、市町の補助金額の設定はそれぞれ異なる。

■島根県 再生可能エネルギー設備導入支援のための補助・助成制度一覧（太陽光関連以外）

地区	実施主体	制度名称	補助金額・限度額		
			太陽熱利用設備	木質バイオマス熱利用設備	エネファーム
	島根県	島根県太陽光発電等導入支援事業補助金	設置費用の1/2以内（上限30万円） ※ソーラーシステムに限る。 ※市町村対象	市町村費の1/3以内（上限20万円） ※市町村対象	国の補助事業を活用した場合に定額（10万円）を補助
松江地区	松江市	松江市再生可能エネルギー機器等導入促進事業補助金	設置費用の1/2以内（上限30万円）	【ペレットストーブ】 設置費用の1/10とその額に1/3を乗じて得た額を合算した額（上限5万円） 【薪ストーブ】 設置費用の1/10とその額に1/3を乗じて得た額を合算した額（上限10万円）	設置費用の1/10（上限14万円）
	安来市	安来市太陽熱利用設備設置費補助金	対象経費×1/2（上限30万円）		
雲南地区	雲南市	雲南市森林バイオマス推進事業補助金		【薪ストーブ等】 対象経費×1/3（上限5万円）※1)	
	奥出雲町	奥出雲町新エネルギー設備導入促進事業奨励金	設置費用の1/2（上限30万円）	【ペレットストーブ・薪ストーブ】 対象経費1万円以上で、その25%以内（上限5万円）	
	飯南町	飯南町新エネルギー設備導入促進事業補助金		設置費用の1/3（上限30万円）※1)	
出雲地区	出雲市	出雲市太陽光発電設備等導入補助金	設置費用の1/2（上限30万円）		
大田地区	大田市	大田市太陽熱利用システム導入促進事業費補助金	設置費用の1/2（上限30万円）		
		大田市木質燃料活用機器導入促進事業費補助金		【木質燃料のみ使う機器】 対象経費の1/3（上限9万円）※1)	
	川本町				
	美郷町	美郷町新エネルギー設備導入促進事業補助金		設置費用の1/3以内（上限20万円）※1)	
浜田地区	邑南町	邑南町太陽光発電システム等設置事業補助金	設置費用の1/2（上限30万円）		
	浜田市	浜田市太陽熱利用設備設置事業補助金	設置費用の1/2（上限30万円）		
益田地区	江津市				
	益田市	益田市太陽熱利用設備設置費補助金	設置費用の1/2（上限30万円）		
	津和野町	津和野町太陽光発電システム等導入促進事業補助金	設置費用の1/2（上限30万円）		
		津和野町ペレットストーブ等購入費補助金		対象経費の1/3（上限20万円）	
吉賀町	吉賀町太陽光発電システム等導入促進事業補助金	設置費用の1/2（上限30万円）			
隠岐地区	海士町	吉賀町住宅用木質バイオマス熱利用設備導入促進事業補助金		対象経費の1/3（上限13.3万円）	
		海士町薪ストーブ等設置費補助金		設置費用の1/2以内（上限40万円）	
	海士町太陽熱利用温水器設置費補助金	設置費用の1/2以内（上限40万円）			
	西ノ島町				
	隠岐の島町	隠岐の島町木質ペレット熱利用設備設置事業補助金		対象経費の2/3（上限30万円）	
知夫村					

注）特記のない場合、市町村の補助金額には、島根県補助金額分を含む。

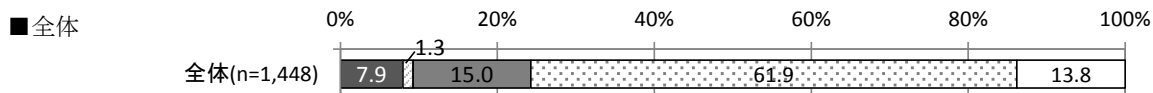
○平成30年7月現在

※1）島根県補助金分は別途加算

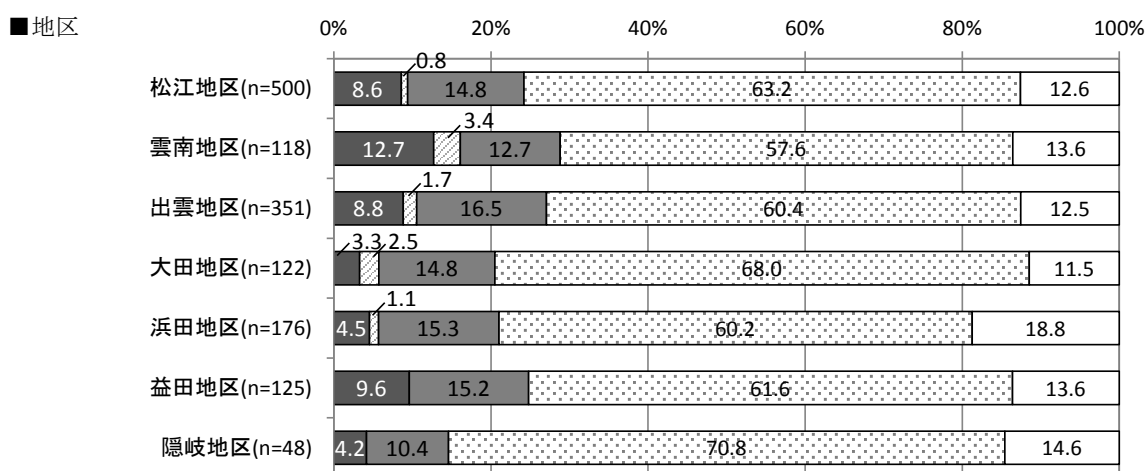
(3) 家庭で導入・検討している設備の属性別クロス集計

①太陽光発電システム

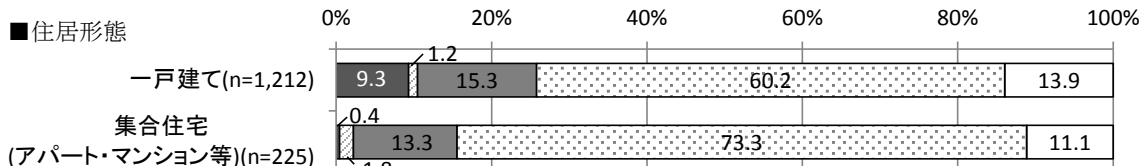
- ・ 全体の導入割合は 7.9%である。「導入したいが問題がある」が 15.0%で一定の導入ポテンシャルがあるといえる。
- ・ 地区別にみると、雲南地区での導入割合が高かった。雲南市と奥出雲町では地元の設備メーカー製品を導入する場合、補助金の上乗せ制度があり、導入促進の意欲を高めている可能性が考えられる。



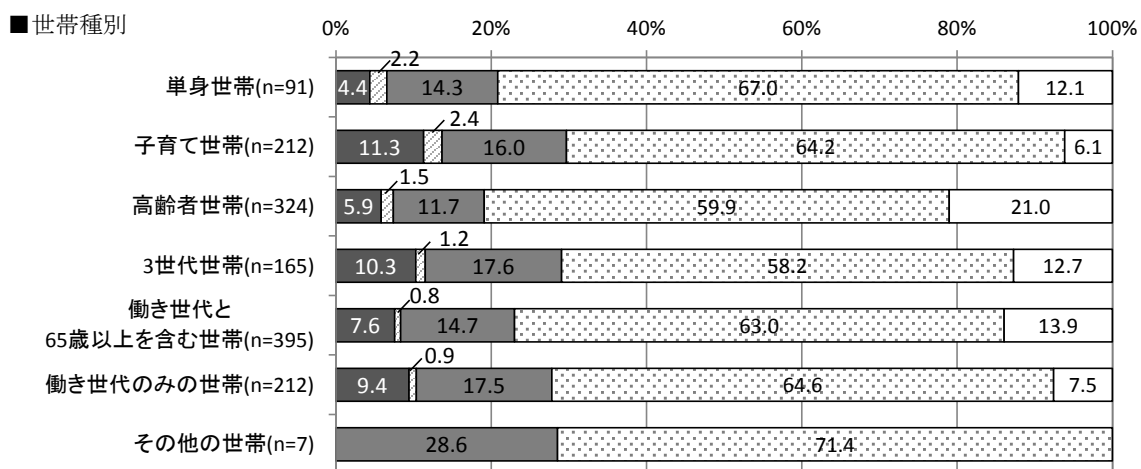
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



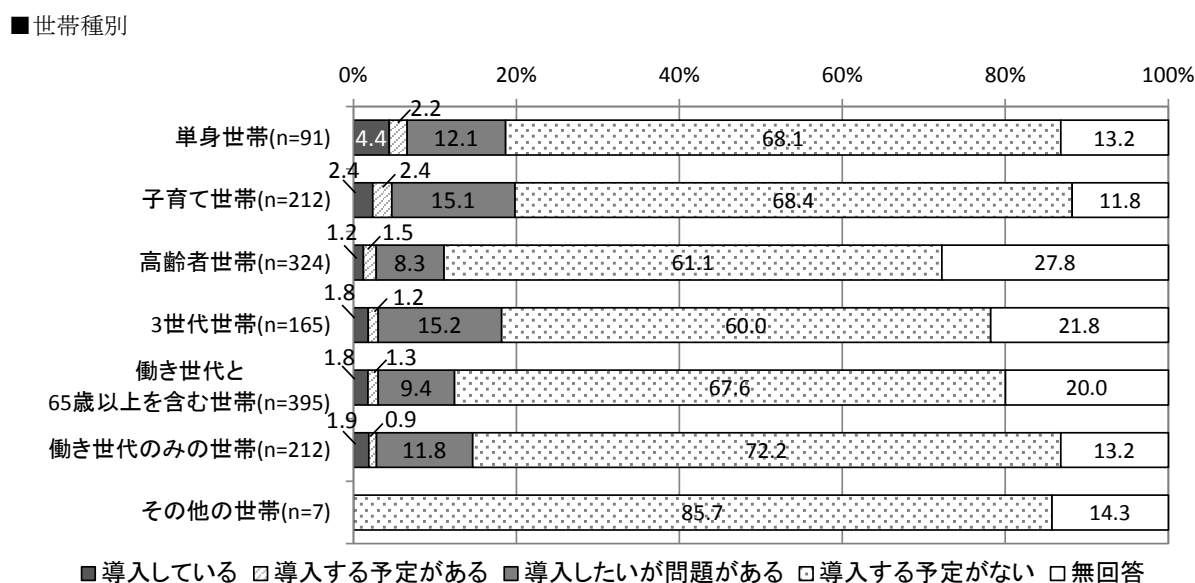
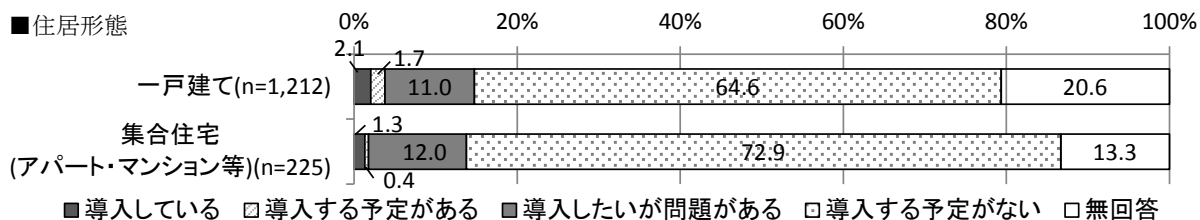
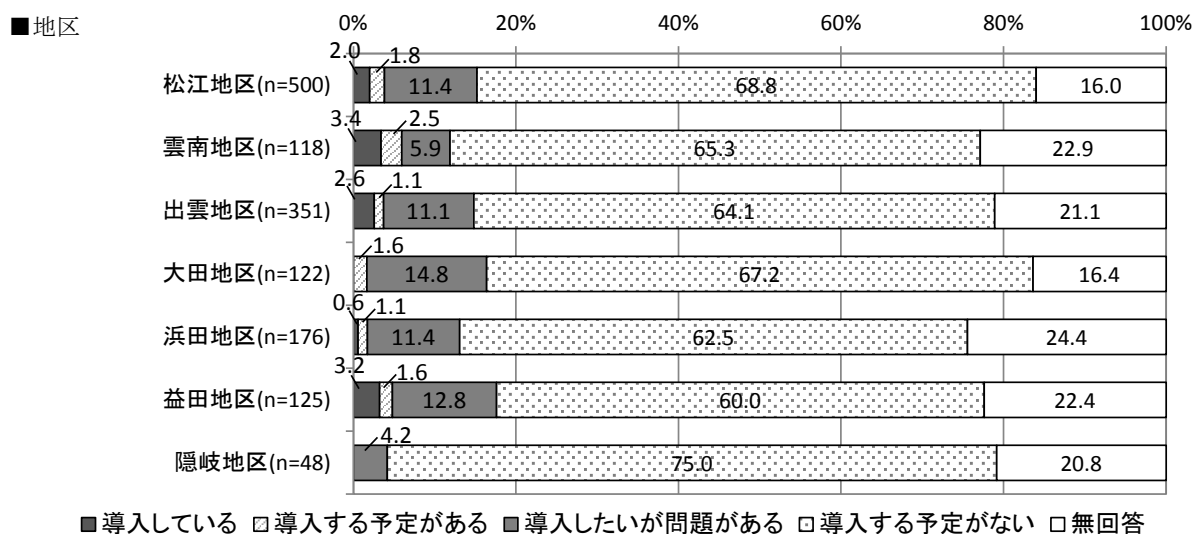
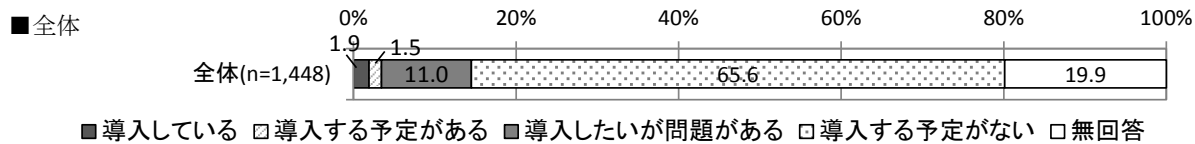
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答

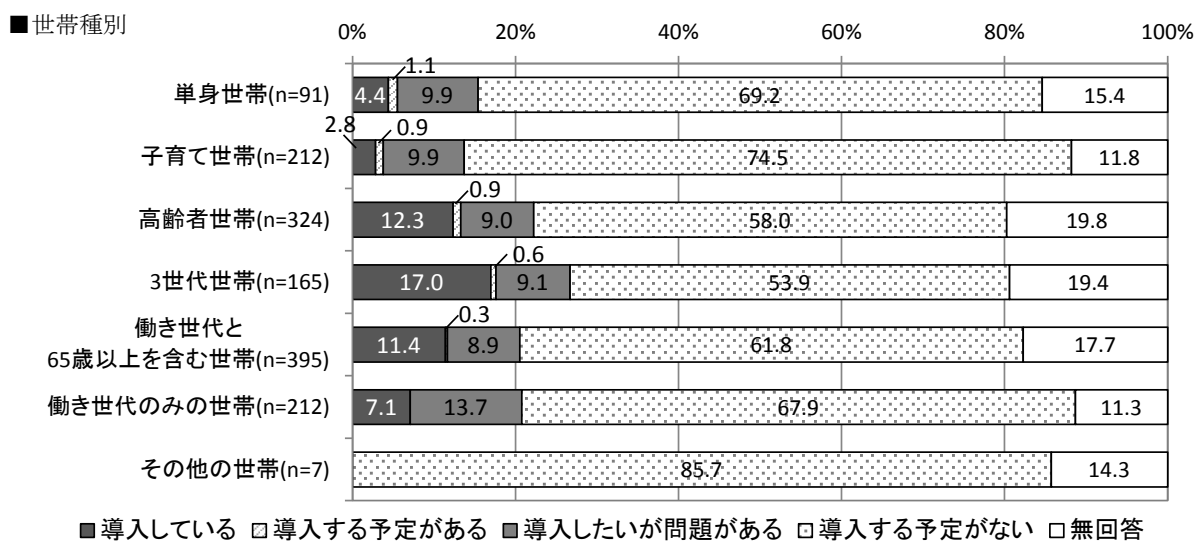
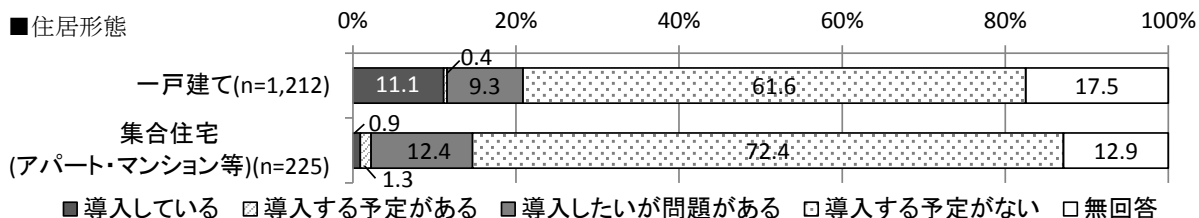
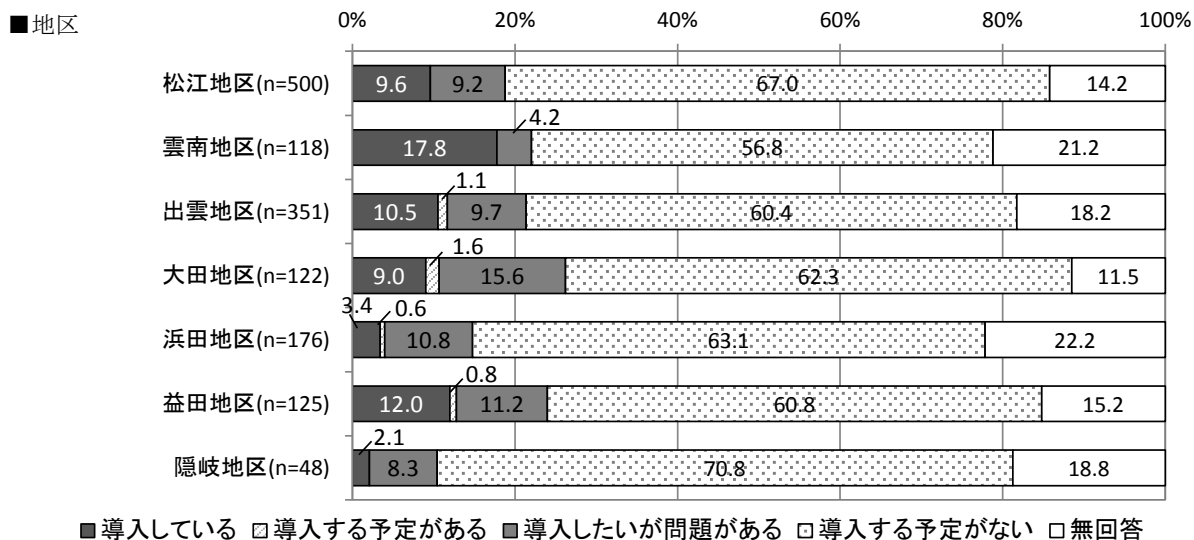
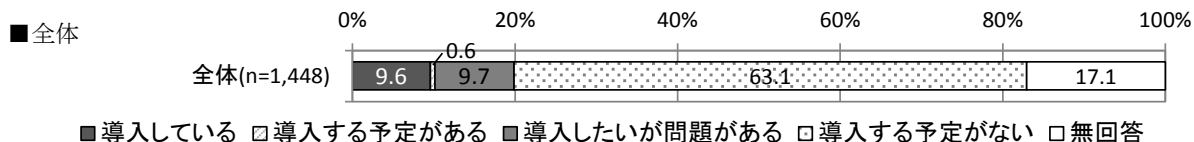
②蓄電池

- ・ 全体の導入割合は1.9%で普及しているとはいえないが、「導入したいが問題がある」が11.0%であり、一定の導入ポテンシャルがあるといえる。
- ・ 世帯種別にみると「導入したいが問題がある」の回答は、子育て世帯や3世代世帯でその割合がわずかに高い傾向がみられた。



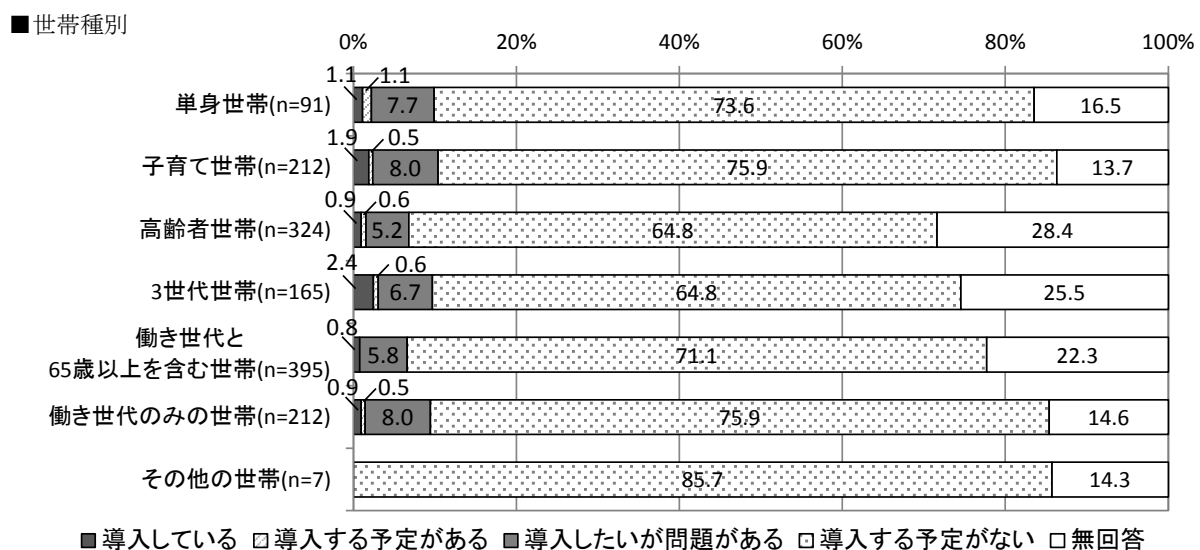
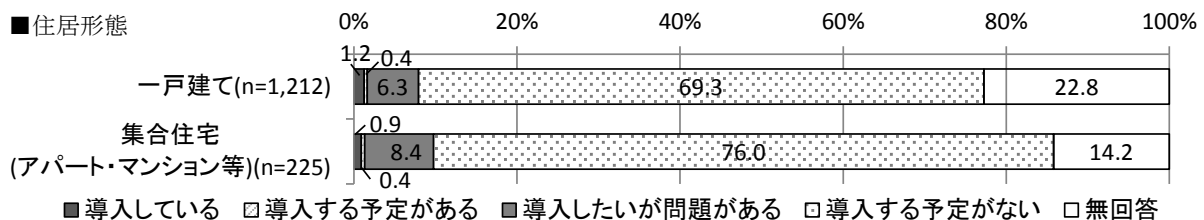
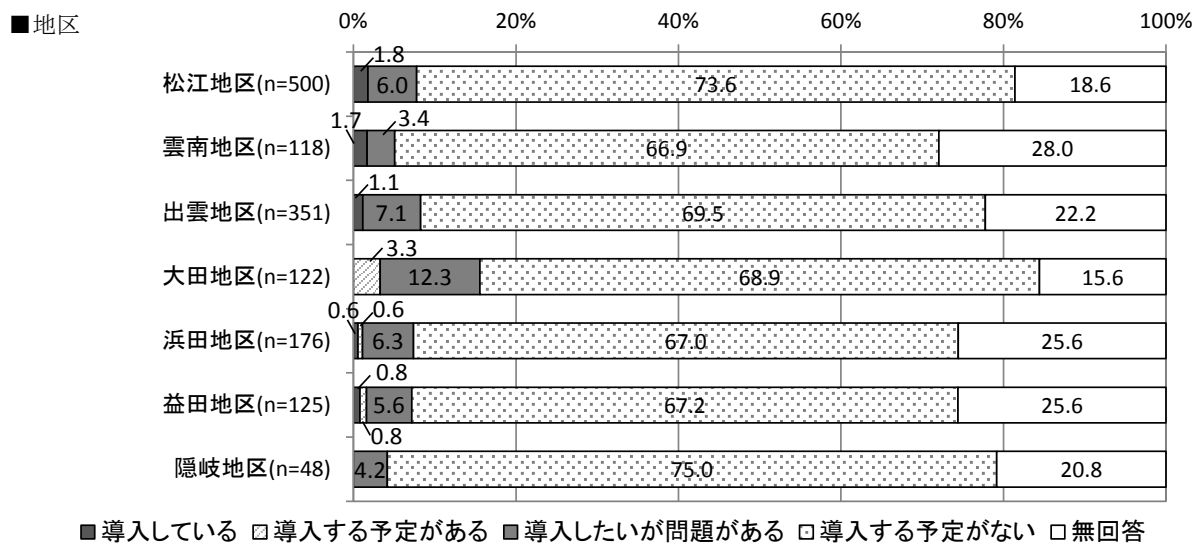
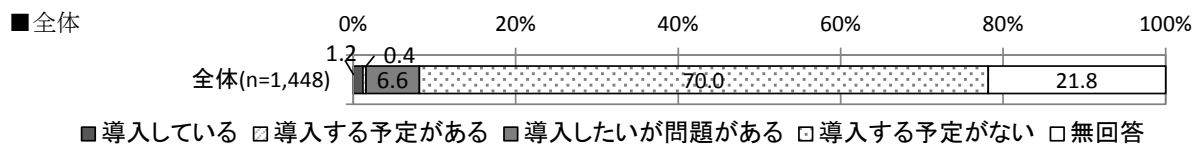
③太陽熱利用設備（太陽熱温水器、ソーラーシステムなど）

- ・全体の導入割合は9.6%であった。
- ・地区別にみると、雲南地区で導入割合が高く、浜田地区で導入割合が低い傾向がみられた。
- ・3世代世帯で導入割合が高いが、単身世帯と子育て世帯では導入割合が低い傾向がみられた。



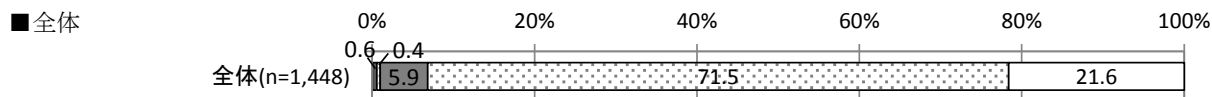
④HEMS（家庭内エネルギー管理システム）

- ・ 全体の導入割合は1.2%であった。
- ・ 「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。

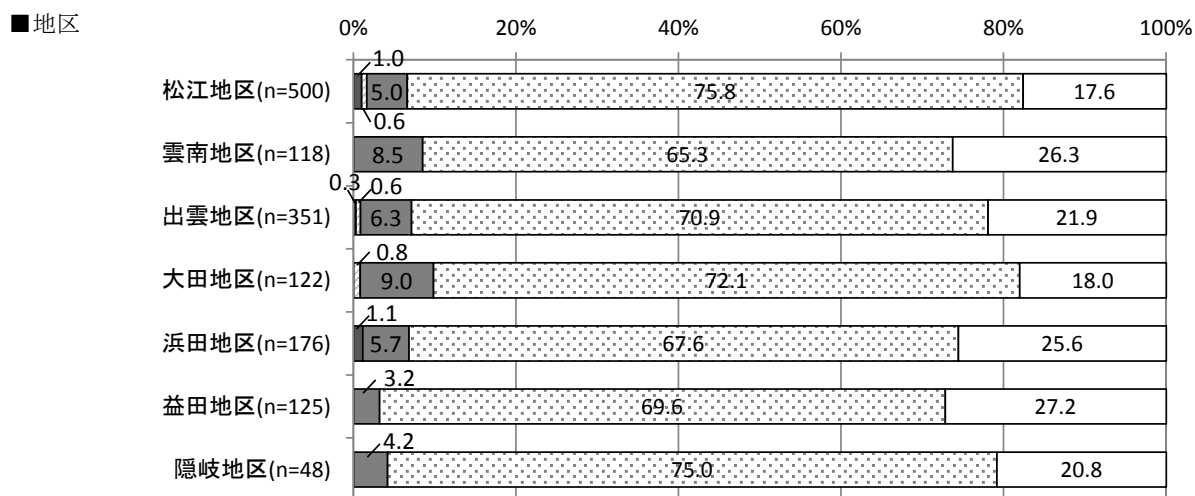


⑤エネファーム（家庭用燃料電池）

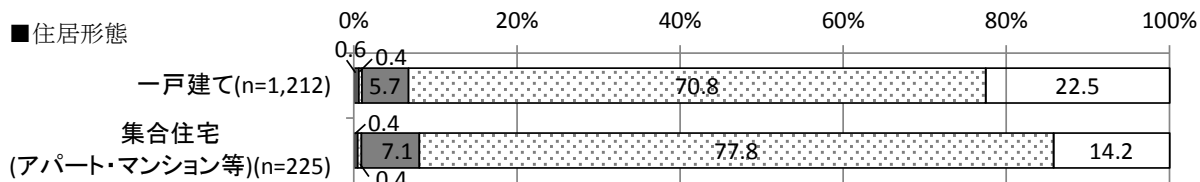
- ・ 全体の導入割合は 0.6%であった。
- ・ 「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。



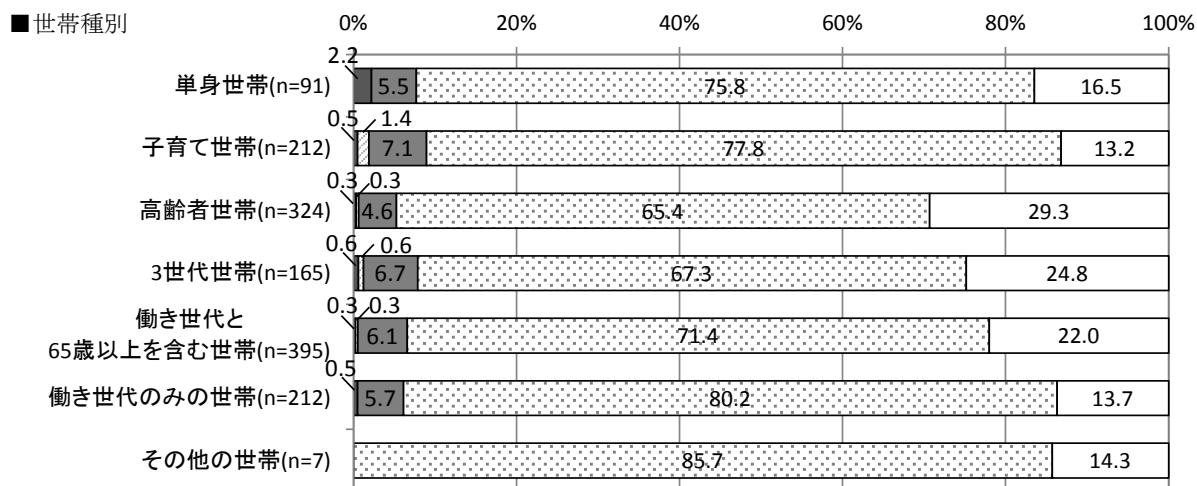
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



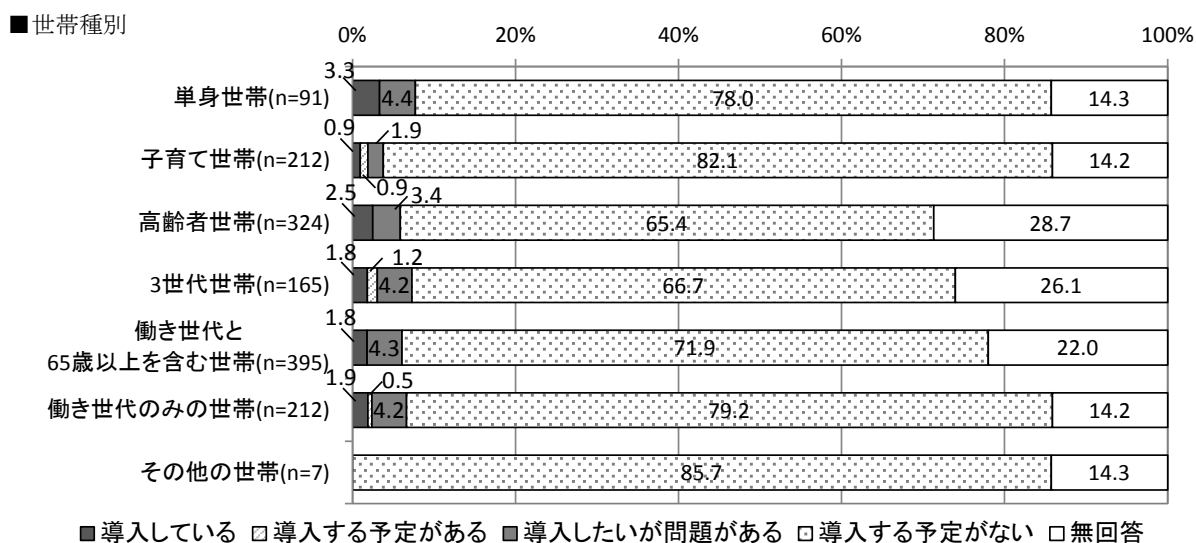
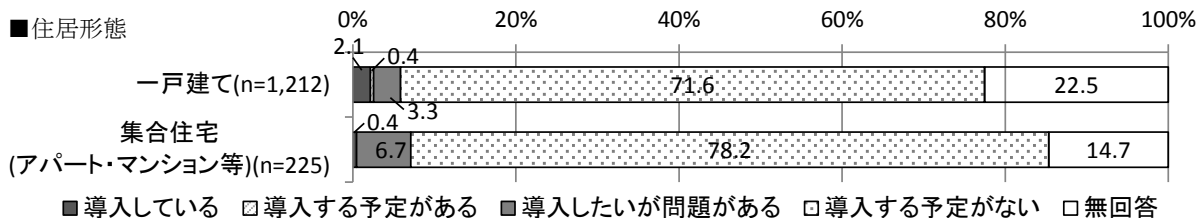
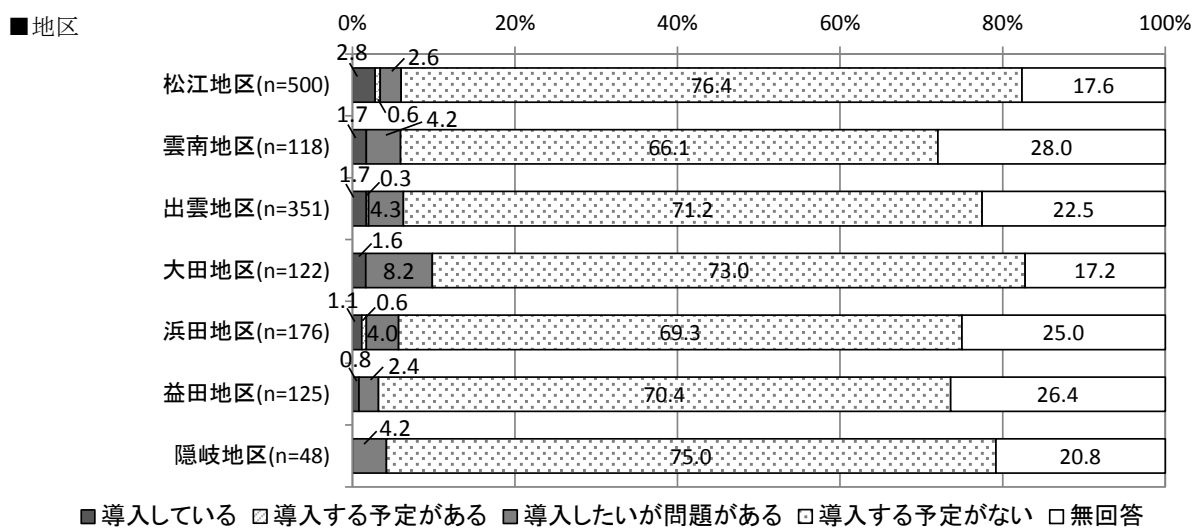
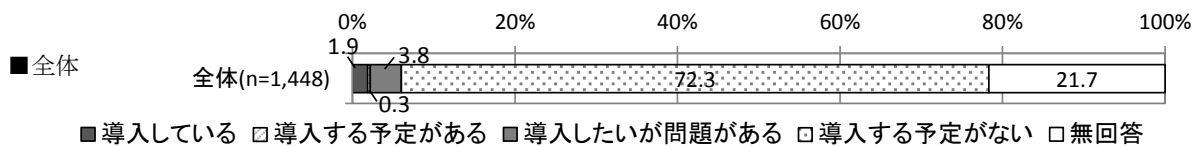
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答

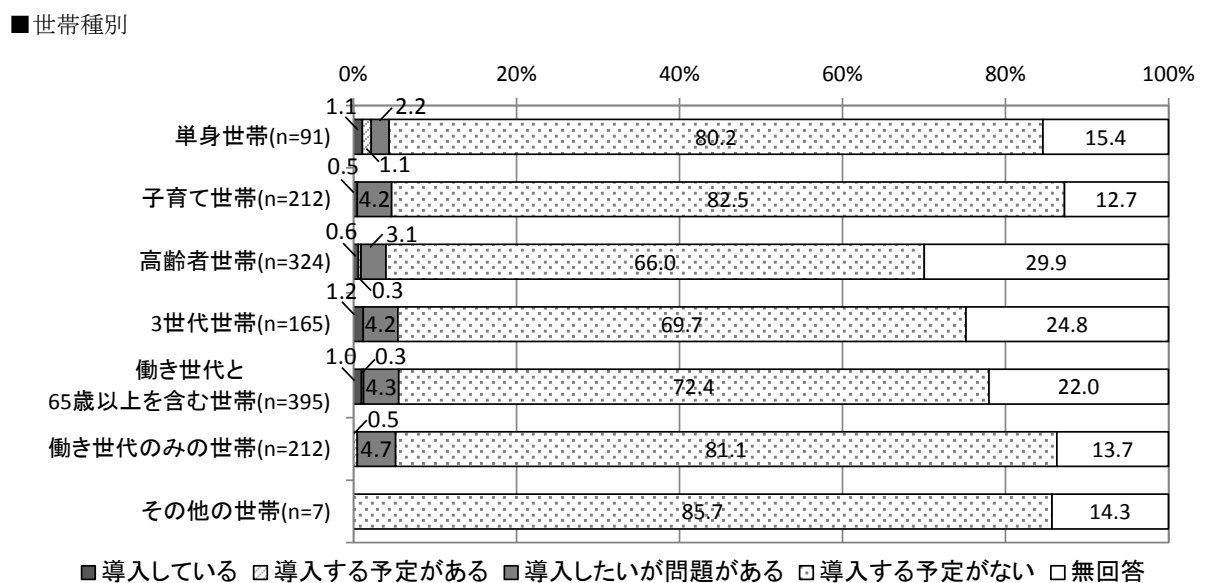
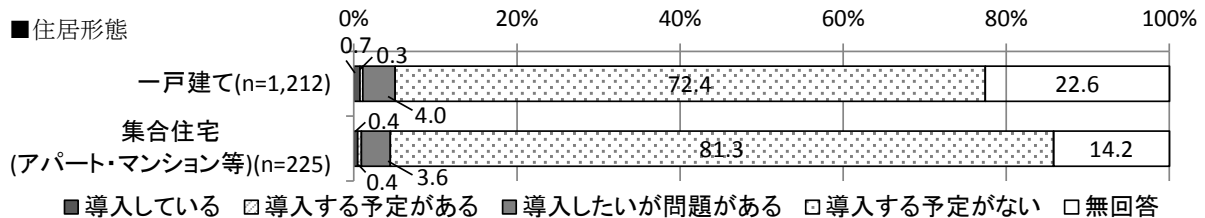
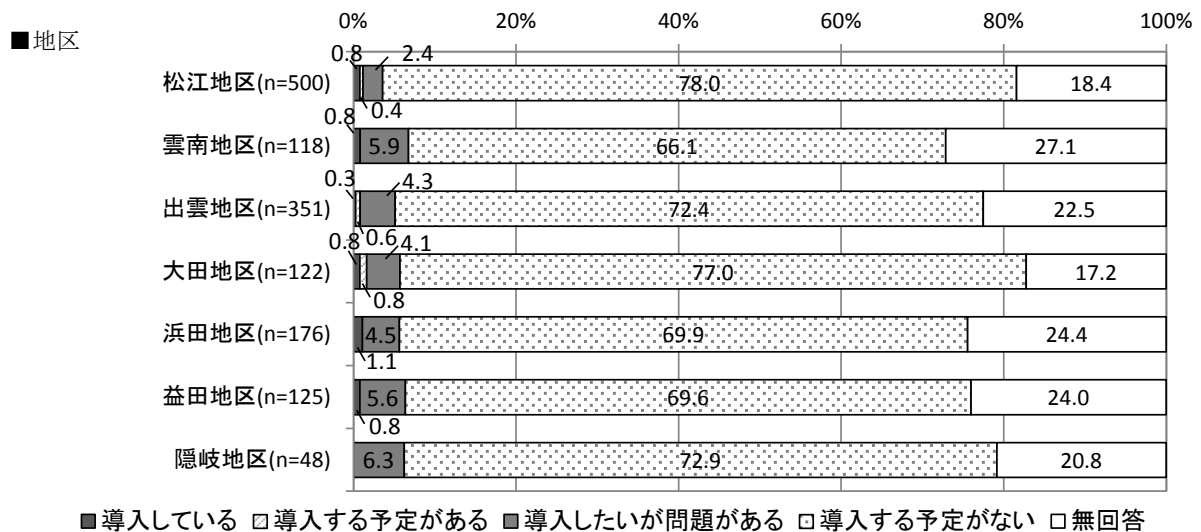
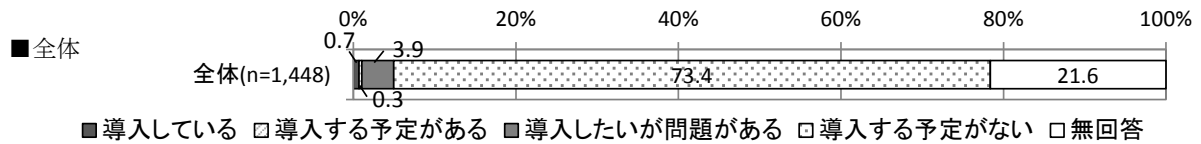
⑥エコウィル（ガスエンジン給湯器）

- ・ 全体の導入割合は 1.9%であった。
- ・ 「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。



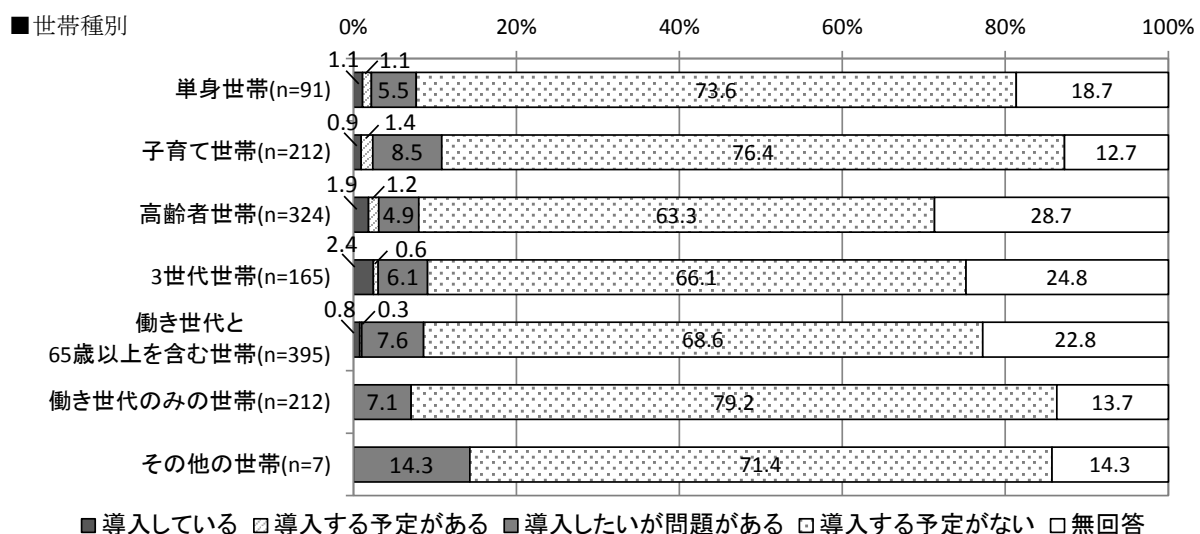
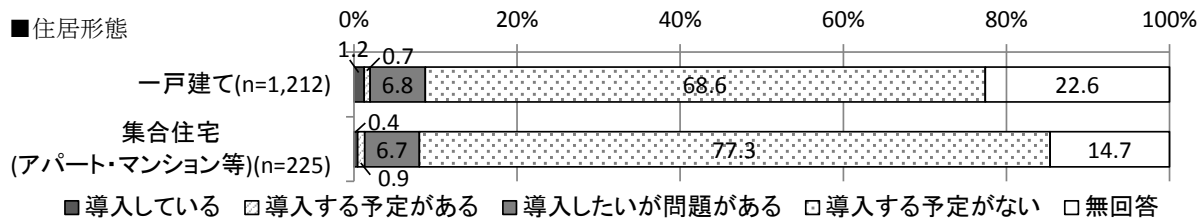
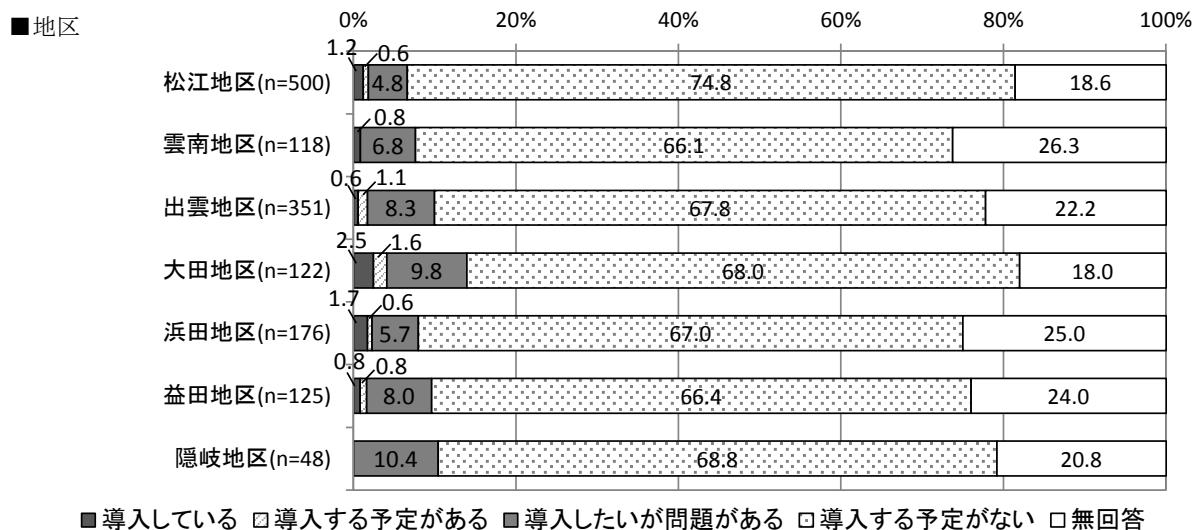
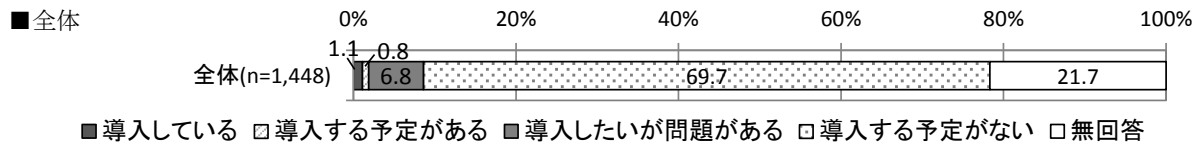
⑦木質バイオマスを利用した給湯設備（薪ボイラー等）

- ・ 全体の導入割合は0.7%であった。
- ・ 「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。



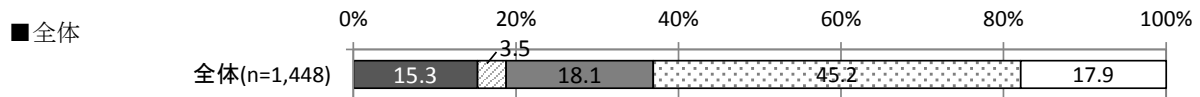
⑧木質バイオマスを利用した暖房設備（薪ストーブ、ペレットストーブ等）

- ・ 全体の導入割合は 1.1%であった。
- ・ 「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。

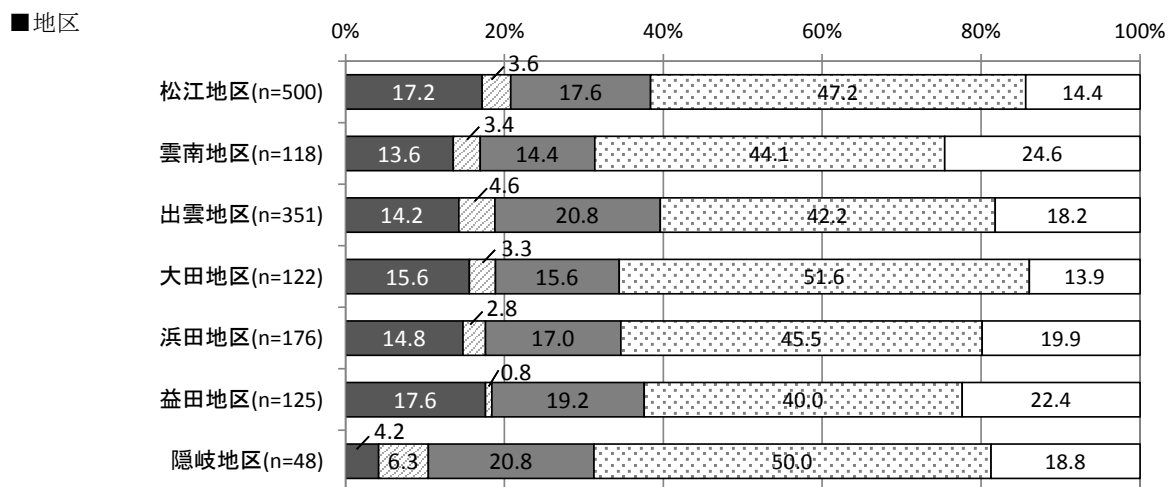


⑨ハイブリッド自動車やプラグインハイブリッド車

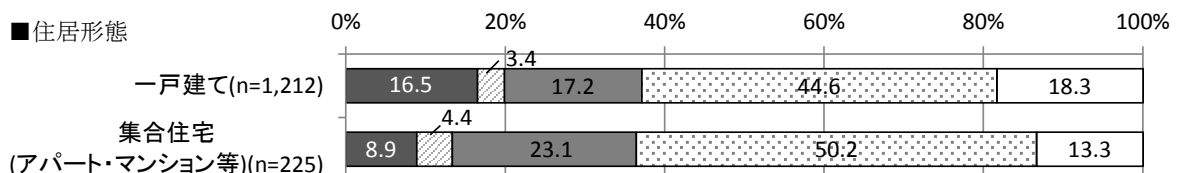
- ・全体の導入割合は15.3%であった。「導入したいが問題がある」が18.1%であり、既に導入されているものと同程度のポテンシャルがあることが分かった。
- ・住居形態別にみると、集合住宅では導入割合が低いが、「導入したいが問題がある」の回答が23.1%ある。プラグインハイブリッド車の場合には、充電設備がない、または不足していることによって導入が進んでいない可能性が考えられる。



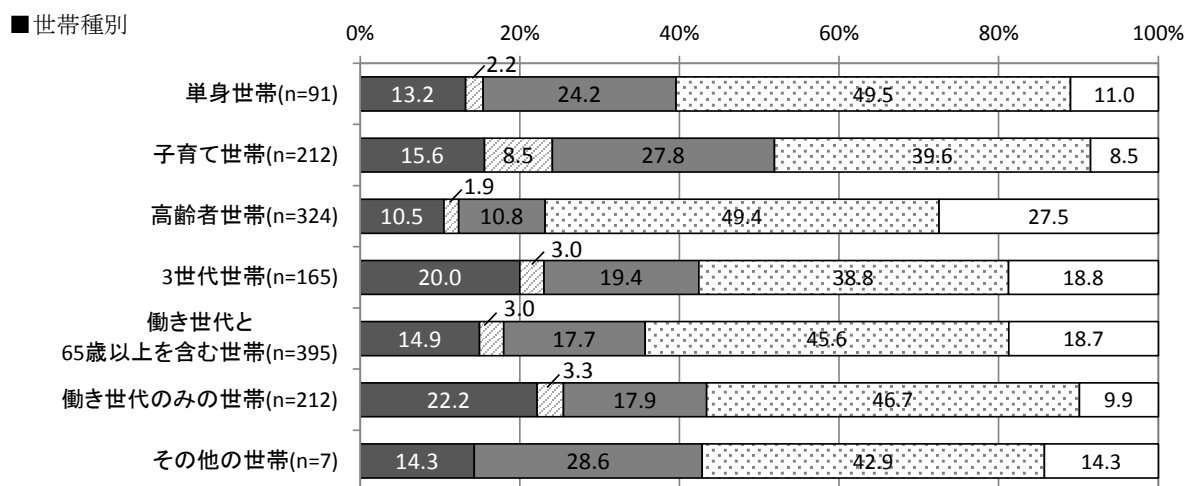
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



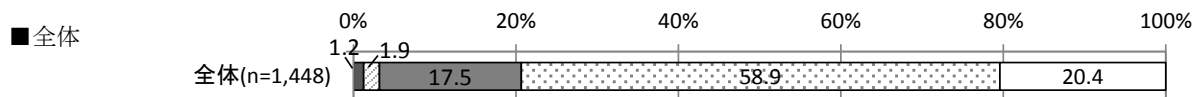
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



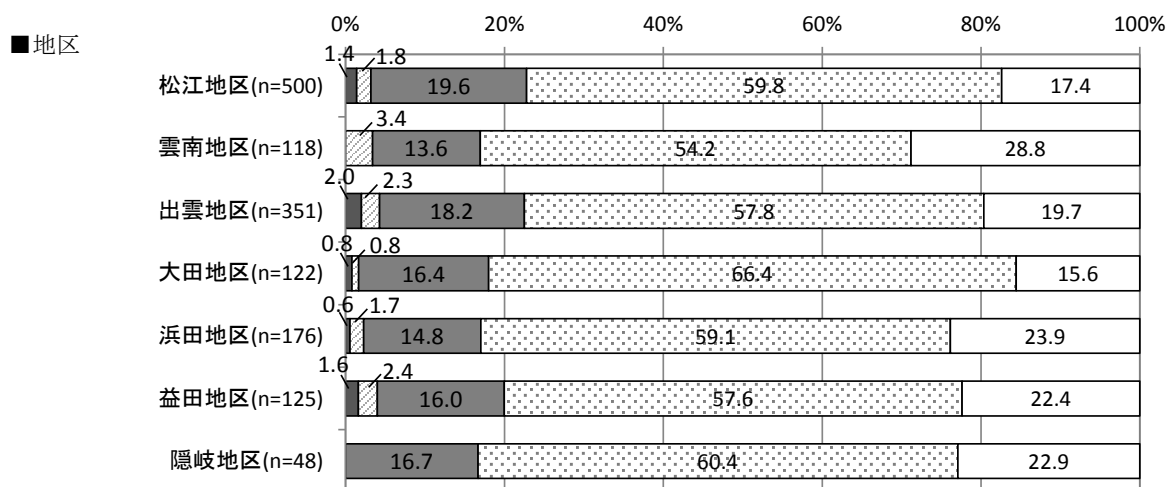
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答

⑩電気自動車

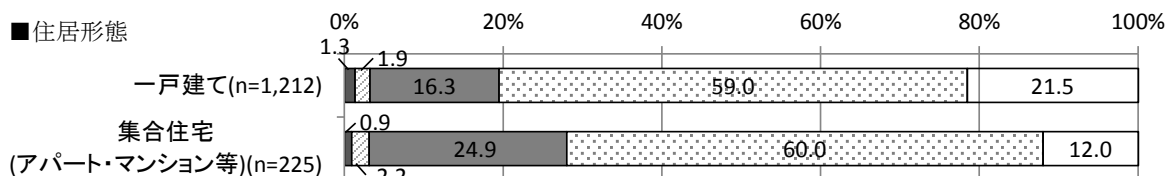
- ・全体の導入割合は 1.2%であったが、「導入したいが問題がある」が 17.5%で一定のポテンシャルがあることが分かった。
- ・住居形態別にみると、集合住宅では導入割合が低いが、「導入したいが問題がある」の回答が 24.9%ある。電気自動車の需要はあるが、充電設備がない、または不足していることによって導入が進んでいない可能性が考えられる。



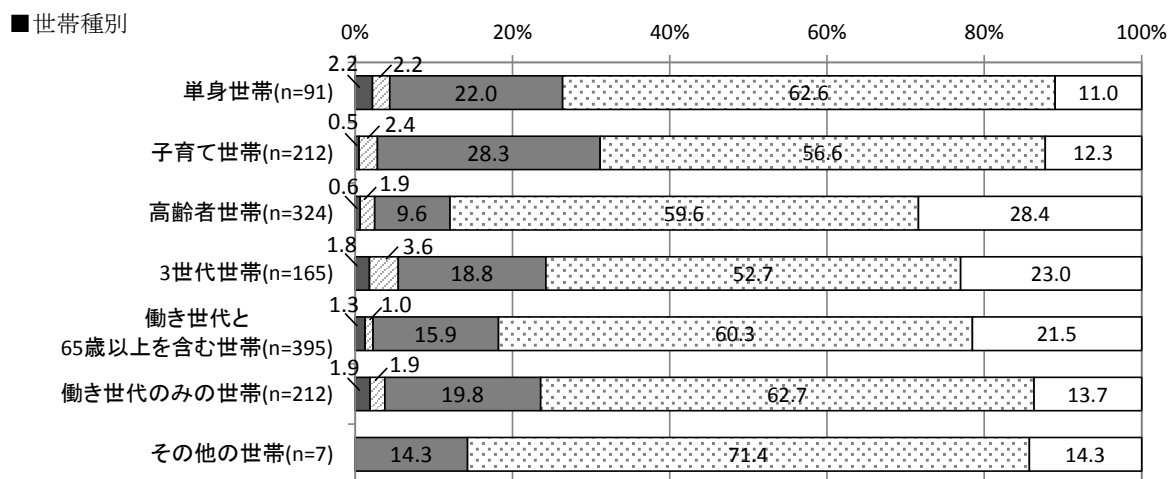
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



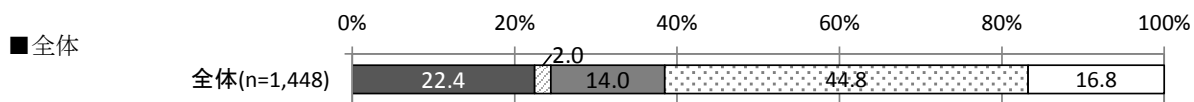
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答



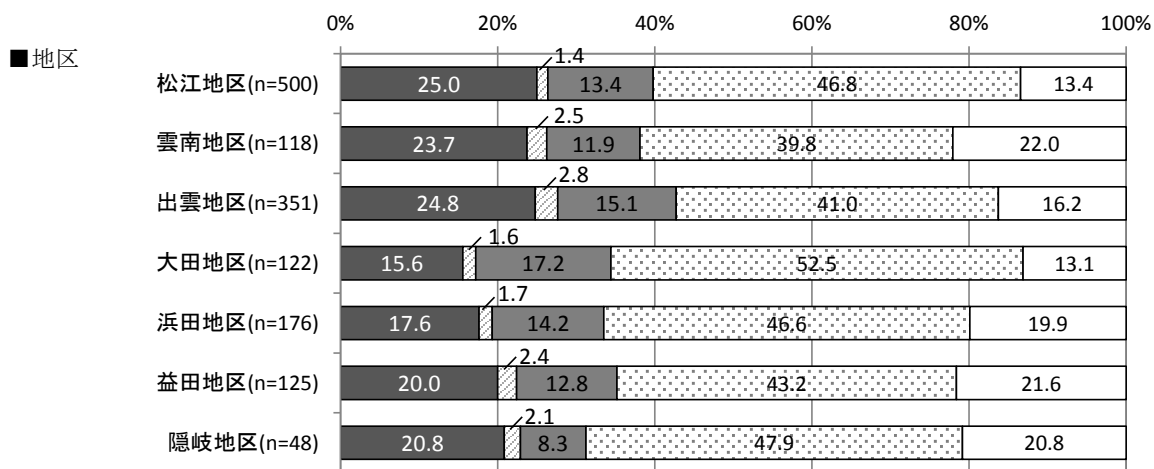
■ 導入している □ 導入する予定がある ■ 導入したいが問題がある □ 導入する予定がない □ 無回答

⑪床、外壁、天井または屋根の断熱材

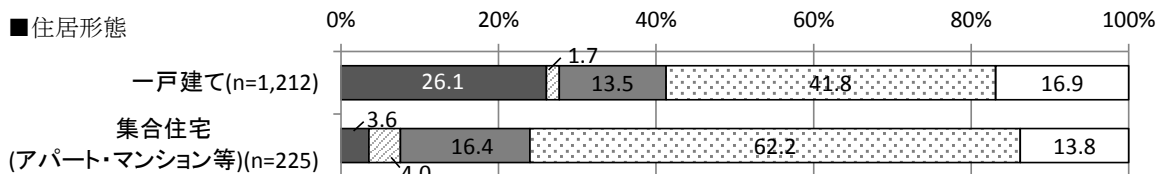
- ・全体の導入割合は22.4%であり、他の設備に比べて導入率は高かった。
- ・地区別にみると、「導入している」の回答割合は、松江地区、雲南地区、出雲地区で高く、大田地区、浜田地区で低い傾向がみられた。
- ・住居形態別にみると、導入割合は一戸建てで26.1%、集合住宅で3.6%と差がみられた。
- ・世帯種別にみると、子育て世帯と3世代世帯で導入割合が高く、単身世帯で導入割合が低い傾向がみられた。



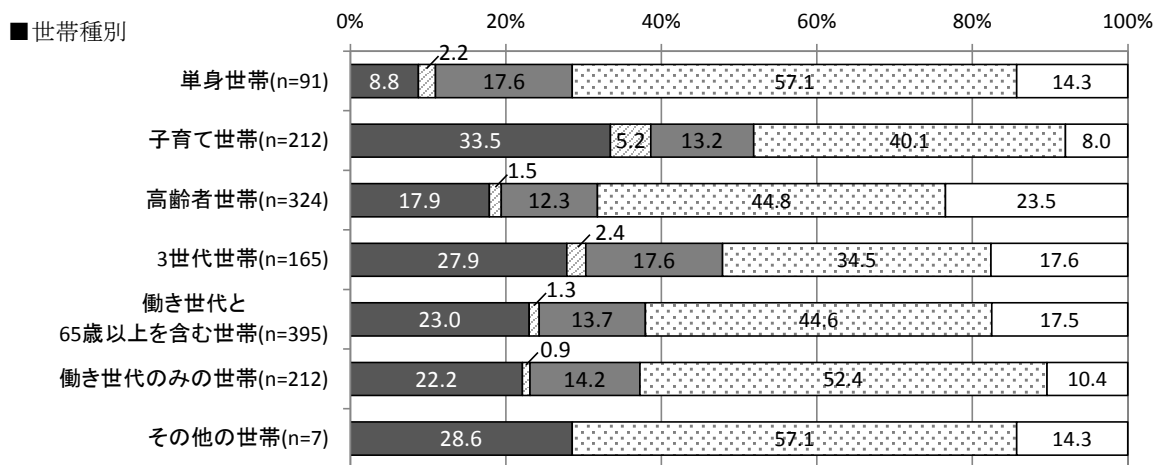
■導入している □導入する予定がある ■導入したいが問題がある □導入する予定がない □無回答



■導入している □導入する予定がある ■導入したいが問題がある □導入する予定がない □無回答



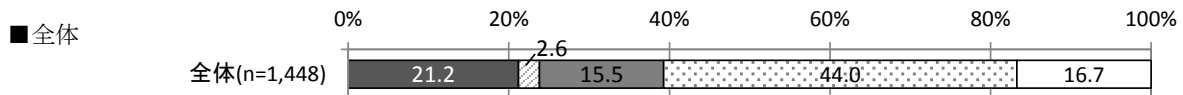
■導入している □導入する予定がある ■導入したいが問題がある □導入する予定がない □無回答



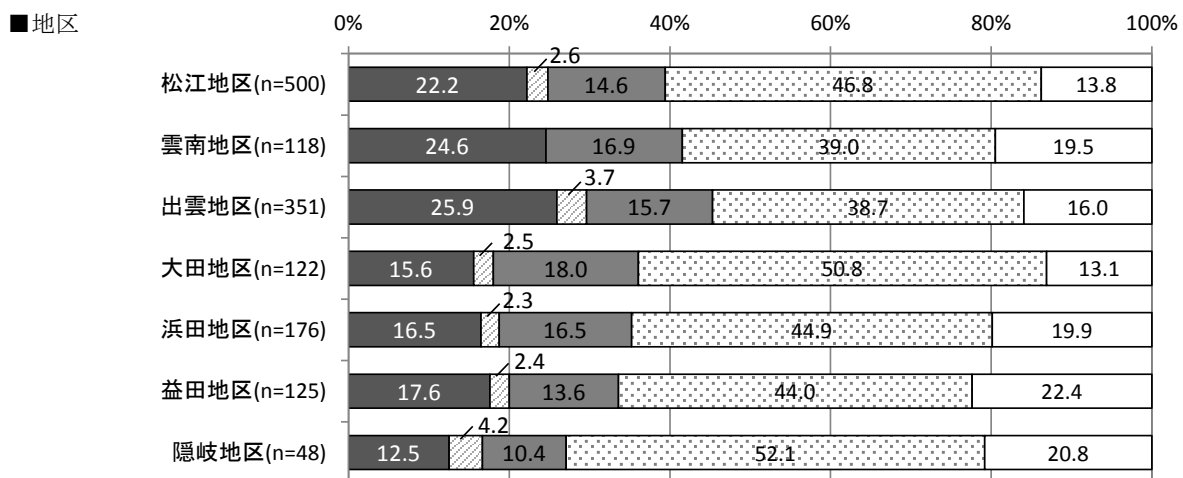
■導入している □導入する予定がある ■導入したいが問題がある □導入する予定がない □無回答

⑫複層ガラスや高断熱サッシ

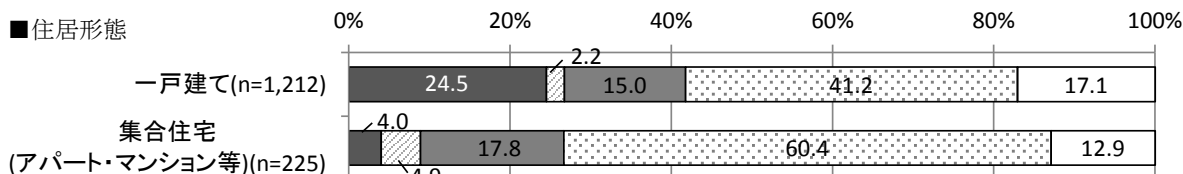
- ・全体の導入割合は21.2%であり、他の設備に比べて導入率は高い。
- ・地区別にみると、「導入している」の回答割合は、松江地区、雲南地区、出雲地区で高く、大田地区、浜田地区、隠岐地区で低い傾向がみられた。
- ・住居形態別にみると、導入割合は一戸建てで24.5%、集合住宅で4.0%と差がみられた。
- ・世帯種別にみると、子育て世帯と3世代世帯で導入割合が高い傾向がみられた。



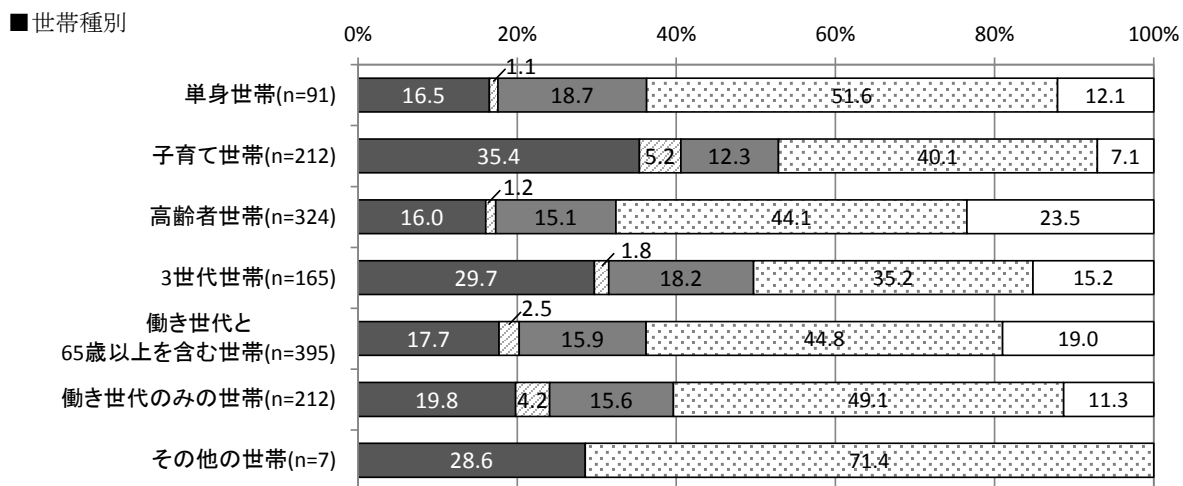
■導入している □導入する予定がある ■導入したいが問題がある □導入する予定がない □無回答



■導入している □導入する予定がある ■導入したいが問題がある □導入する予定がない □無回答



■導入している □導入する予定がある ■導入したいが問題がある □導入する予定がない □無回答

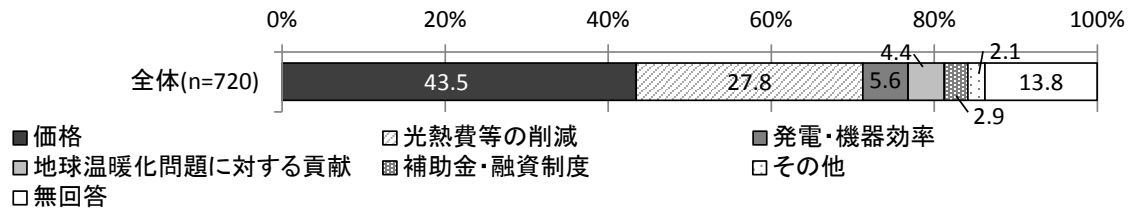


■導入している □導入する予定がある ■導入したいが問題がある □導入する予定がない □無回答

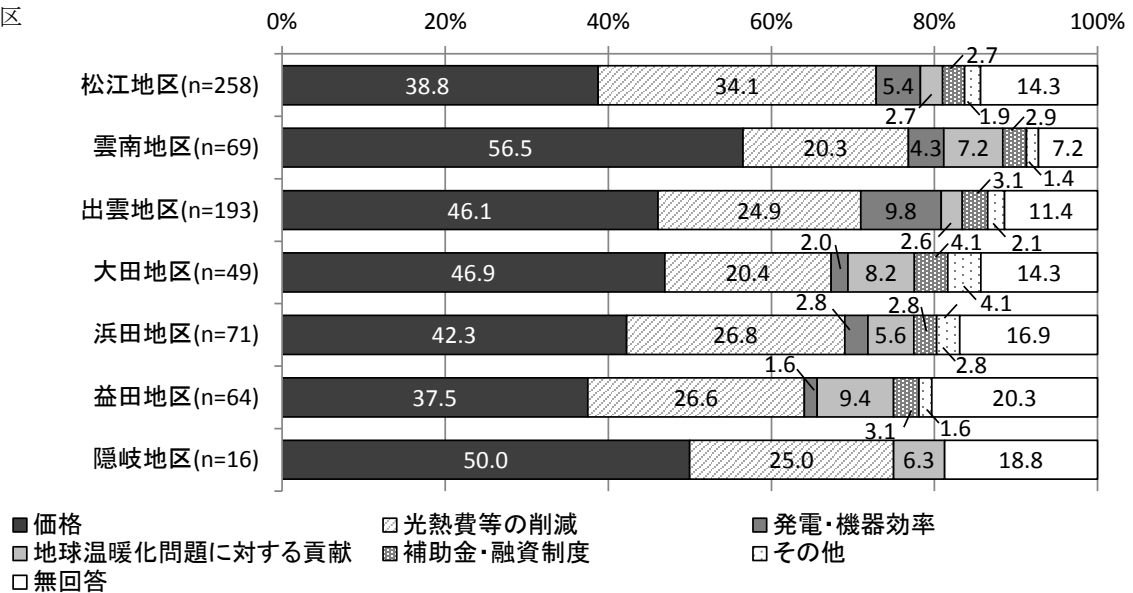
(4) 設備等を導入した際に重視したもの、もしくは導入する際に重視するもの（※1番目に重視したもの、重視するもの）

- ・全体の傾向として、主に「価格」と「光熱費等の軽減」が重視されていた。
- ・世帯種別にみると、高齢者世帯では、他の世帯よりも「価格」を重視する傾向は低かった。

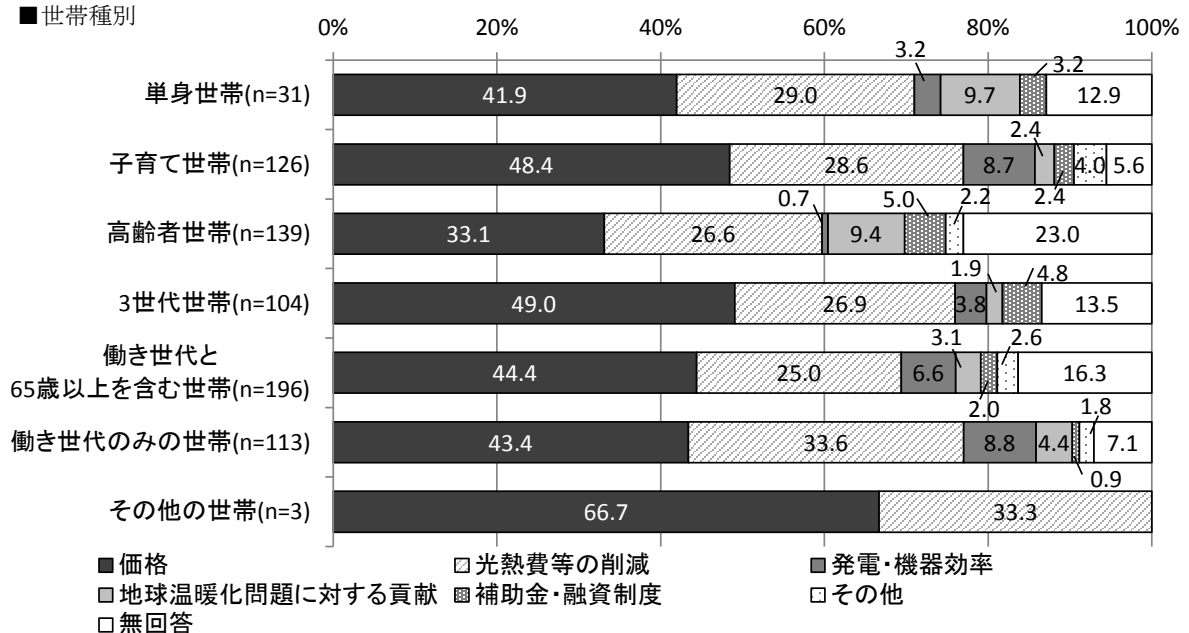
■全体



■地区



■世帯種別



(5) 設備等を導入する上で問題となっているもの

- ・全体の傾向として、「価格が高い」が導入する上での主な問題となっていることが分かった。
- ・地区別にみると、大田地区や雲南地区で「補助金・融資制度が不十分」と考えている回答が多かった。

■全体 (%)

	価格が高い	発電・機器効率が悪い	補助金・融資制度が不十分	環境に対する効果が疑問	光熱費等の削減の見通しがたたない	導入の仕方がわからない	家屋が古いため導入できる環境でない	集合住宅や賃貸住宅であるため導入できる環境でない	その他の理由で導入できる環境でない	興味が無い	その他	無回答
全体(n=1,242)	60.1	8.2	22.4	7.3	9.4	8.9	22.6	14.7	3.4	9.3	7.4	10.3

■地区 (%)

	価格が高い	発電・機器効率が悪い	補助金・融資制度が不十分	環境に対する効果が疑問	光熱費等の削減の見通しがたたない	導入の仕方がわからない	家屋が古いため導入できる環境でない	集合住宅や賃貸住宅であるため導入できる環境でない	その他の理由で導入できる環境でない	興味が無い	その他	無回答
松江地区(n=441)	60.1	8.4	19.7	7.5	8.6	7.7	20.9	18.4	3.4	8.8	8.2	9.1
雲南地区(n=93)	64.5	8.6	28.0	8.6	11.8	8.6	24.7	1.1	5.4	9.7	9.7	15.1
出雲地区(n=304)	62.2	8.6	25.3	9.5	11.8	11.2	22.7	13.2	3.0	10.9	6.6	7.6
大田地区(n=107)	65.4	7.5	29.0	6.5	9.3	9.3	30.8	7.5	3.7	9.3	5.6	9.3
浜田地区(n=146)	56.8	10.3	20.5	6.8	9.6	8.9	21.9	19.9	3.4	8.9	6.2	13.0
益田地区(n=107)	51.4	4.7	16.8	2.8	6.5	3.7	19.6	15.9	3.7	8.4	7.5	15.9
隠岐地区(n=41)	51.2	7.3	17.1	2.4	2.4	14.6	26.8	14.6	0.0	4.9	9.8	12.2

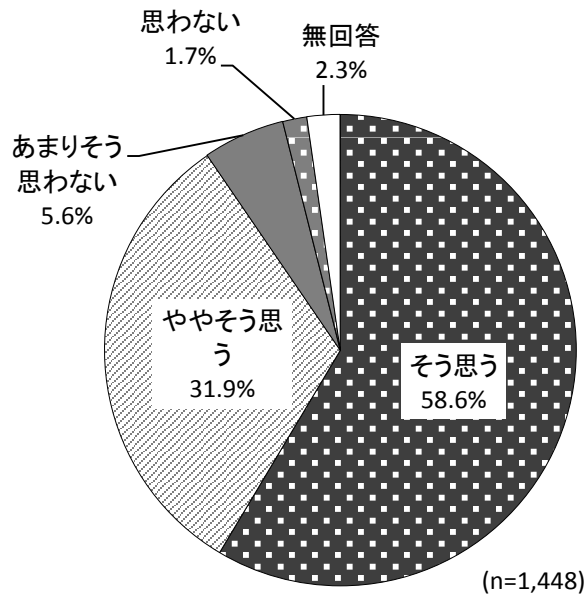
■世帯種別 (%)

	価格が高い	発電・機器効率が悪い	補助金・融資制度が不十分	環境に対する効果が疑問	光熱費等の削減の見通しがたたない	導入の仕方がわからない	家屋が古いため導入できる環境でない	集合住宅や賃貸住宅であるため導入できる環境でない	その他の理由で導入できる環境でない	興味が無い	その他	無回答
単身世帯(n=82)	51.2	6.1	12.2	1.2	13.4	9.8	15.9	43.9	1.2	8.5	0.0	6.1
子育て世帯(n=196)	64.8	6.6	23.0	8.2	9.7	13.3	10.2	31.6	2.0	8.7	2.6	5.1
高齢者世帯(n=259)	47.9	7.7	19.3	4.6	8.1	7.7	32.8	4.6	3.9	5.0	12.7	14.7
3世代世帯(n=138)	68.1	11.6	28.3	7.2	9.4	7.2	21.0	0.0	3.6	13.8	10.1	12.3
働き世代と65歳以上を含む世帯(n=338)	66.3	8.9	25.1	11.2	12.1	8.3	27.5	3.8	3.8	8.9	7.1	12.7
働き世代のみの世帯(n=193)	60.6	7.3	21.8	6.7	5.2	7.3	19.2	25.4	2.6	12.4	5.2	6.7
その他の世帯(n=7)	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3

2-1-3. 再生可能エネルギーへの意識

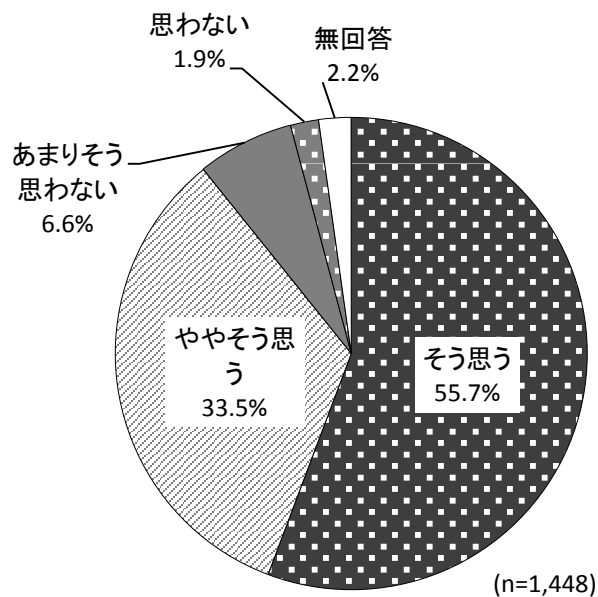
(1) 日本国内に再生可能エネルギーを導入していくことは大切か

- ・ 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて 90.5%となり、県民の多くが、日本国内への再生可能エネルギーの導入について大切だと考えていることが分かった。



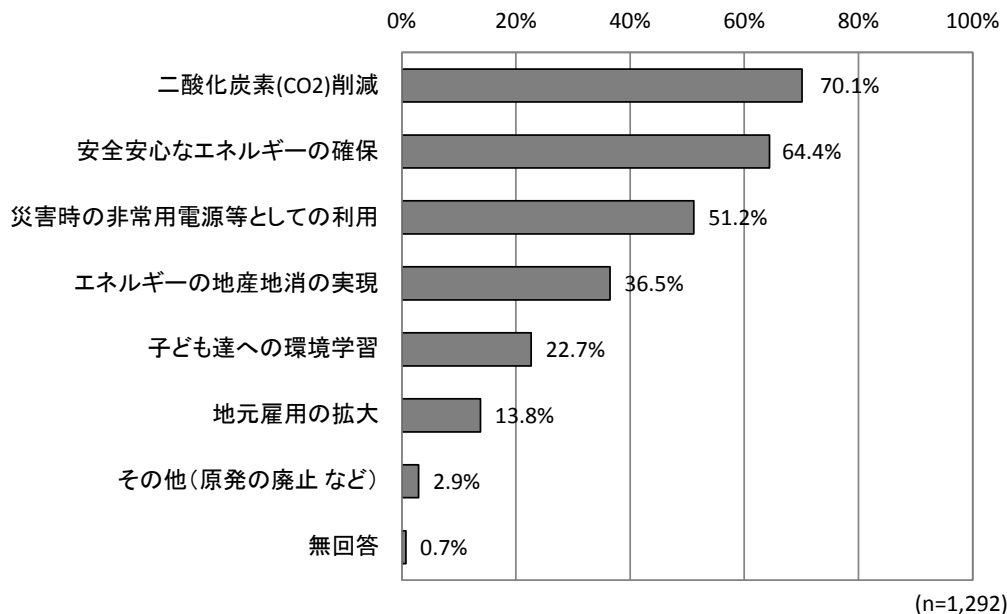
(2) 島根県内に再生可能エネルギーを導入していくことは大切か

- ・ 「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて 89.2%となり、県民の多くが、島根県内への再生可能エネルギーの導入について大切だと考えていることが分かった。



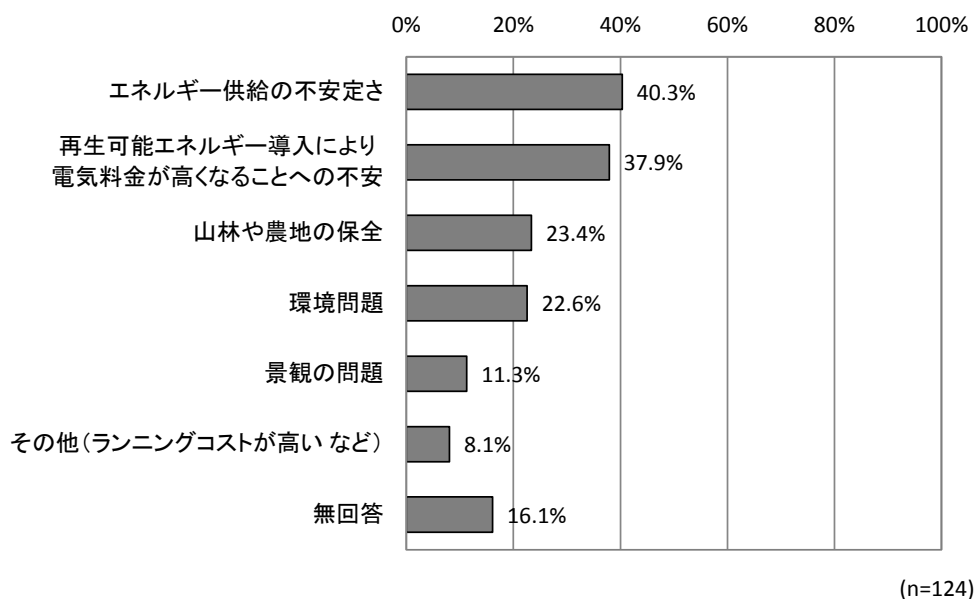
(3) 再生可能エネルギーが普及することによって期待する効果

- ・ 期待する効果としては「二酸化炭素(CO2)削減」、「安全安心なエネルギーの確保」、「災害時の非常用電源としての利用」の回答が多く、温暖化対策やエネルギーの安全性についての県民の期待が高いことが分かった。
- ・ 「地元雇用の拡大」や「子ども達への環境学習」の回答は相対的に少なかった。



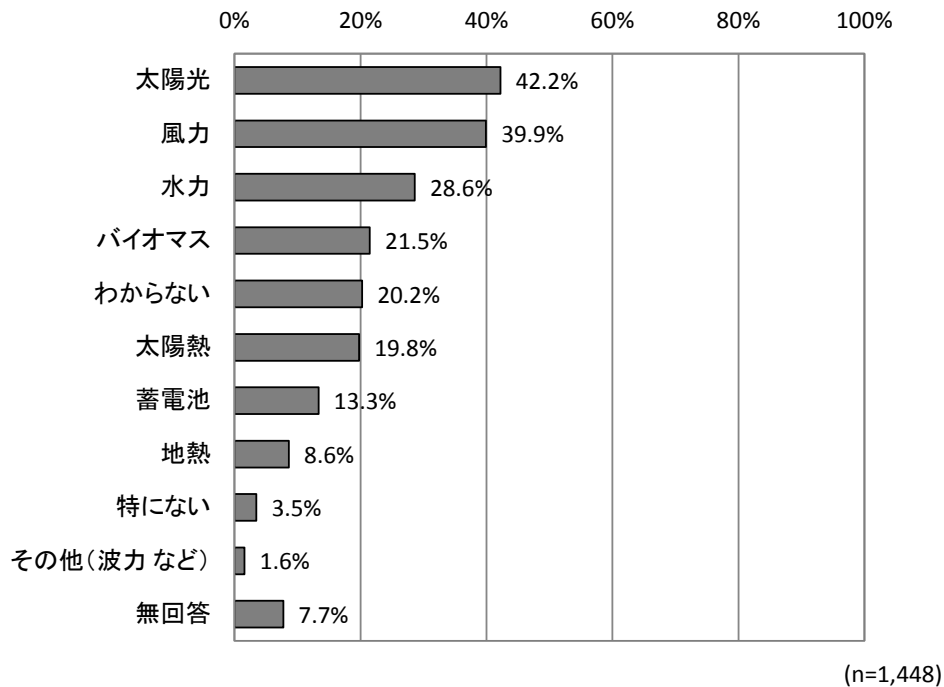
(4) 島根県に再生可能エネルギーを導入していくことは大切だと思いますか、の設問に対して「あまりそう思わない」または「思わない」と考えた理由

- ・ 島根県内に再生可能エネルギーを導入することは大切だと思いますか、の設問に対して「あまりそう思わない」または「思わない」と回答した県民は少なかったが、大切だと思わない主な理由として、「エネルギー供給の不安定さ」や「再生可能エネルギー導入により電気料金が高くなることへの不安」が挙げられた。



(5) 島根県として導入を推進する必要があると思われる再生可能エネルギー

- 島根県への導入推進が必要だと思われる再生可能エネルギーは、「太陽光」と「風力」が多く、4割程度であった。続いて「水力」が3割程度、「バイオマス」と「太陽熱」が2割程度であった。



2-1-4. 家庭における省エネルギーの取組

現行の「再生可能エネルギー及び省エネルギーの推進に関する基本計画（平成 27 年 9 月）」では、平成 26 年度に実施した省エネルギー行動実態調査（県民アンケート）の結果をもとに各項目の行動レベルを A、B、C に仕分けし、重点的に普及啓発に取り組むべき具体的な行動を「省エネ行動目標」として設定している。

【省エネ行動目標】

ア、行動項目ごとに、行動レベル（注）を A、B、C に仕分け

A:80%以上

B:40%～80%未満

C:40%未満

（注：「はい」及び「時々」と回答のあった世帯の割合を行動レベルとして算出）

イ、行動レベルが低いものは引き上げ、すでに行動レベルが高いものは現状維持

ウ、「単身世帯」「高齢者世帯」「子育て世帯」について、特に行動を促進する行動項目を設定

本調査では、省エネ行動目標を踏まえ、省エネ行動の経年変化を把握するため、前回（平成 26 年度）の調査項目と同一項目を調査することを基本とし、項目の追加やわかりやすい設問に修正するなど一部見直しを行って実施した。

■本調査での省エネ行動項目 51 項目

- (1) キッチン（台所）における取組……10 項目（修正 1）
- (2) 居室における取組………21 項目（追加 2、修正 1）
- (3) バス・トイレにおける取組………9 項目（修正 1）
- (4) 自動車などでの取組………8 項目
- (5) 買い物での取組………3 項目

■家庭における省エネルギーの取組

	H26 (n=743)		H30 (n=1,448)		取組割合の 増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動レベル	取組割合 (%)	行動レベル	
1) キッチン(台所)で					
1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く	41.7	B	39.8	C	-1.9
2.あまったご飯を炊飯ジャーで長時間保温しない	75.2	B	76.8	B	1.6
3.食器洗いは水または低い温度のお湯でする	76.2	B	78.2	B	2.0
4.食器洗い乾燥機を使用するときはまとめて洗いをする	40.9	B	42.5	B	1.6
5.冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置している	88.2	A	80.8	A	-7.4
6.冷蔵庫に食材を詰め込みすぎない	87.8	A	83.4	A	-4.4
7.冷蔵庫を開けている時間を短くする	94.1	A	89.6	A	-4.4
8.冬場は冷蔵庫の冷蔵強度を弱くする	51.8	B	51.6	B	-0.2
9.ガスコンロの炎がなべ底からはみ出ないように調節する	62.4	B	58.8	B	-3.7
10.ブロッコリーやカボチャなどの野菜の下ゆでは電子レンジを活用する ^{※1)}	32.0	C	49.8	B	(+17.8)
2) 居室で					
1.テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組や時間を決めて見る ^{※2)}	41.3	B	74.7	B	(+33.4)
2.テレビを見ない時は主電源をOFFにする	44.3	B	38.8	C	-5.5
3.テレビの画面は明るすぎないようにする	56.9	B	53.9	B	-3.1
4.パソコンを使わないときは電源を切る	54.2	B	64.6	B	10.3
5.パソコンの電源オプションの見直しをする	26.4	C	28.5	C	2.1
6.電気カーペットの設定温度を低めにする	43.7	B	38.3	C	-5.5
7.電気カーペットは広さにあった大きさにする	42.4	B	38.9	C	-3.5
8.冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する	66.6	B	70.6	B	4.0
9.夏の冷房時の室温は28℃を目安にする	65.3	B	62.8	B	-2.5
10.冷房は必要な時だけつける	86.5	A	86.5	A	0.0
11.エアコンのフィルターをこまめに掃除する(月に1回か2回)	69.2	B	57.1	B	-12.1
12.エアコンはサーキュレーターや扇風機と併用して使う	未実施	—	68.8	B	—
13.クールシェアやウォームシェアに心がけている	未実施	—	65.8	B	—
14.冬の暖房の室温は20℃を目安にする	60.3	B	52.6	B	-7.7
15.暖房は必要な時だけつける	90.2	A	88.1	A	-2.1
16.石油ファンヒーターは20℃以下(目安)に設定する	50.5	B	43.9	B	-6.5
17.利用していない部屋の照明はこまめに消す	96.5	A	94.0	A	-2.5
18.コタツの温度設定を低めにする	73.2	B	63.0	B	-10.2
19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う	74.0	B	66.0	B	-8.1
20.掃除機のフィルターをこまめに掃除する	83.6	A	80.5	A	-3.1
21.部屋を片付けてから掃除機をかける	92.2	A	88.7	A	-3.5
3) バス・トイレで					
1.お風呂は家族で間隔を開けずに入る	62.6	B	69.5	B	6.9
2.シャワーは不必要に流したままにしない ^{※3)}	30.7	C	88.0	A	(+57.3)
3.風呂の残り湯を洗濯に使用する	56.5	B	47.4	B	-9.1
4.洗濯は洗濯機の容量の80%程度でまとめて洗う	79.8	B	77.3	B	-2.5
5.衣類乾燥機はまとめて乾燥し、回数を減らす	30.4	C	35.4	C	4.9
6.天気のよい時は衣類乾燥機を使わない	47.9	B	52.4	B	4.5
7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する	62.7	B	63.6	B	0.9
8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する	71.1	B	70.4	B	-0.7
9.便座暖房を使わない時はふたを閉める	70.5	B	72.2	B	1.6
4) 自動車などで					
1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない	68.4	B	79.4	B	11.0
2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない	79.3	B	80.0	B	0.7
3.急発進、急加速をしない	85.6	A	88.7	A	3.1
4.早めのアクセルオフをしている	80.5	A	84.9	A	4.4
5.タイヤの空気圧を適正にする	84.9	A	85.3	A	0.4
6.1週間に1回マイカーの利用を控える	29.6	C	29.4	C	-0.2
7.近いところへは自転車または徒歩で行く	61.4	B	55.7	B	-5.6
8.上下3階はエレベーターを使わず階段を使う	45.0	B	47.8	B	2.8
5) 買い物で					
1.買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ	86.3	A	85.9	A	-0.4
2.食材はなるべく旬の食材を調達する	87.6	A	89.2	A	1.5
3.使いきれない量・数で販売しているものは買わない	88.4	A	90.0	A	1.6

※1) H26の設問:「野菜の下ゆでは電子レンジを活用する」

※2) H26の設問:「テレビ番組を選び、1日1時間テレビの利用時間を減らす」

※3) H26の設問:「シャワーを1日1分家族全員が減らす」

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

(1) キッチン（台所）における取組

- 取組割合の全体の経年変化に大きな傾向はみられなかった。
- 「1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く」の行動レベルは B から C となっているが、取組割合の減少は 1.9 ポイントであり、取組状況に大きな変化はないといえる。
- 「10.ブロッコリーやカボチャなどの野菜の下ゆでには電子レンジを活用する」の取組割合は、17.8 ポイント増加し、行動レベルが C から B となっているが、H26 の設問よりも具体的な設問になったことが影響していると考えられる。
- 「該当しない・機器がない」の割合が 20%を超えている取組（電気ポット、食器洗い乾燥機、ガスコンロに関するもの）については、行動レベルを A にすることは難しいと考えられる。

■全体	H26 (n=743)		H30 (n=1,448)			取組割合の増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動レベル	取組割合 (%)	行動レベル	「該当しない・機器がない」の割合 (%)	
1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く	41.7	B	39.8	C	26.6	-1.9
2.あまったご飯を炊飯ジャーで長時間保温しない	75.2	B	76.8	B	3.0	1.6
3.食器洗いは水または低い温度のお湯でする	76.2	B	78.2	B	5.2	2.0
4.食器洗い乾燥機を使用するときはまとめ洗いをする	40.9	B	42.5	B	43.3	1.6
5.冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置している	88.2	A	80.8	A	0.8	-7.4
6.冷蔵庫に食材を詰め込みすぎない	87.8	A	83.4	A	0.6	-4.4
7.冷蔵庫を開けている時間を短くする	94.1	A	89.6	A	0.4	-4.4
8.冬場は冷蔵庫の冷蔵強度を弱くする	51.8	B	51.6	B	0.8	-0.2
9.ガスコンロの炎がなべ底からはみ出ないように調節する	62.4	B	58.8	B	28.2	-3.7
10.ブロッコリーやカボチャなどの野菜の下ゆでには電子レンジを活用する ^{※)}	32.0	C	49.8	B	2.8	(+17.8)

※) H26の設問:「野菜の下ゆでには電子レンジを活用する」

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

■地区	松江地区 (n=500)	雲南地区 (n=118)	出雲地区 (n=351)	大田地区 (n=122)	浜田地区 (n=176)	益田地区 (n=125)	隠岐地区 (n=48)
注) 各地区の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。							
1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く	-3.0	8.5	-2.2	2.8	10.2	-6.2	1.9
2.あまったご飯を炊飯ジャーで長時間保温しない	1.0	-6.5	0.4	-6.3	4.5	-0.8	6.5
3.食器洗いは水または低い温度のお湯でする	2.8	-10.4	0.7	-1.9	-2.0	1.8	3.1
4.食器洗い乾燥機を使用するときはまとめ洗いをする	-0.1	1.5	0.8	-3.2	4.0	1.5	11.3
5.冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置している	-1.8	2.2	2.7	-0.5	-1.3	0.0	4.6
6.冷蔵庫に食材を詰め込みすぎない	0.6	-4.5	-2.7	-0.6	8.7	-1.8	0.0
7.冷蔵庫を開けている時間を短くする	1.8	-1.5	-1.9	0.5	1.3	0.0	-2.1
8.冬場は冷蔵庫の冷蔵強度を弱くする	4.4	2.6	-5.4	-8.1	2.4	-2.8	8.8
9.ガスコンロの炎がなべ底からはみ出ないように調節する	-2.4	-4.5	-4.1	10.1	9.4	-0.4	7.9
10.ブロッコリーやカボチャなどの野菜の下ゆでには電子レンジを活用する	0.8	-4.0	2.3	-10.4	2.5	-0.2	6.5

- ・ 世帯種別にみると、子育て世帯の「1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く」について、全体と比べて10.1ポイント低かった。その項目について、他の選択肢の回答割合をみると、「該当しない・機器がない」が12.6ポイントとなっており、電気ポットを持たない子育て世帯が多いことが、取組割合の低さに影響していると考えられる。

■世帯種別 注) 各世帯種別の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。	特に行動を促進する対象世帯 (単: 単身世帯 子: 子育て世帯 高: 高齢者世帯)	単身世帯 (n=91)	子育て世帯 (n=212)	高齢者世帯 (n=324)	3世代世帯 (n=165)	働き世代と65歳以上を含む世帯 (n=395)	働き世代のみの世帯 (n=212)
1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く	子	6.4	-10.1	3.7	-5.8	1.7	-3.5
2.あまったご飯を炊飯ジャーで長時間保温しない		0.1	4.8	0.7	-6.5	-3.4	6.7
3.食器洗いは水または低い温度のお湯でする	単・子	-2.4	4.4	1.1	-3.0	-2.0	2.5
4.食器洗い乾燥機を使用するときはまとめて洗いをする		-4.1	7.5	-6.7	10.2	0.5	-1.5
5.冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置している	子	-3.9	-4.4	5.0	-4.4	0.0	3.6
6.冷蔵庫に食材を詰め込みすぎない	子	1.3	2.0	1.2	-8.8	-1.1	5.8
7.冷蔵庫を開けている時間を短くする	子	0.5	1.4	0.2	0.1	-1.0	2.3
8.冬場は冷蔵庫の冷蔵強度を弱くする	子	3.4	-3.9	4.6	-6.1	-2.0	3.1
9.ガスコンロの炎がなべ底からはみ出ないように調節する	子	0.6	-4.5	2.6	-7.3	1.5	1.6
10.ブロッコリーやカボチャなどの野菜の下ゆでは電子レンジを活用する	単・子・高	0.8	14.3	-6.0	1.1	-6.8	3.2

■世帯種別（上表）において、特に行動を促進する対象世帯での取組割合が大きくマイナスになった項目

■子育て世帯 注) 子育て世帯での各割合から、全体の割合を引いたポイントを表示	（上表）		（他の選択肢の回答割合）		
	取組割合 （「はい」「時々」）		「いいえ」 の割合	「該当しない・機器 がない」の割合	無回答
1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く	-10.1	2.6	12.6	-5.1	

(2) 居室における取組

- 平成 26 年度調査結果と比べて全体的に取組割合は減少傾向にあった。
- 「2.テレビを見ないときは主電源を OFF にする」、「6.電気カーペットの設定温度を低めにする」、「7.電気カーペットは広さにあった大きさにする」の行動レベルが B から C となったが、いずれも取組割合の減少は小さく、取組状況に大きな変化はないといえる。
- 「1.テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組や時間を決めて見る」の取組割合は、33.4 ポイント増加しているが、平成 26 年度の調査と設問内容が変わっていることが影響していると考えられる。
- 「4.パソコンを使わないときは電源を切る」は取組改善の傾向がみられた(10.3 ポイント増)。
- 「11.エアコンのフィルターをこまめに掃除する」と「18.コタツの温度設定を低めにする」は取組割合がそれぞれ、12.1 ポイント、10.2 ポイント低下した。
- 「該当しない・機器がない」の割合が 20%を超えている取組（パソコン、電気カーペット、石油ファンヒーター、コタツに関するもの）については、行動レベルを A にすることは難しいと考えられる。

■全体	H26 (n=743)		H30 (n=1,448)			取組割合の 増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動 レベル	取組割合 (%)	行動 レベル	「該当しない・ 機器がない」 の割合 (%)	
1.テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組や時間を決めて見る ^{※)}	41.3	B	74.7	B	1.2	(+33.4)
2.テレビを見ない時は主電源をOFFにする	44.3	B	38.8	C	1.3	-5.5
3.テレビの画面は明るすぎないようにする	56.9	B	53.9	B	2.8	-3.1
4.パソコンを使わないときは電源を切る	54.2	B	64.6	B	21.3	10.3
5.パソコンの電源オプションの見直しをする	26.4	C	28.5	C	24.1	2.1
6.電気カーペットの設定温度を低めにする	43.7	B	38.3	C	51.2	-5.5
7.電気カーペットは広さにあった大きさにする	42.4	B	38.9	C	51.2	-3.5
8.冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する	66.6	B	70.6	B	4.8	4.0
9.夏の冷房時の室温は28℃を目安にする	65.3	B	62.8	B	4.0	-2.5
10.冷房は必要な時だけつける	86.5	A	86.5	A	3.7	0.0
11.エアコンのフィルターをこまめに掃除する(月に1回か2回)	69.2	B	57.1	B	4.3	-12.1
12.エアコンはサーキュレーターや扇風機と併用して使う	未実施	—	68.8	B	5.1	—
13.クールシェアやウォームシェアに心がけている	未実施	—	65.8	B	5.5	—
14.冬の暖房の室温は20℃を目安にする	60.3	B	52.6	B	4.5	-7.7
15.暖房は必要な時だけつける	90.2	A	88.1	A	2.0	-2.1
16.石油ファンヒーターは20℃以下(目安)に設定する	50.5	B	43.9	B	28.2	-6.5
17.利用していない部屋の照明はこまめに消す	96.5	A	94.0	A	0.7	-2.5
18.コタツの温度設定を低めにする	73.2	B	63.0	B	24.6	-10.2
19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う	74.0	B	66.0	B	24.1	-8.1
20.掃除機のフィルターをこまめに掃除する	83.6	A	80.5	A	1.6	-3.1
21.部屋を片付けてから掃除機をかける	92.2	A	88.7	A	0.6	-3.5

※) H26の設問:「テレビ番組を選び、1日1時間テレビの利用時間を減らす」

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

- ・ 地区別にみると、大田地区では 21 項目中、18 項目がマイナスポイントとなっており、他の地区に比べて取組割合が低い傾向がみられた。
- ・ 世帯種別にみると、単身世帯の「16.石油ファンヒーターは 20℃以下（目安）に設定する」、「18.コタツの温度設定を低めにする」、「19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う」について、全体と比べて 15～20 ポイント程度低かった。これらの項目について、他の選択肢の回答割合をみると、「該当しない・機器がない」が 18～29 ポイント程度となっており、石油ファンヒーターやコタツを持たない単身世帯が多いことが、取組割合の低さに影響していると考えられる。

■地区 注) 各地区の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。	松江地区 (n=500)	雲南地区 (n=118)	出雲地区 (n=351)	大田地区 (n=122)	浜田地区 (n=176)	益田地区 (n=125)	隠岐地区 (n=48)
1.テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組や時間を決めて見る	3.5	3.2	-3.2	-4.2	2.0	-1.9	10.1
2.テレビを見ない時は主電源をOFFにする	-2.6	9.5	-1.8	2.2	3.8	-1.2	0.8
3.テレビの画面は明るすぎないようにする	5.7	1.2	-2.3	-5.5	-7.8	0.5	-6.0
4.パソコンを使わないときは電源を切る	0.6	6.6	5.5	-8.8	-2.1	-8.6	-2.1
5.パソコンの電源オプションの見直しをする	1.1	5.4	-1.2	-0.7	-0.1	-2.9	-3.5
6.電気カーペットの設定温度を低めにする	1.1	8.4	0.2	-2.2	-3.6	-7.9	7.6
7.電気カーペットは広さにあった大きさにする	1.3	5.2	-0.1	0.5	-3.1	-6.9	7.0
8.冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する	2.8	-1.1	-1.9	-3.4	-1.8	3.0	-1.8
9.夏の冷房時の室温は28℃を目安にする	2.2	-4.3	0.8	-3.8	-4.3	2.8	1.8
10.冷房は必要な時だけつける	4.1	-10.3	-1.1	-3.7	0.4	-1.7	5.1
11.エアコンのフィルターをこまめに掃除する(月に1回か2回)	5.3	-9.7	-4.4	-5.5	4.8	0.5	-2.9
12.エアコンはサーキュレーターや扇風機と併用して使う	3.2	-1.8	1.6	-4.0	-8.0	0.8	0.0
13.クールシェアやウォームシェアに心がけている	3.4	-5.6	0.9	-3.5	-2.7	-0.2	-1.2
14.冬の暖房の室温は20℃を目安にする	2.4	-2.6	0.2	-9.9	0.3	1.8	-0.5
15.暖房は必要な時だけつける	2.5	-1.6	0.6	-6.9	-0.6	-2.5	1.5
16.石油ファンヒーターは20℃以下(目安)に設定する	-0.9	11.2	0.2	-2.9	-4.7	3.3	-2.3
17.利用していない部屋の照明はこまめに消す	1.4	0.1	0.3	-4.6	0.9	-0.4	-0.2
18.コタツの温度設定を低めにする	-2.8	7.4	3.4	4.2	-8.4	-1.4	9.9
19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う	-1.8	12.9	4.4	-0.4	-8.6	-8.4	9.0
20.掃除機のフィルターをこまめに掃除する	3.3	-5.0	-2.7	-5.9	0.8	1.1	11.2
21.部屋を片付けてから掃除機をかける	1.9	-2.2	-0.9	-4.2	0.0	0.1	7.2

■世帯種別 注) 各世帯種別の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。	特に行動を促進する対象世帯 (単:単身世帯 子:子育て世帯 高:高齢者世帯)	単身世帯 (n=91)	子育て世帯 (n=212)	高齢者世帯 (n=324)	3世代世帯 (n=165)	働き世代と65歳以上を含む世帯 (n=395)	働き世代のみの世帯 (n=212)
1.テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組や時間を決めて見る	子	-7.7	-3.0	6.4	4.1	1.5	-6.8
2.テレビを見ない時は主電源をOFFにする	子	-0.4	-3.9	1.3	0.6	1.4	-0.1
3.テレビの画面は明るすぎないようにする	子	-2.2	4.2	3.2	-2.4	-2.5	-0.6
4.パソコンを使わないときは電源を切る	単	-4.1	13.7	-17.7	13.0	-1.8	12.3
5.パソコンの電源オプションの見直しをする	単・子	7.7	3.1	-7.8	4.2	-0.2	4.5
6.電気カーペットの設定温度を低めにする	子	-8.6	-1.0	6.8	7.2	1.2	-11.4
7.電気カーペットは広さにあった大きさにする	単	-3.7	-0.7	5.3	8.4	0.6	-11.5
8.冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する	単・高	-3.5	2.5	3.5	0.9	-3.0	1.6
9.夏の冷房時の室温は28℃を目安にする	単	-2.3	1.4	5.7	0.9	-2.8	-2.4
10.冷房は必要な時だけつける	単	0.3	3.6	1.7	1.3	-1.7	-2.1
11.エアコンのフィルターをこまめに掃除する(月に1回か2回)	単	-4.4	8.0	0.9	-3.2	-3.4	3.3
12.エアコンはサーキュレーターや扇風機と併用して使う		-12.7	2.4	-0.6	1.5	-0.7	7.2
13.クールシェアやウォームシェアに心がけている		3.4	19.6	-1.0	-4.0	-9.4	6.4
14.冬の暖房の室温は20℃を目安にする	単	-6.4	5.0	1.8	-3.5	-3.2	5.5
15.暖房は必要な時だけつける		4.3	1.1	-0.7	-3.2	0.0	3.9
16.石油ファンヒーターは20℃以下(目安)に設定する	単・子	-19.7	-6.7	1.1	6.4	3.9	3.7
17.利用していない部屋の照明はこまめに消す		-0.6	3.6	-2.0	1.8	0.2	2.2
18.コタツの温度設定を低めにする	単	-15.7	-11.1	6.2	-2.4	6.1	0.2
19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う	単	-16.5	-9.8	6.9	-0.5	7.2	-3.7
20.掃除機のフィルターをこまめに掃除する	子	-4.6	-0.7	3.8	0.2	-1.7	2.6
21.部屋を片付けてから掃除機をかける		-5.2	5.2	-0.1	-2.0	0.7	-0.5

■世帯種別（上表）において、特に行動を促進する対象世帯での取組割合が大きくマイナスになった項目

■単身世帯 注) 単身世帯での各割合から、全体の割合を引いたポイントを表示	(上表)		(他の選択肢の回答割合)	
	取組割合 (「はい」「時々」)	「いいえ」 の割合	「該当しない・機器 がない」の割合	無回答
16.石油ファンヒーターは20℃以下(目安)に設定する	-19.7	-6.3	28.9	-2.8
18.コタツの温度設定を低めにする	-15.7	-0.2	8.3	-2.3
19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う	-16.5	-1.2	18.8	-1.1

(3) バス・トイレにおける取組

- ・ 全体の取組割合の経年変化に大きな傾向はみられなかった。
- ・ 「2.シャワーは不必要に流したままにしない」の取組割合は、57.3ポイント増加し、行動レベルがAとなっているが、H26と設問内容が変わっていることが影響していると考えられる。
- ・ 「5.衣類乾燥機はまとめて乾燥し、回数を減らす」で「該当しない・機器がない」の割合が54.1ポイントと大きく、取組を改善しても行動レベルをAにすることは難しいと考えられる。
- ・ 地区別にみると、隠岐地区では「3.風呂の残り湯を洗濯に使用する」が-18.3ポイント、大田地区では、「7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する」が-16.1ポイント、「8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する」が-16.3ポイントとなった。

■全体	H26 (n=743)		H30 (n=1,448)			取組割合の 増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動 レベル	取組割合 (%)	行動 レベル	「該当しない・ 機器がない」 の割合(%)	
1.お風呂は家族で間隔を開けずに入る	62.6	B	69.5	B	4.0	6.9
2.シャワーは不必要に流したままにしない ^{※)}	30.7	C	88.0	A	1.5	(+57.3)
3.風呂の残り湯を洗濯に使用する	56.5	B	47.4	B	3.8	-9.1
4.洗濯は洗濯機の容量の80%程度でまとめて洗う	79.8	B	77.3	B	1.1	-2.5
5.衣類乾燥機はまとめて乾燥し、回数を減らす	30.4	C	35.4	C	54.1	4.9
6.天気のよい時は衣類乾燥機を使わない	47.9	B	52.4	B	38.0	4.5
7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する	62.7	B	63.6	B	19.7	0.9
8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する	71.1	B	70.4	B	15.5	-0.7
9.便座暖房を使わない時はふたを閉める	70.5	B	72.2	B	15.3	1.6

※) H26の設問:「シャワーを1日1分家族全員が減らす」

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

■地区 注) 各地区の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。	松江地区 (n=500)	雲南地区 (n=118)	出雲地区 (n=351)	大田地区 (n=122)	浜田地区 (n=176)	益田地区 (n=125)	隠岐地区 (n=48)
1.お風呂は家族で間隔を開けずに入る	-1.7	3.4	-4.5	5.9	5.5	3.3	3.4
2.シャワーは不必要に流したままにしない	1.4	1.0	-1.4	-4.4	0.1	1.6	5.8
3.風呂の残り湯を洗濯に使用する	3.0	2.6	-1.9	5.0	-2.6	-2.6	-18.3
4.洗濯は洗濯機の容量の80%程度でまとめて洗う	2.3	-4.5	-0.1	-3.6	0.5	-2.9	6.0
5.衣類乾燥機はまとめて乾燥し、回数を減らす	1.4	3.6	3.4	-2.6	-4.7	-7.4	-2.0
6.天気のよい時は衣類乾燥機を使わない	2.0	6.1	1.1	-3.2	-6.4	-2.8	1.7
7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する	7.0	9.3	-1.2	-16.1	-9.6	-4.4	5.1
8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する	6.2	9.3	0.0	-16.3	-6.2	-7.2	0.5
9.便座暖房を使わない時はふたを閉める	5.4	6.6	-1.5	-6.6	-7.4	-3.4	-3.4

- ・ 世帯種別にみると、全ての取組について、単身世帯の取組割合が全体の取組割合を下回っている。
- ・ 世帯種別にみると、単身世帯の「7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する」、「8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する」、「9.便座暖房を使わない時はふたをしめる」について、全体と比べて16～21ポイント程度低かった。これらの項目について、他の選択肢の回答割合をみると、「該当しない・機器がない」が17～21ポイント程度となっており、洗浄機能付き便座や暖房付き便座を持たない単身世帯が多いことが、取組割合の低さに影響していると考えられる。

■世帯種別 注) 各世帯種別の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。	特に行動を促進する対象世帯 (単:単身世帯 子:子育て世帯 高:高齢者世帯)	単身世帯 (n=91)	子育て世帯 (n=212)	高齢者世帯 (n=324)	3世代世帯 (n=165)	働き世代と65歳以上を含む世帯 (n=395)	働き世代のみの世帯 (n=212)
1.お風呂は家族で間隔を開けずに入る		-18.9	5.5	6.1	6.9	-3.9	1.3
2.シャワーは不必要に流したままにしない	(単・子・高)	-11.1	-0.7	4.0	-0.1	1.1	0.2
3.風呂の残り湯を洗濯に使用する		-16.7	-0.3	3.5	-1.4	6.0	-6.4
4.洗濯は洗濯機の容量の80%程度でまとめて洗う	子	-2.6	5.2	-3.3	-2.8	2.1	2.4
5.衣類乾燥機はまとめて乾燥し、回数を減らす	子・高	-7.9	8.5	-7.9	14.9	-0.9	-1.9
6.天気の良い時は衣類乾燥機を使わない	子	-11.8	5.6	-3.7	16.7	-2.5	-1.9
7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する	単	-16.4	-4.2	2.1	10.9	2.2	-2.3
8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する	単	-20.9	-1.5	1.5	10.8	2.5	-0.6
9.便座暖房を使わない時はふたを閉める	単	-17.2	-0.9	-0.9	9.0	4.0	-1.4

■世帯種別（上表）において、特に行動を促進する対象世帯での取組割合が大きくマイナスになった項目

■単身世帯 注) 単身世帯での各割合から、全体の割合を引いたポイントを表示	(上表)	(他の選択肢の回答割合)		
	取組割合 (「はい」「時々」)	「いいえ」 の割合	「該当しない・機器 がない」の割合	無回答
7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する	-16.4	-1.6	18.8	-0.8
8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する	-20.9	0.7	20.7	-0.5
9.便座暖房を使わない時はふたを閉める	-17.2	0.5	17.6	-0.9

(4) 自動車などでの取組

- ・ 全体の取組割合の経年変化をみると、「1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない」は11.0ポイント増加し、改善傾向がみられた。
- ・ 世帯種別にみると、単身世帯と高齢者世帯では、全体の割合に比べてマイナスポイントになる取組が多かった。
- ・ 世帯種別にみると、単身世帯の「1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない」、「2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない」について、全体と比べて10ポイント以上低かった。これらの項目について、他の選択肢の回答割合をみると、「該当しない・機器がない」が9~11ポイント程度となっており、自動車を持たない単身世帯が多いことが、取組割合の低さに影響していると考えられる。

■全体	H26 (n=743)		H30 (n=1,448)			取組割合の 増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動 レベル	取組割合 (%)	行動 レベル	「該当しない・ 機器がない」 の割合(%)	
1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない	68.4	B	79.4	B	7.2	11.0
2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない	79.3	B	80.0	B	5.2	0.7
3.急発進、急加速をしない	85.6	A	88.7	A	4.4	3.1
4.早めのアクセルオフをしている	80.5	A	84.9	A	5.0	4.4
5.タイヤの空気圧を適正にする	84.9	A	85.3	A	4.5	0.4
6.1週間に1回マイカーの利用を控える	29.6	C	29.4	C	6.3	-0.2
7.近いところへは自転車または徒歩で行く	61.4	B	55.7	B	4.0	-5.6
8.上下3階はエレベーターを使わず階段を使う	45.0	B	47.8	B	20.9	2.8

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

■地区 注) 各地区の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。	松江地区 (n=500)	雲南地区 (n=118)	出雲地区 (n=351)	大田地区 (n=122)	浜田地区 (n=176)	益田地区 (n=125)	隠岐地区 (n=48)
1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない	3.4	2.9	-3.3	5.1	-2.1	-3.4	-6.4
2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない	1.6	1.4	-2.5	2.0	0.7	0.8	-2.9
3.急発進、急加速をしない	1.1	-1.4	1.1	1.5	-2.3	1.7	-5.3
4.早めのアクセルオフをしている	0.9	-0.1	0.9	2.0	-2.5	1.5	-5.7
5.タイヤの空気圧を適正にする	1.5	4.5	0.7	0.0	-1.2	-3.7	-8.2
6.1週間に1回マイカーの利用を控える	1.0	-0.6	-4.3	2.5	0.1	5.8	1.8
7.近いところへは自転車または徒歩で行く	4.1	-2.3	-1.3	-2.5	-0.1	-3.7	-7.8
8.上下3階はエレベーターを使わず階段を使う	2.4	0.5	2.1	-0.2	-8.0	3.4	14.5

■世帯種別 注) 各世帯種別の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。	特に行動を促進 する対象世帯 (単・単身世帯 子・子育て世帯 高・高齢者世帯)	単身世帯 (n=91)	子育て世帯 (n=212)	高齢者世帯 (n=324)	3世代世帯 (n=165)	働き世代と 65歳以上を 含む世帯 (n=395)	働き世代の みの世帯 (n=212)
1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない	単・子	-10.1	5.6	-5.0	2.5	1.7	3.7
2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない	単・高	-14.0	2.6	0.3	1.8	1.3	2.1
3.急発進、急加速をしない	単・高	-7.4	6.6	-5.6	5.3	-0.1	4.7
4.早めのアクセルオフをしている	単・高	-9.1	7.1	-7.1	4.2	0.2	6.6
5.タイヤの空気圧を適正にする	単・高	-6.2	4.3	-5.4	4.4	1.8	4.3
6.1週間に1回マイカーの利用を控える	単・子・高	1.3	-6.3	6.7	-3.4	-1.1	0.8
7.近いところへは自転車または徒歩で行く	単・子	8.0	0.9	2.9	-4.2	-1.0	-2.0
8.上下3階はエレベーターを使わず階段を使う	単	-0.5	9.8	-10.1	-1.1	-1.0	11.2

■世帯種別(上表)において、特に行動を促進する対象世帯での取組割合が大きくマイナスになった項目

■単身世帯 注) 単身世帯での各割合から、全体の割合を引いたポイントを表示	(他の選択肢の回答割合)			
	取組割合 (「はい」「時々」)	「いいえ」 の割合	「該当しない・機器 がない」の割合	無回答
1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない	-10.1	3.9	9.3	-3.1
2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない	-14.0	6.5	10.2	-2.6

(5) 買い物での取組

- ・ 全体の取組割合の経年変化に大きな傾向はみられなかった。
- ・ 地区別にみると、隠岐地区で、「1.買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ」が-15.1ポイントとなった。
- ・ 世帯種別による大きな傾向は特にみられなかった。

■全体	H26 (n=743)		H30 (n=1,448)			取組割合の 増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動 レベル	取組割合 (%)	行動 レベル	「該当しない・ 機器がない」 の割合(%)	
1.買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ	86.3	A	85.9	A	0.5	-0.4
2.食材はなるべく旬の食材を調達する	87.6	A	89.2	A	0.3	1.5
3.使いきれない量・数で販売しているものは買わない	88.4	A	90.0	A	0.4	1.6

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

■地区	松江地区 (n=500)	雲南地区 (n=118)	出雲地区 (n=351)	大田地区 (n=122)	浜田地区 (n=176)	益田地区 (n=125)	隠岐地区 (n=48)
1.買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ	0.5	2.2	-1.0	-0.7	1.6	5.3	-15.1
2.食材はなるべく旬の食材を調達する	0.8	-1.0	-2.0	-0.6	1.8	1.2	6.7
3.使いきれない量・数で販売しているものは買わない	-0.6	-3.5	0.9	-0.6	3.2	2.0	-0.4

■世帯種別 注) 各世帯種別の取組割合から、全体の取組割合を引いたポイントを表示している。	特に行動を促進 する対象世帯 (単:単身世帯 子:子育て世帯 高:高齢者世帯)	単身世帯 (n=91)	子育て世帯 (n=212)	高齢者世帯 (n=324)	3世代世帯 (n=165)	働き世代と 65歳以上を 含む世帯 (n=395)	働き世代の みの世帯 (n=212)
1.買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ		-3.5	1.8	3.9	0.8	-0.8	-1.9
2.食材はなるべく旬の食材を調達する	単	-6.7	1.9	-0.3	-0.7	1.0	4.7
3.使いきれない量・数で販売しているものは買わない	子	3.4	2.5	1.4	-4.5	-1.6	3.4

2-1-5. 家庭での取組改善ポテンシャル

家庭での取組については、各取組の省エネポテンシャルとして、「いいえの回答割合」に「省エネ効果（原油換算kℓ）」を掛け合わせることで、取組ごとのエネルギー削減量を推計することができる。さらに、島根県世帯数を乗じることで、県全体の省エネポテンシャルとなる。ポテンシャルが大きいものから優先的に普及啓発等の施策を検討することが有効と考えられる。なお、取組ごとの省エネ効果の算出条件は、次ページの表に示すとおりである。

$$\text{③島根県の省エネポテンシャル（原油換算 kℓ）} = \text{①「省エネ効果（原油換算ℓ/世帯）」} \times \text{②「いいえの回答割合（\%）」} \times \text{「島根県世帯数（265,008 世帯）」} \div 1,000$$

■島根県の省エネポテンシャル

省エネ行動	①省エネ効果 (原油換算ℓ/世帯)	②いいえの回答割合(%)	③H30 島根県の 省エネポテンシャル (原油換算kℓ)
1) キッチン(台所)で			
1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く	27.10	27.1	1944
8.冬場は冷蔵庫の冷蔵強度を弱くする	15.55	41.7	1719
10.ブロッコリーやカボチャなどの野菜の下ゆでには電子レンジを活用する	6.75	41.8	747
2.あまったご飯を炊飯ジャーで長時間保温しない	11.54	15.7	479
5.冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置している	11.36	13.9	418
6.冷蔵庫に食材を詰め込みすぎない	11.05	11.9	348
3.食器洗いは水または低い温度のお湯でする	10.21	11.4	308
9.ガスコンロの炎がなべ底からはみ出ないように調節する	2.76	6.6	48
7.冷蔵庫を開けている時間を短くする	1.54	5.9	24
4.食器洗い乾燥機を使用するときはまとめて洗いをする		7.3	
2) 居室で			
14.冬の暖房の室温は20℃を目安にする	13.38	36.8	1305
11.エアコンのフィルターをこまめに掃除する(月に1回か2回)	8.05	32.7	698
3.テレビの画面は明るすぎないようにする	6.83	37.6	681
6.電気カーペットの設定温度を低めにする	46.86	5.1	635
9.夏の冷房時の室温は28℃を目安にする	7.62	29.4	593
16.石油ファンヒーターは20℃以下(目安)に設定する	9.68	21.7	556
5.パソコンの電源オプションの見直しをする	3.17	36.6	307
18.コタツの温度設定を低めにする	12.34	7.9	260
7.電気カーペットは広さにあった大きさにする	22.66	3.9	236
1.テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組や時間を決めて見る	4.23	20.6	231
4.パソコンを使わないときは電源を切る	7.96	9.3	195
15.暖房は必要な時だけつける	10.26	6.1	165
19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う	8.18	5.6	121
10.冷房は必要な時だけつける	4.73	6.9	87
21.部屋を片付けてから掃除機をかける	1.37	7.3	27
20.掃除機のフィルターをこまめに掃除する	0.39	13.8	14
17.利用していない部屋の照明はこまめに消す	1.10	1.5	4
2.テレビを見ない時は主電源をOFFにする		55.0	
8.冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する		20.5	
12.エアコンはサーキュレーターや扇風機と併用して使う		20.7	
13.クールシェアやウォームシェアに心がけている		23.3	
3) バス・トイレで			
1.お風呂は家族で間隔を開けずに入る	44.31	22.5	2644
6.天気の良い時は衣類乾燥機を使わない	99.43	4.4	1165
2.シャワーは不必要に流したままにしない	14.82	7.8	306
9.便座暖房を使わない時はふたを閉める	8.79	8.3	193
8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する	6.65	10.3	181
5.衣類乾燥機はまとめて乾燥し、回数を減らす	10.58	5.3	149
7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する	3.48	12.6	117
4.洗濯は洗濯機の容量の80%程度でまとめて洗う	1.48	17.5	69
3.風呂の残り湯を洗濯に使用する		45.2	
4) 自動車などで			
1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない	15.48	8.2	337
4.早めのアクセルオフをしている	16.15	4.3	183
3.急発進、急加速をしない	26.16	2.4	168
2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない		10.0	
5.タイヤの空気圧を適正にする		5.1	
6.1週間に1回マイカーの利用を控える		57.5	
7.近いところへは自転車または徒歩で行く		35.2	
8.上下3階はエレベーターを使わず階段を使う		25.6	
5) 買い物で			
1.買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ		10.4	
2.食材はなるべく旬の食材を調達する		6.8	
3.使いきれない量・数で販売しているものは買わない		5.5	

注) 省エネ効果：経済産業省資源エネルギー庁「家庭の省エネ徹底ガイド春夏秋冬」(2017年)に基づく。
島根県世帯数：265,008 世帯 (平成 27 年 10 月 国勢調査)

■省エネ効果の算出条件

省エネ行動	(経済産業省 資源エネルギー庁「家庭の省エネ徹底ガイド 春夏秋冬」(2017年)に基づく)	
	省エネ効果 (原油換算0/世帯)	省エネ効果の算出条件
1) キッチン(台所)で		
1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く	27.10	ポットに満タンの水2.2ℓを入れ沸騰させ、1.2ℓを使用後、6時間保温状態にした場合と、プラグを抜いて保温しないで再沸騰させて使用した場合の比較
2.あまったご飯を炊飯ジャーで長時間保温しない	11.54	1日に7時間保温し、コンセントに差し込んだままの場合と保温せずにコンセントからプラグを抜いた場合の比較
3.食器洗いは水または低い温度のお湯でする	10.21	65ℓの水道水(水温20℃)を使い、湯沸し器の設定温度を40℃から38℃にし、1日2回手洗した場合(使用期間:冷房期間を除く253日)
4.食器洗い乾燥機を使用するときはまとめて洗いをする		
5.冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置している	11.36	上と両側が壁に接している場合と片側が壁に接している場合との比較
6.冷蔵庫に食材を詰め込みすぎない	11.05	詰め込んだ場合と、半分にした場合との比較
7.冷蔵庫を開けている時間を短くする	1.54	開けている時間が20秒間の場合と、10秒間の場合との比較
8.冬場は冷蔵庫の冷蔵強度を弱くする	15.55	周囲温度22℃で、設定温度を「強」から「中」にした場合
9.ガスコンロの炎がなべ底からはみ出ないように調節する	2.76	水1ℓ(20℃程度)を沸騰させる時、強火から中火にした場合(1日3回)
10.ブロッコリーやカボチャなどの野菜の下ゆでは電子レンジを活用する	6.75	100gの食材を、1ℓの水(27℃程度)に入れ沸騰させて煮る場合と、電子レンジで下ごしらえをした場合を比較(365日、1日1回使用)
2) 居室で		
1.テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組や時間を決めて見る	4.23	液晶の場合、1日1時間テレビ(32V型)を見る時間を減らした場合
2.テレビを見ない時は主電源をOFFにする		
3.テレビの画面は明るすぎないようにする	6.83	液晶の場合、テレビ(32V型)の画面の輝度を最適(最大-中間)にした場合
4.パソコンを使わないときは電源を切る	7.96	デスクトップ型の場合(1日1時間利用時間を短縮したら)
5.パソコンの電源オプションの見直しをする	3.17	デスクトップ型の場合、電源オプションを「モニタの電源をOFF」から「システムスタンバイ」にした場合(3.25時間/週、52週)
6.電気カーペットの設定温度を低めにする	46.86	3畳用で、設定温度を「強」から「中」にした場合(1日5時間使用)
7.電気カーペットは広さにあった大きさにする	22.66	室温20℃の時、設定温度が「中」の状態での1日5時間使用した場合、3畳用のカーペットと2畳用のカーペットの比較
8.冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する		
9.夏の冷房時の室温は28℃を目安にする	7.62	外気温度31℃の時、エアコン(2.2kW)の冷房設定温度を27℃から28℃にした場合(使用時間:9時間/日)
10.冷房は必要な時だけつける	4.73	冷房を1日1時間短縮した場合(設定温度28℃)
11.エアコンのフィルターをこまめに掃除する(月に1回か2回)	8.05	フィルターが目詰まりしているエアコン(2.2kW)とフィルターを清掃した場合の比較
12.エアコンはサーキュレーターや扇風機と併用して使う		
13.クールシェアやウォームシェアに心がけている		
14.冬の暖房時の室温は20℃を目安にする	13.38	外気温度6℃の時、エアコン(2.2kW)の暖房設定温度を21℃から20℃にした場合(使用時間:9時間/日)
15.暖房は必要な時だけつける	10.26	暖房を1日1時間短縮した場合(設定温度20℃)
16.石油ファンヒーターは20℃以下(目安)に設定する	9.68	外気温度6℃の時、暖房の設定温度を21℃から20℃にした場合(使用時間:9時間/日)
17.利用していない部屋の照明はこまめに消す	1.10	蛍光灯ランプ、12Wの蛍光灯ランプ1灯の点灯時間を1日1時間短縮した場合
18.コタツの温度設定を低めにする	12.34	1日5時間使用で、温度調節を「強」から「中」に下げた場合
19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う	8.18	こたつ布団だけの場合と、こたつ布団に上掛けと敷布団を併用した場合の比較(1日5時間使用)
20.掃除機のフィルターをこまめに掃除する	0.39	パックいっぱいになりゴミが詰まった状態と、未使用のパックの比較
21.部屋を片付けてから掃除機をかける	1.37	利用する時間を、1日1分間短縮した場合
3) バストイレで		
1.お風呂は家族で間隔を開けずに入る	44.31	2時間放置により45℃低下した湯(200ℓ)を追い焚きする場合(1回/日)との比較
2.シャワーは不必要に流したままにしない	14.82	45℃のお湯を流す時間を1分間短縮した場合
3.風呂の残り湯を洗濯に使用する		
4.洗濯は洗濯機の容量の80%程度でまとめて洗う	1.48	定格容量(洗濯・脱水容量:6kg)の4割を入れて洗う場合と、8割を入れ、洗濯回数を半分にして洗う場合との比較
5.衣類乾燥機はまとめて乾燥し、回数を減らす	10.58	定格容量(5kg)の8割を入れて2日に1回使用した場合と、4割ずつに分けて毎日使用した場合との比較
6.天気のよい時は衣類乾燥機を使わない	99.43	自然乾燥8時間後、未乾燥のものを補助乾燥する場合と、乾燥機のみで乾燥させる場合の比較、2日に1回使用
7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する	3.48	洗浄水の温度の設定を年間一段階下げた(中→弱)場合(貯湯式)
8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する	6.65	便座の設定温度を一段階下げた(中→弱)場合(貯湯式)、冷房期間に便座の暖房をOFFにした場合
9.便座暖房を使わない時はふたを閉める	8.79	フタを閉めた場合と、開けっ放しの場合との比較(貯湯式)
4) 自動車などで		
1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない	15.48	30kmごとに4分間の割合で行うものとし、アイドリング時の消費燃料は「エコドライブ10のすすめ」の「アイドリングストップ」による ^{※)}
2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない		
3.急発進、急加速をしない	26.16	スマートドライブコンテストの操作別燃料消費削減割合による ^{※)}
4.早めのアクセルオフをしている	16.15	スマートドライブコンテストの操作別燃料消費削減割合による ^{※)}
5.タイヤの空気圧を適正にする		
6.1週間に1回マイカーの利用を控える		
7.近いところへは自転車または徒歩で行く		
8.上下3階はエレベーターを使わず階段を使う		
5) 買い物で		
1.買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ		
2.食材はなるべく旬の食材を調達する		
3.使いきれない量・数で販売しているものは買わない		

※)年間削減量および年間走行距離、平均燃費は2,000cc 普通乗用車/年間10,000km 走行とし、平均燃費11.6km/Lで計算。

「2-1-4.家庭における省エネルギーの取組」において「取組割合」の経年変化をみたところ、「該当しない・機器がない」の影響がみられたため、本表では「いいえの回答割合」の経年変化と「取組改善ポテンシャル」(H30 島根県の省エネポテンシャル)を並べて示した。

■ 「いいえの回答割合」と取組改善ポテンシャル

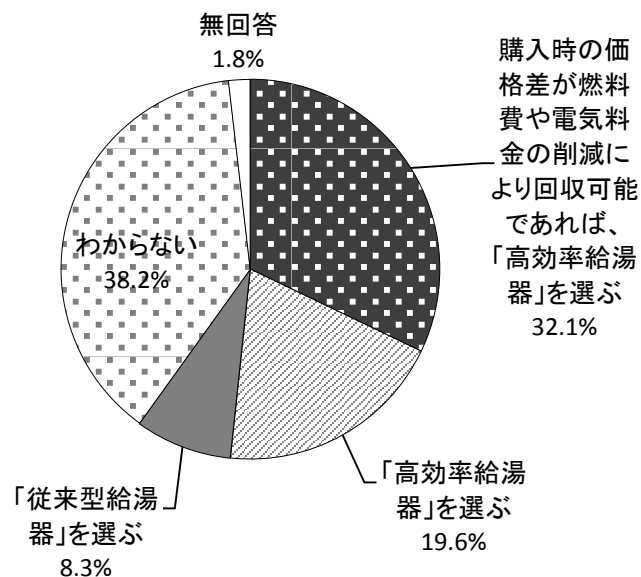
省エネ行動	H26		H30		いいえの回答割合の増減(H30 - H26)		H30 島根県の省エネポテンシャル(原油換算kL)
	いいえの回答割合(%)	いいえの回答割合(%)	いいえの回答割合(%)	いいえの回答割合(%)	良化 ←	悪化 →	
1) キッチン(台所)で							
1.外出時や就寝時には電気ポットのプラグを抜く	28.0	27.1			-0.9		1944
2.あまったご飯を炊飯ジャーで長時間保温しない	19.8	15.7			-4.1		479
3.食器洗いは水または低い温度のお湯でする	11.0	11.4			0.4		308
4.食器洗い乾燥機を使用するときはまとめて洗いをする	5.8	7.3			1.5		
5.冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置している	8.1	13.9			5.8		418
6.冷蔵庫に食材を詰め込みすぎない	10.0	11.9			1.9		348
7.冷蔵庫を開けている時間を短くする	3.1	5.9			2.8		24
8.冬場は冷蔵庫の冷蔵強度を弱くする	43.9	41.7			-2.2		1719
9.ガスコンロの炎がなべ底からはみ出ないように調節する	4.8	6.6			1.8		48
10.ブロッコリーやカボチャなどの野菜の下ゆでには電子レンジを活用する ^{※1)}	60.6	41.8			(-8.8)		747
2) 居室で							
1.テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組や時間を決めて見る ^{※2)}	49.9	20.6			(-29.3)		231
2.テレビを見ない時は主電源をOFFにする	51.1	55.0			3.9		
3.テレビの画面は明るすぎないようにする	34.5	37.6			3.2		681
4.パソコンを使わないときは電源を切る	9.4	9.3			-0.2		195
5.パソコンの電源オプションの見直しをする	31.1	36.6			5.5		307
6.電気カーペットの設定温度を低めにする	3.2	5.1			1.9		635
7.電気カーペットは広さにあった大きさにする	3.5	3.9			0.4		236
8.冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する	18.6	20.5			1.9		
9.夏の冷房時の室温は28℃を目安にする	21.0	29.4			8.4		593
10.冷房は必要な時だけつける	2.2	6.9			4.8		87
11.エアコンのフィルターをこまめに掃除する(月に1回か2回)	18.4	32.7			14.3		698
12.エアコンはサーキュレーターや扇風機と併用して使う	未実施	20.7			—		
13.クールシェアやウォームシェアに心がけている	未実施	23.3			—		
14.冬の暖房の室温は20℃を目安にする	27.6	36.8			9.2		1305
15.暖房は必要な時だけつける	2.7	6.1			3.4		165
16.石油ファンヒーターは20℃以下(目安)に設定する	15.9	21.7			5.8		556
17.利用していない部屋の照明はこまめに消す	0.8	1.5			0.7		4
18.コタツの温度設定を低めにする	4.4	7.9			3.5		260
19.コタツは敷き布団と上掛け布団を合わせて使う	3.6	5.6			2.0		121
20.掃除機のフィルターをこまめに掃除する	12.2	13.8			1.6		14
21.部屋を片付けてから掃除機をかける	5.0	7.3			2.3		27
3) バスト・トイレで							
1.お風呂は家族で間隔を開けずに入る	19.7	22.5			2.9		2644
2.シャワーは不必要に流したままにしない ^{※3)}	40.4	7.8			(-32.6)		306
3.風呂の残り湯を洗濯に使用する	35.1	45.2			10.1		
4.洗濯は洗濯機の容量の80%程度でまとめて洗う	13.3	17.5			4.2		69
5.衣類乾燥機はまとめて乾燥し、回数を減らす	5.2	5.3			0.1		149
6.天気のよい時は衣類乾燥機を使わない	1.9	4.4			2.5		1165
7.便座の洗浄水の温度は季節に合わせて調節する	12.0	12.6			0.7		117
8.便座暖房の温度は季節に合わせて調節する	9.6	10.3			0.7		181
9.便座暖房を使わない時はふたを閉める	9.8	8.3			-1.5		193
4) 自動車などで							
1.長時間の停車や長い渋滞時にアイドリングをしない	14.3	8.2			-6.0		337
2.トランクなどに無駄な荷物を積みっぱなしにしない	6.1	10.0			4.0		
3.急発進、急加速をしない	1.1	2.4			1.3		168
4.早めのアクセルオフをしている	4.6	4.3			-0.3		183
5.タイヤの空気圧を適正にする	2.0	5.1			3.1		
6.1週間に1回マイカーの利用を控える	51.8	57.5			5.7		
7.近いところへは自転車または徒歩で行く	27.9	35.2			7.4		
8.上下3階はエレベーターを使わず階段を使う	21.5	25.6			4.1		
5) 買い物で							
1.買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ	7.0	10.4			3.4		
2.食材はなるべく旬の食材を調達する	6.3	6.8			0.4		
3.使いきれない量・数で販売しているものは買わない	5.1	5.5			0.3		

※1) H26の設問:「野菜の下ゆでには電子レンジを活用する」
 ※2) H26の設問:「テレビ番組を選び、1日1時間テレビの利用時間を減らす」
 ※3) H26の設問:「シャワーを1日1分家族全員が減らす」

2-1-6. 設備の買い替え選択

(1) 給湯器

- ・従来型の給湯器を使用している人で、今後買い替えるときの選択として『購入時の価格差が燃料費や電気料金の削減により回収可能であれば、「高効率給湯器」を選ぶ』が 32.1%、『「高効率給湯器」を選ぶ』が 19.6%であり、合わせて過半数が高効率給湯器への買い替えを選択する意思を持っていることが分かった。

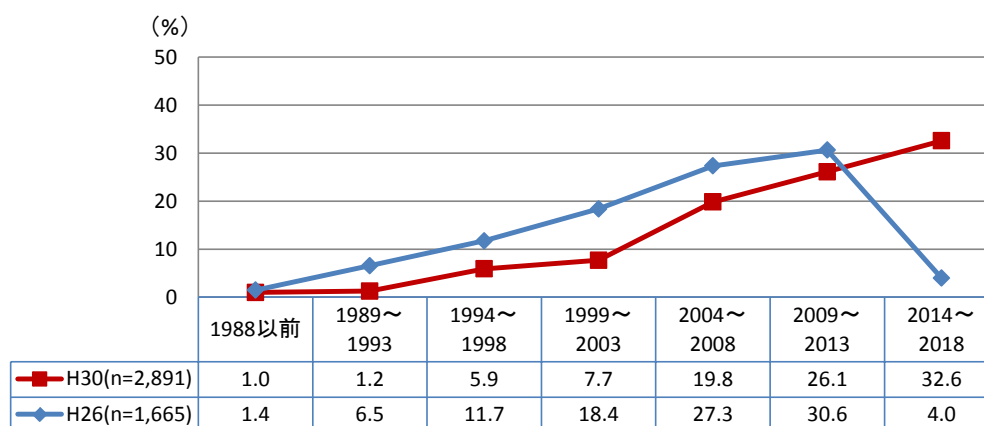


(n=327)

(2) エアコン

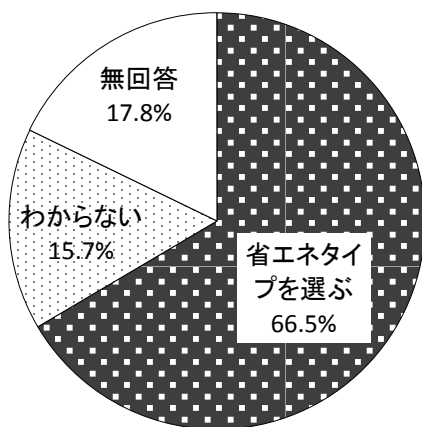
- ・平成 26 年度調査の結果と本調査の結果から、エアコンの購入時期をプロットしたものを下のグラフに示す。
- ・2003 年（平成 15 年）以前のエアコン（15 年以上前に購入されたエアコン）については、それぞれ半数程度買い替えが進んだが、まだ全体の 15.8%を占めている。

■エアコンの購入時期



- ・エアコンの買い替えでは、「省エネタイプを選ぶ」と回答した割合が 66.5%であった。

■エアコンを今後買い替える時の選択

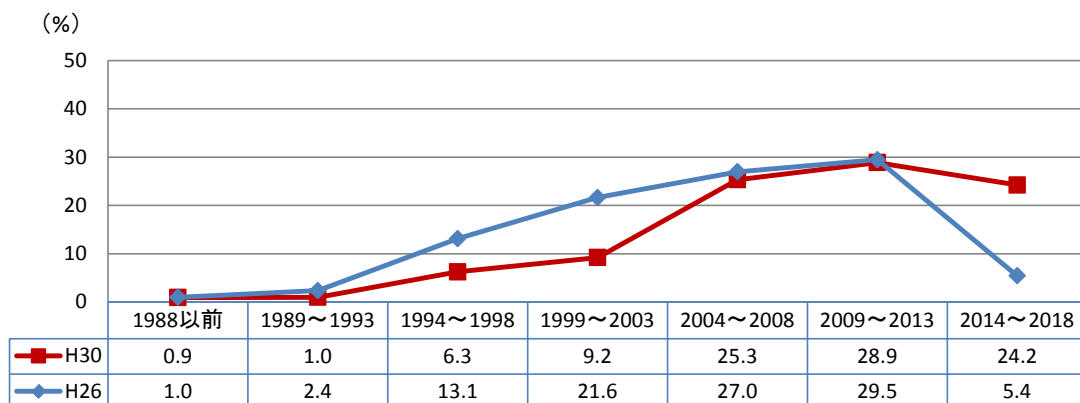


(n=2,891)

(3) 冷蔵庫

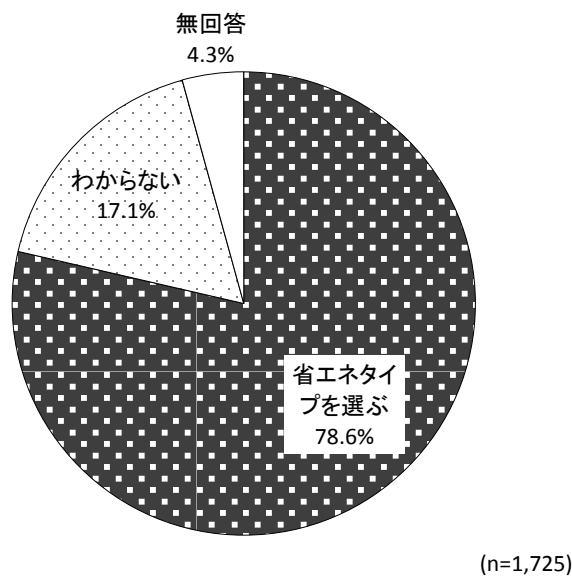
- ・平成 26 年度調査の結果と本調査の結果から、冷蔵庫の購入時期をプロットしたものを下のグラフに示す。
- ・2003 年（平成 15 年）以前の冷蔵庫（15 年以上前に購入された冷蔵庫）については、半数以上買い替えが進んだが、まだ全体の 17.4%を占めている。

■冷蔵庫の購入時期



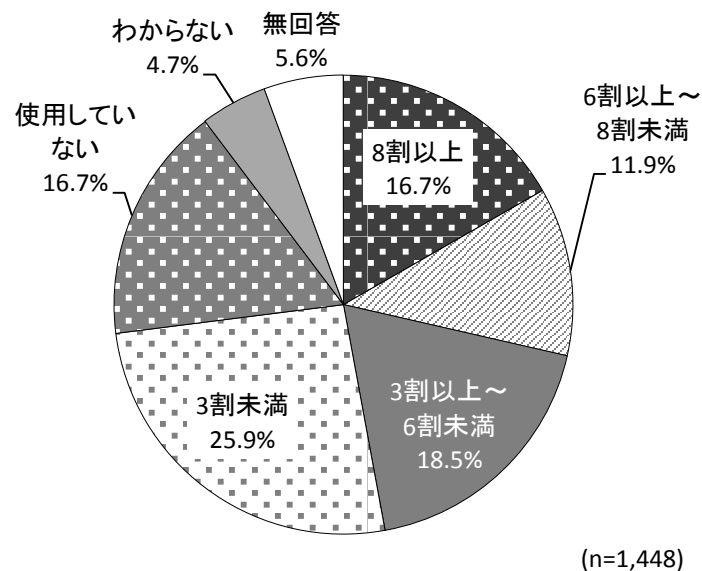
- ・冷蔵庫の買い替えでは、「省エネタイプを選ぶ」と回答した割合が78.6%であった。

■冷蔵庫を今後買い替える時の選択



(4) 家庭で使用している照明のうちLED照明の使用割合

- ・「8割以上」が16.7%、「3割以上～6割未満」が11.9%であった。
- ・「使用していない」は16.7%、「3割未満」は25.9%であり、これらを合わせて4割を超えており、LED照明の導入による省エネポテンシャルは大きいと考えられる。

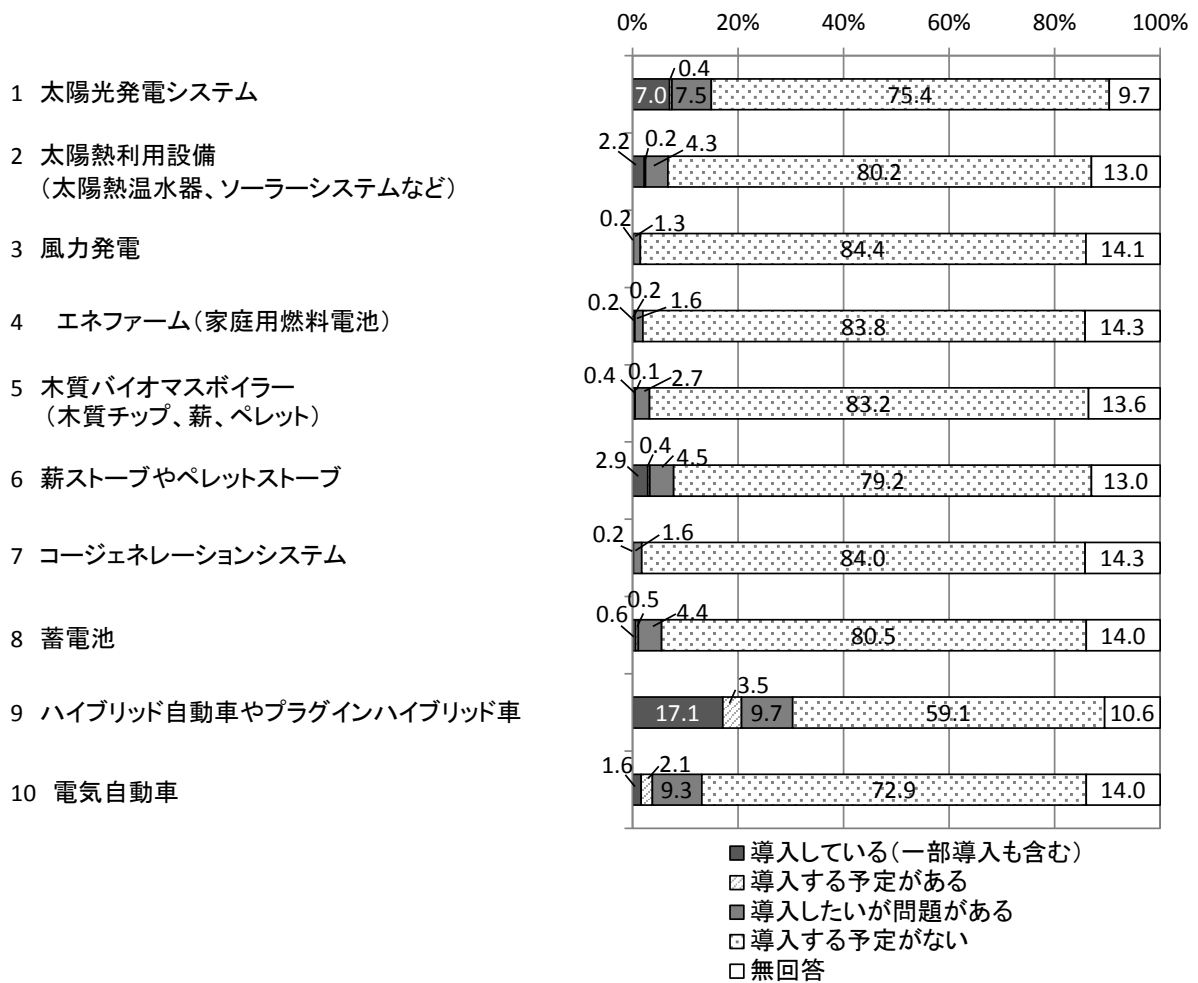


2-2. 事業者アンケート

2-2-1. 事業所への再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の導入状況及び意向

(1) 事業所で導入・検討している設備

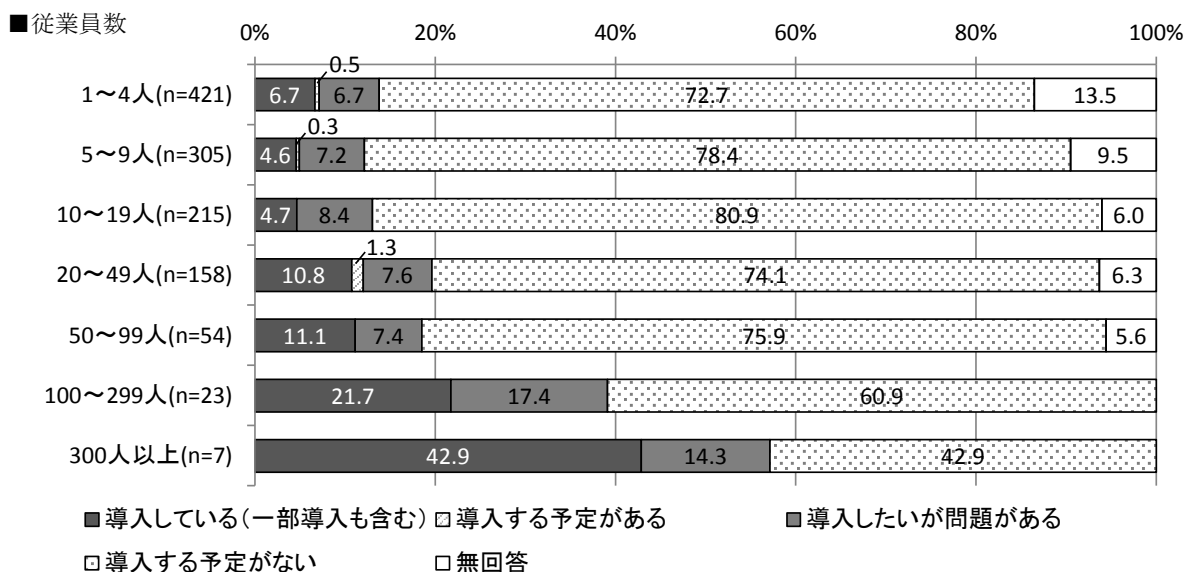
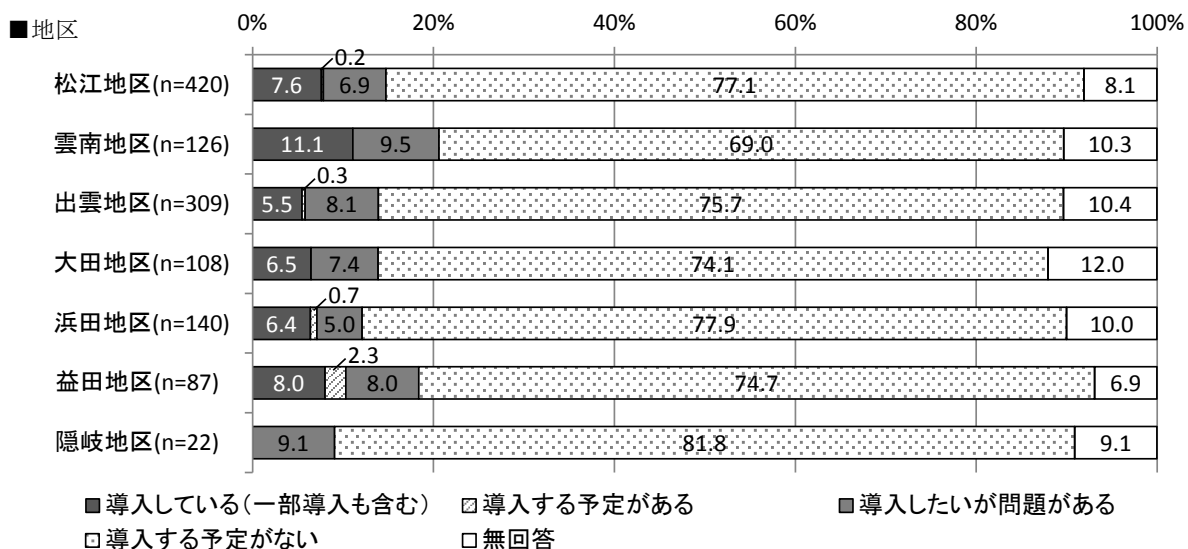
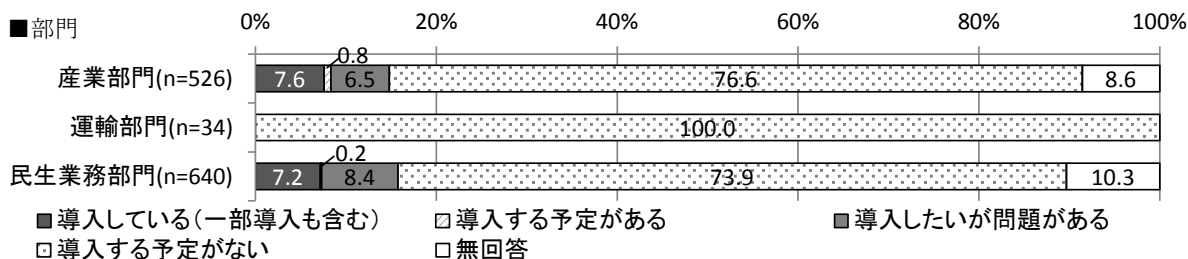
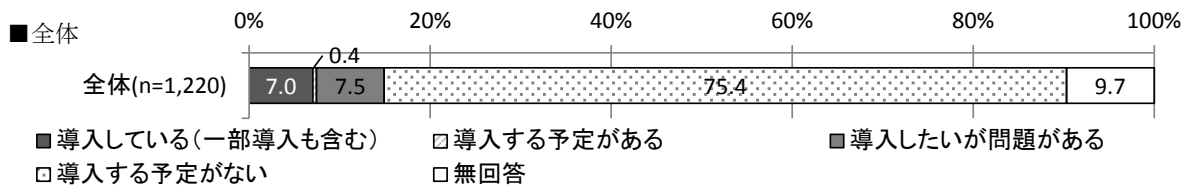
- ・事業所への再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入割合は全般的に低かった。
- ・「ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車」の導入割合は 17.1%であり、他の設備等にくらべて導入割合が高い。



(2) 事業所で導入・検討している設備の属性別クロス集計

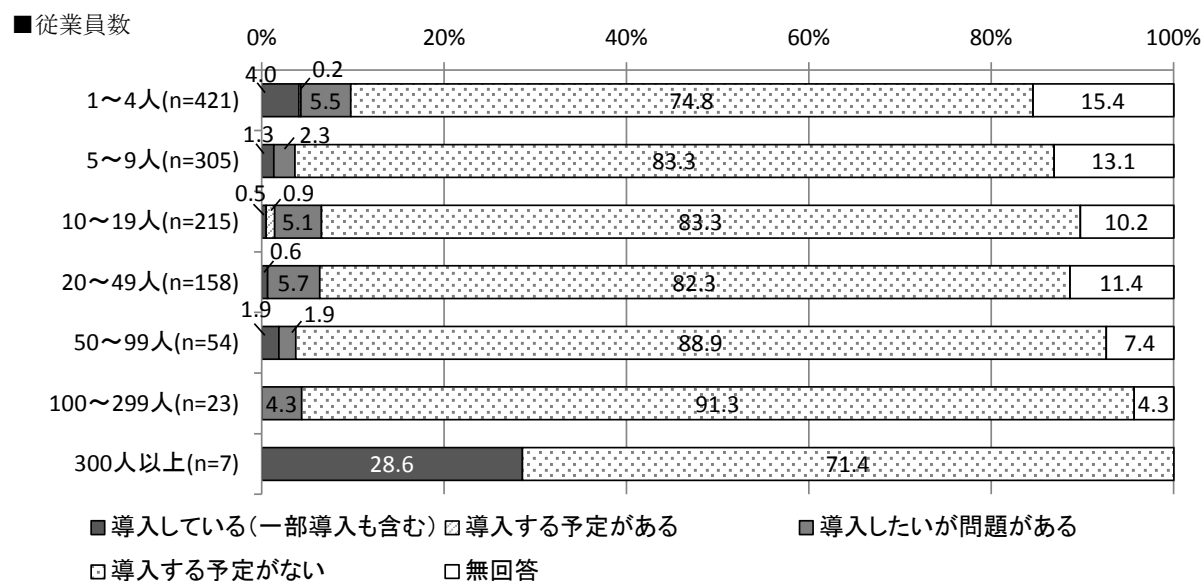
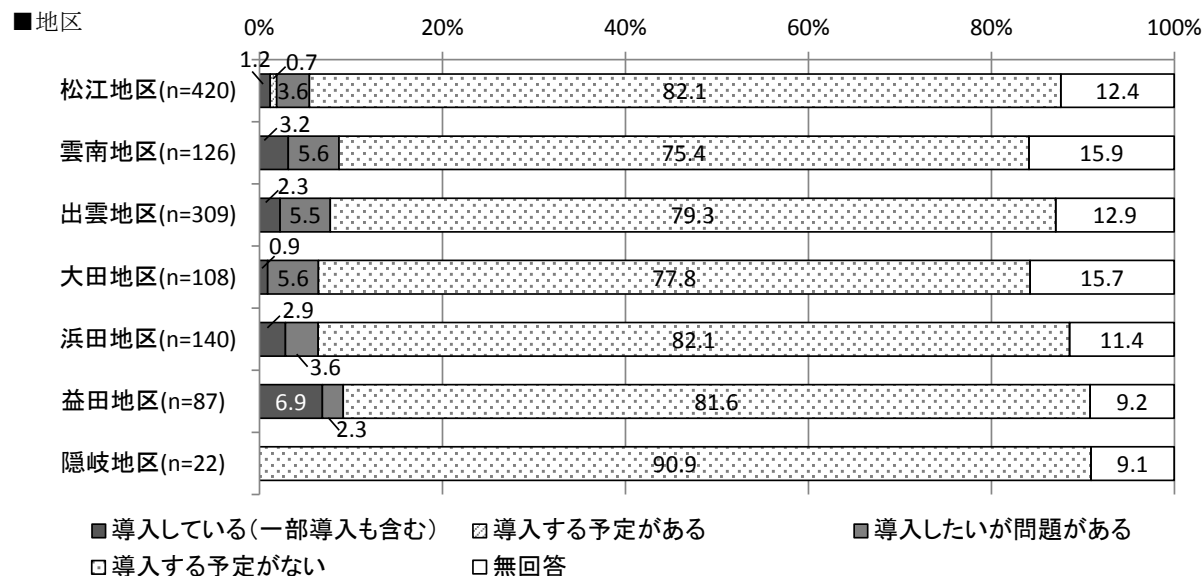
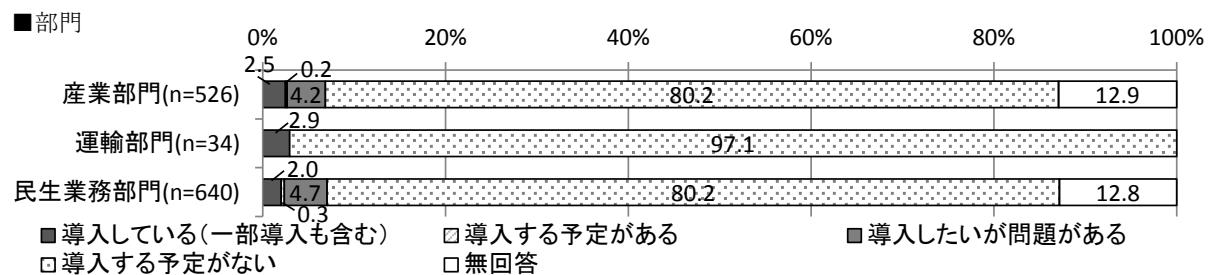
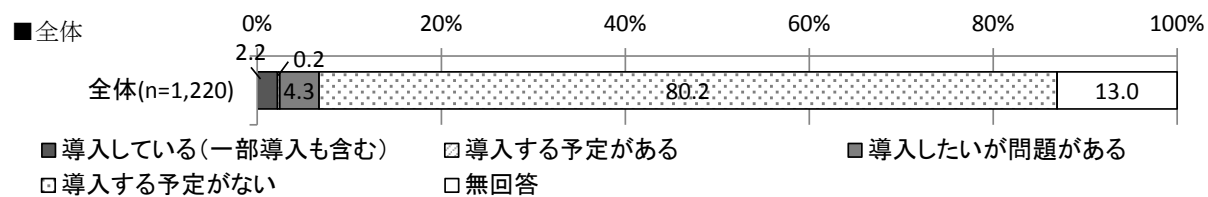
①太陽光発電システム

- ・全体の導入割合は7.0%であった。
- ・地区別にみると、雲南地区でわずかに導入割合が大きかった。
- ・従業員数別にみると、従業員数が多くなるほど、導入割合が大きい傾向がみられた。



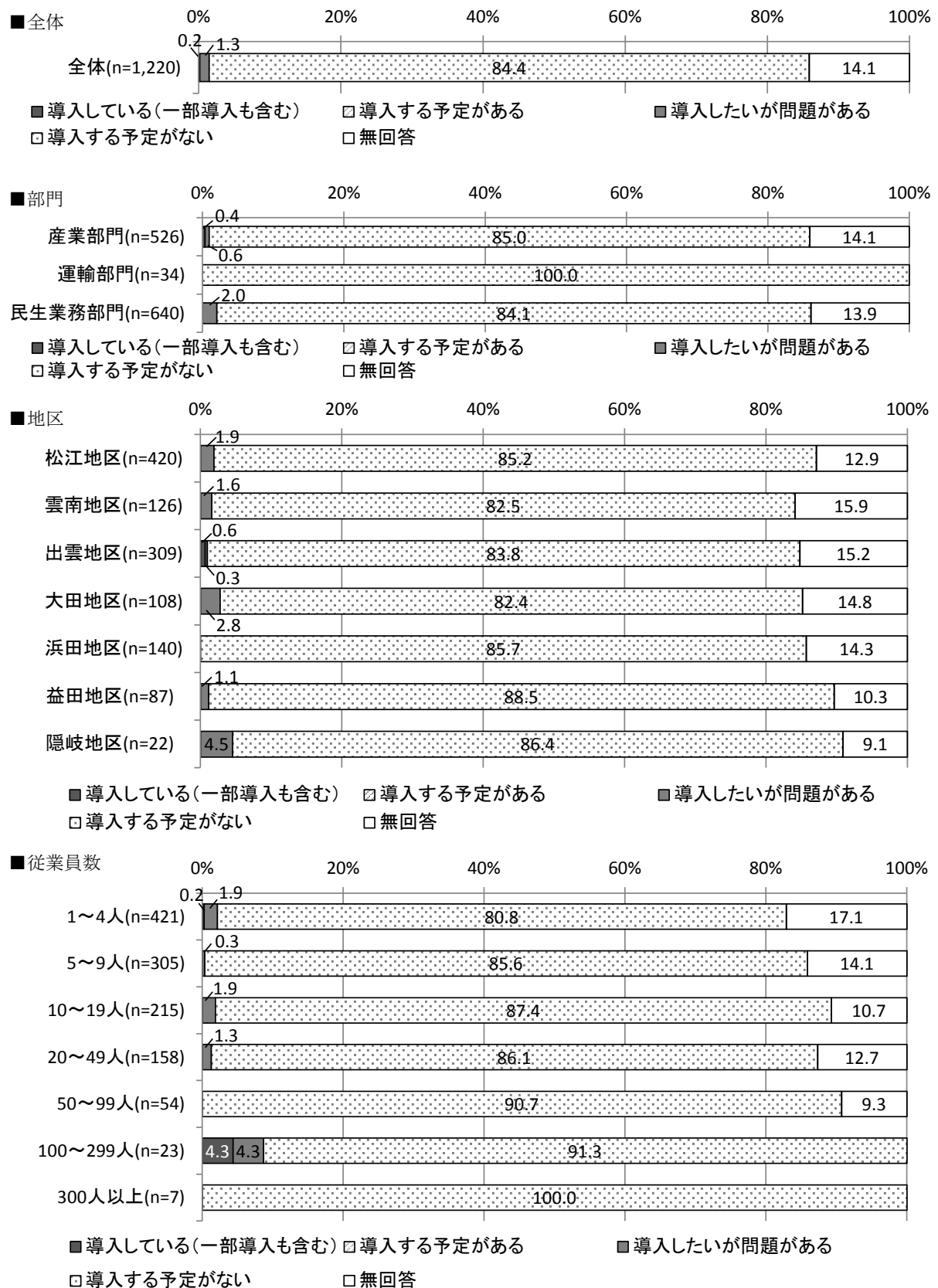
②太陽熱利用設備

・全体の導入割合は2.2%であった。



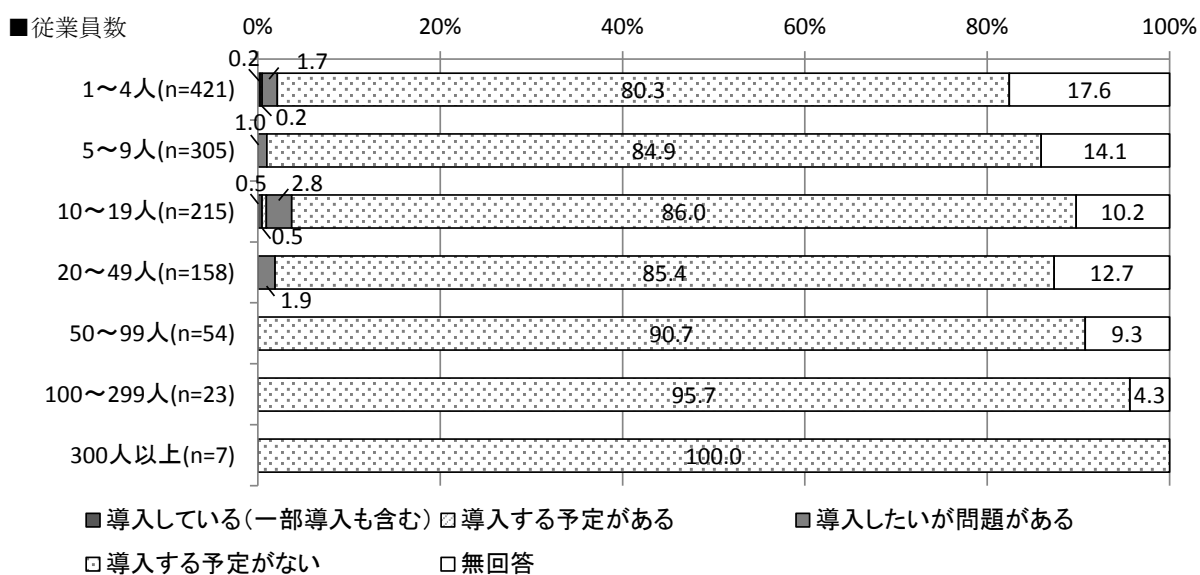
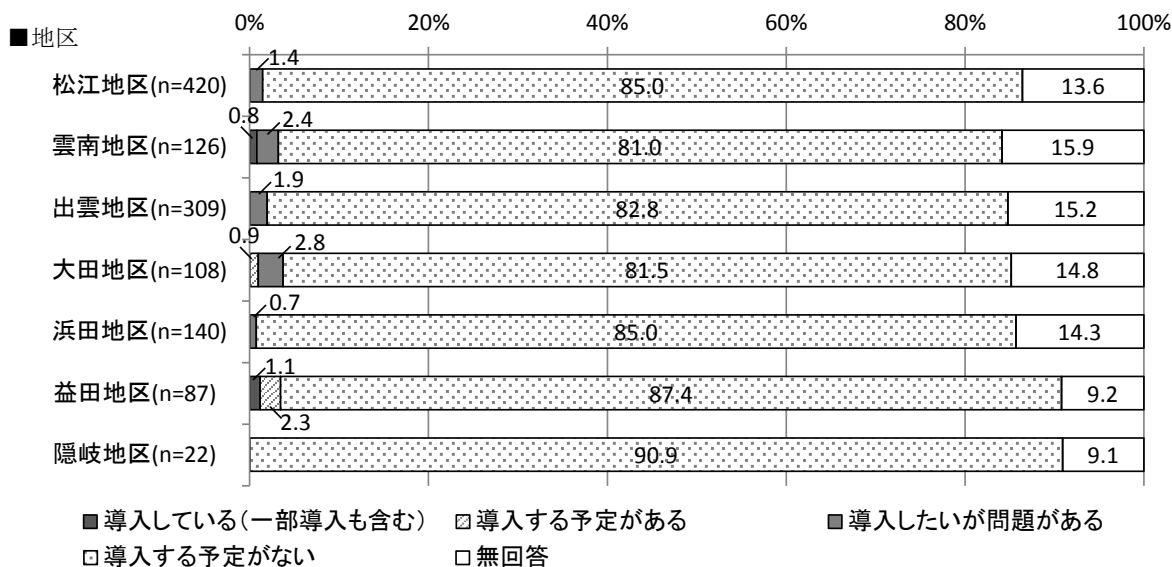
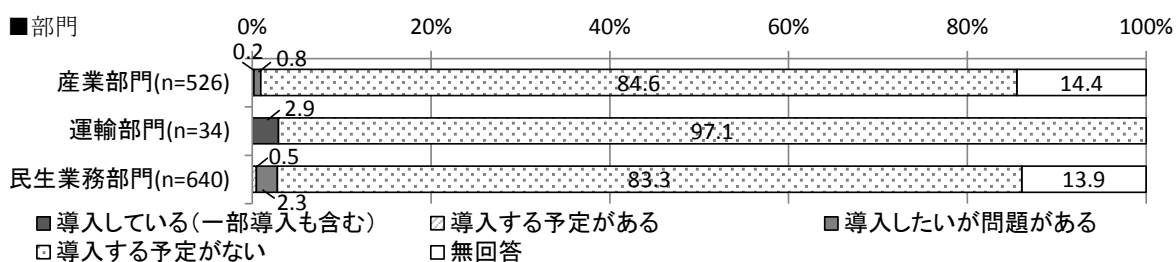
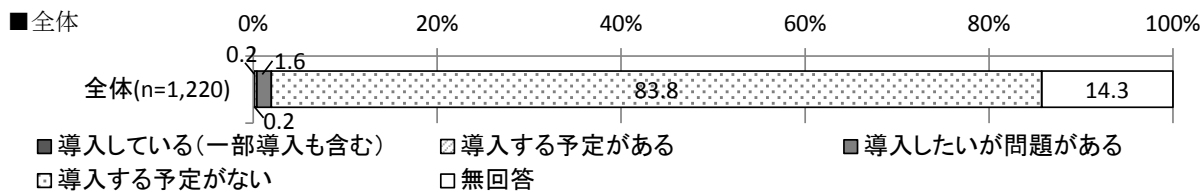
③風力発電

- ・全体の導入割合は0.2%であった。
- ・「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。



④エネファーム

- ・全体の導入割合は0.2%であった。
- ・「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。



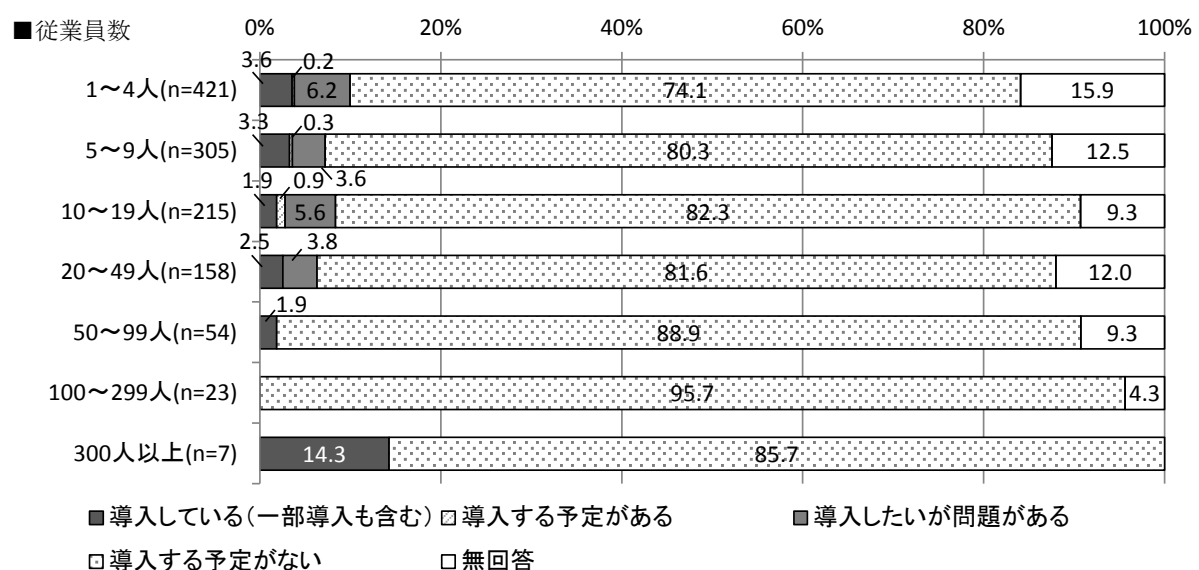
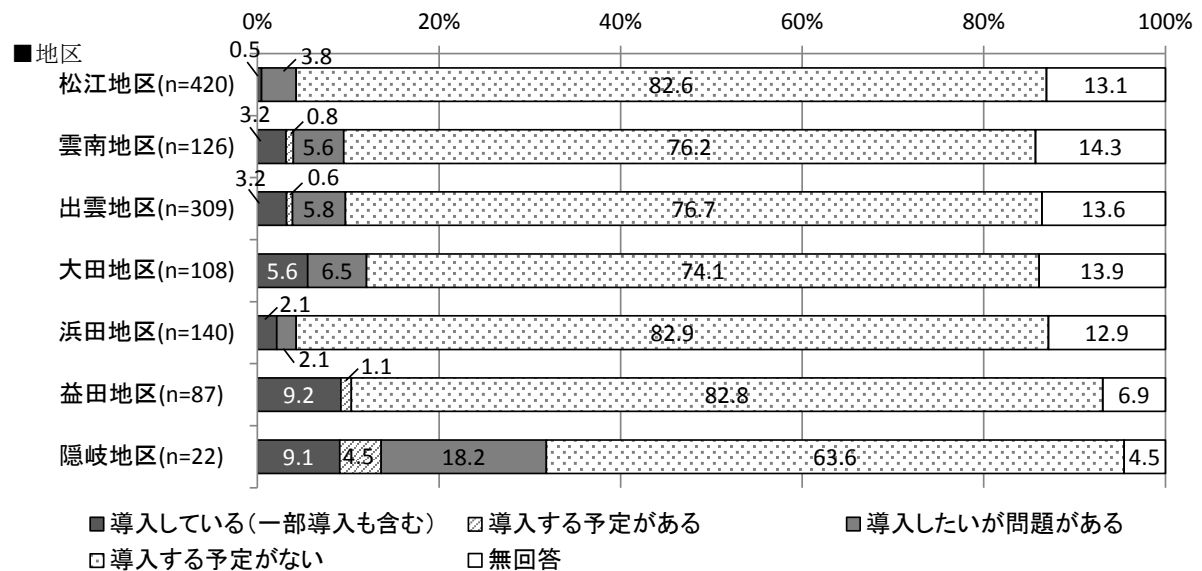
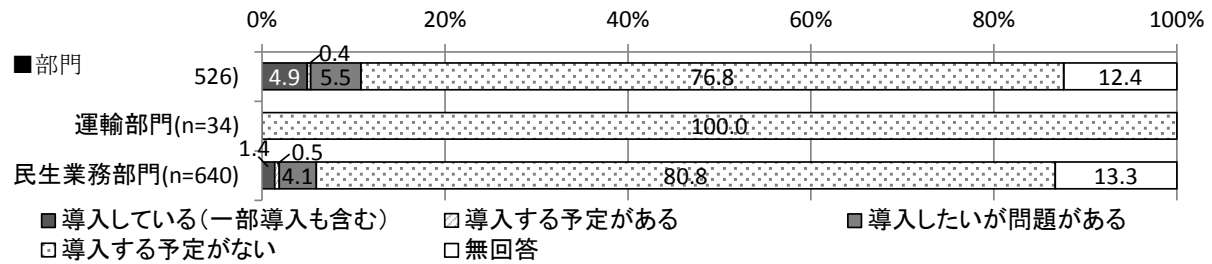
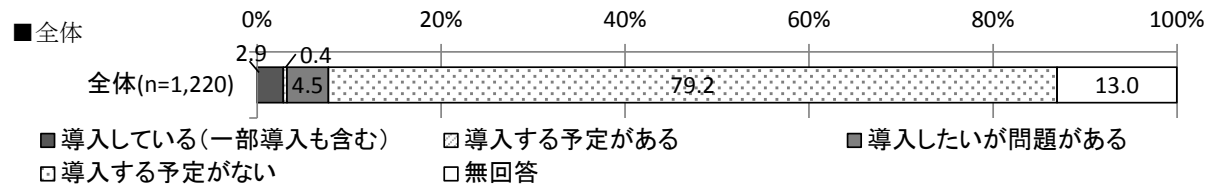
⑤木質バイオマスボイラー

- ・全体の導入割合は0.4%であった。
- ・「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。



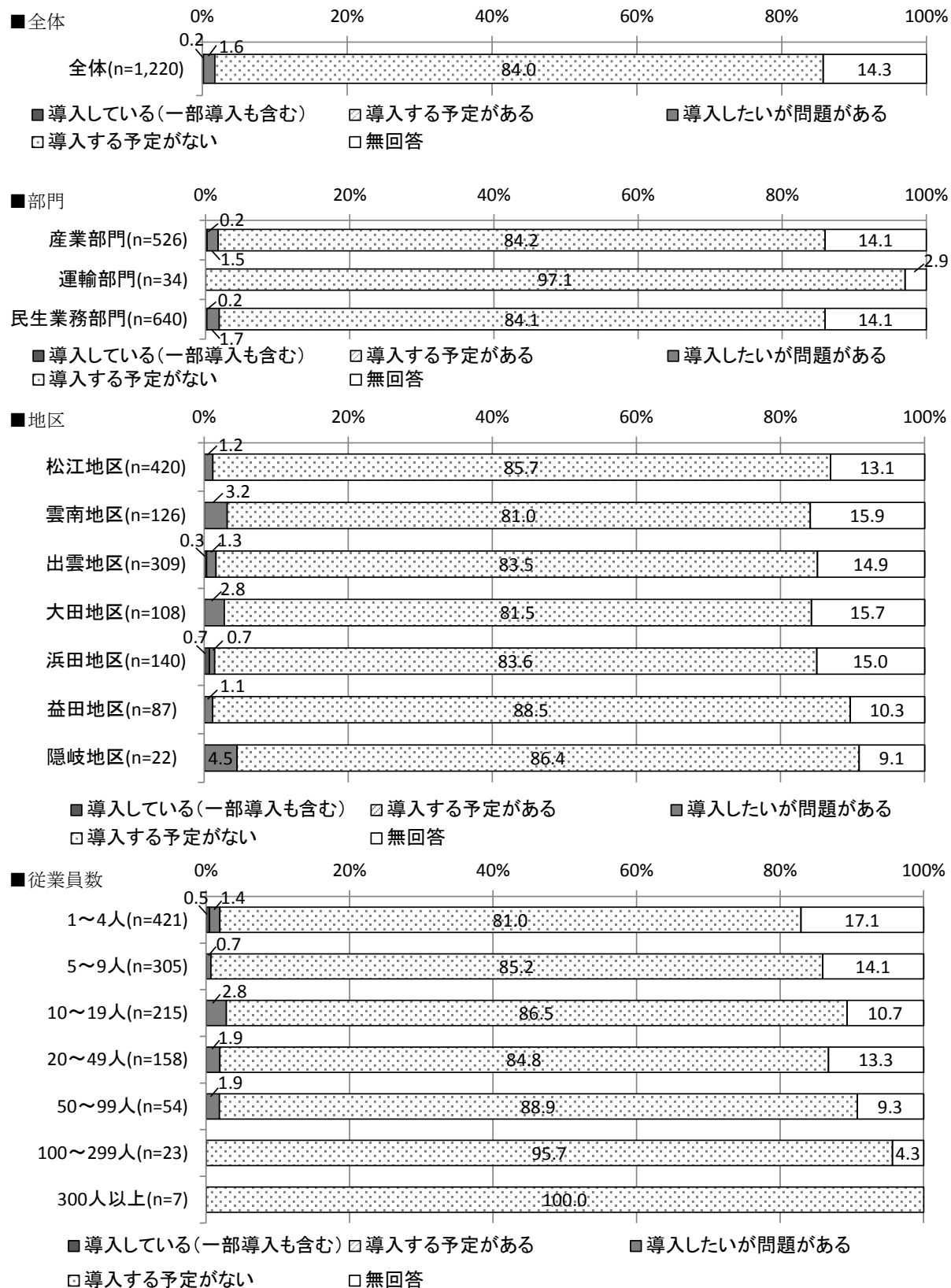
⑥薪ストーブやペレットストーブ

- ・全体の導入割合は2.9%であった。
- ・益田地区と隠岐地区でそれぞれ、9.2%、9.1%の事業所が導入しており、隠岐地区では「導入したいが問題がある」の割合が18.2%と他の地区よりも高かった。



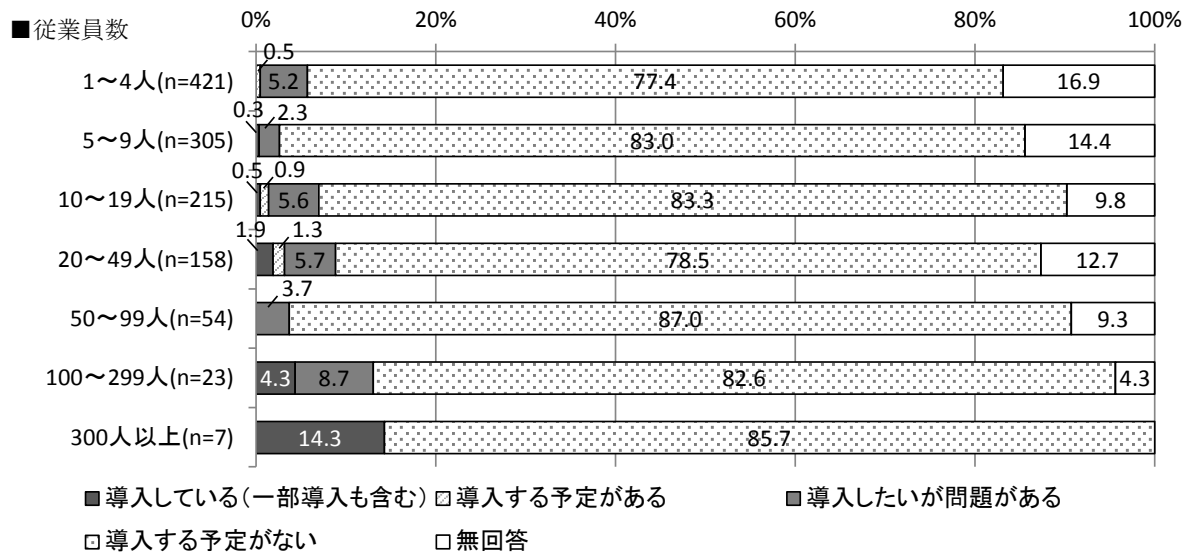
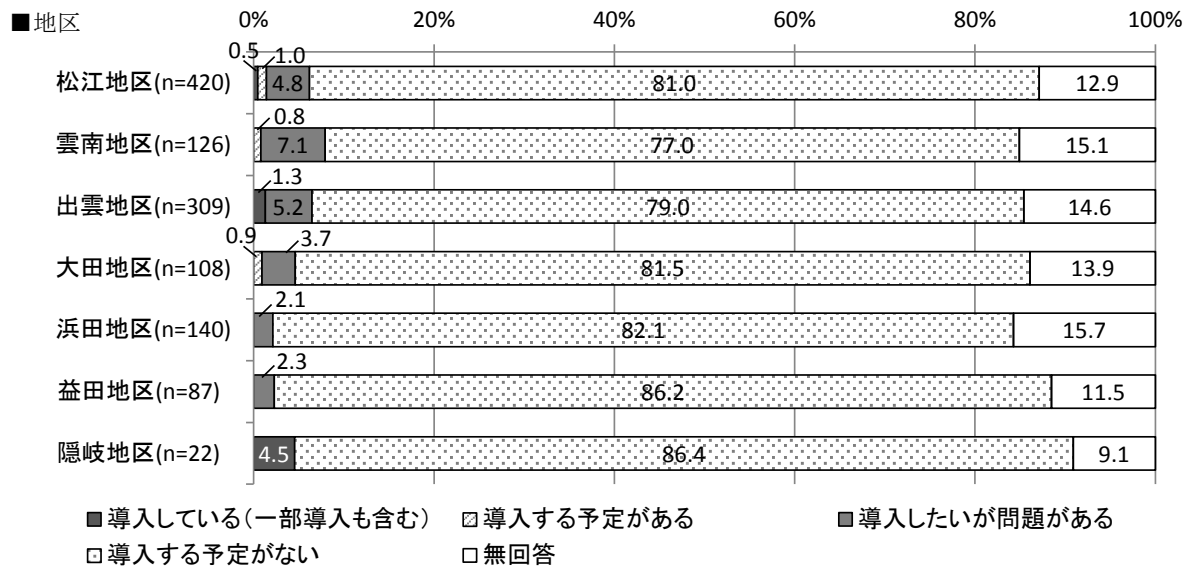
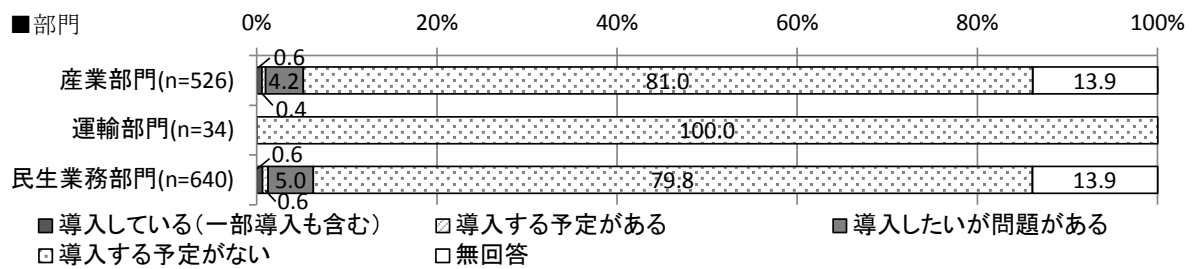
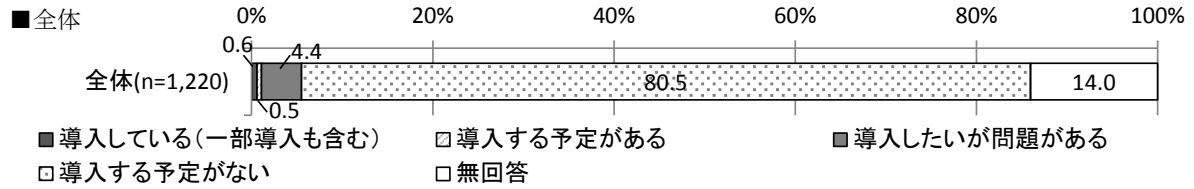
⑦ コージェネレーションシステム

- ・全体の導入割合は0.2%であった。
- ・「導入している」、「導入する予定がある」、「導入したいが問題がある」の回答割合はいずれの属性でも低く、属性による有意な差はみられなかった。



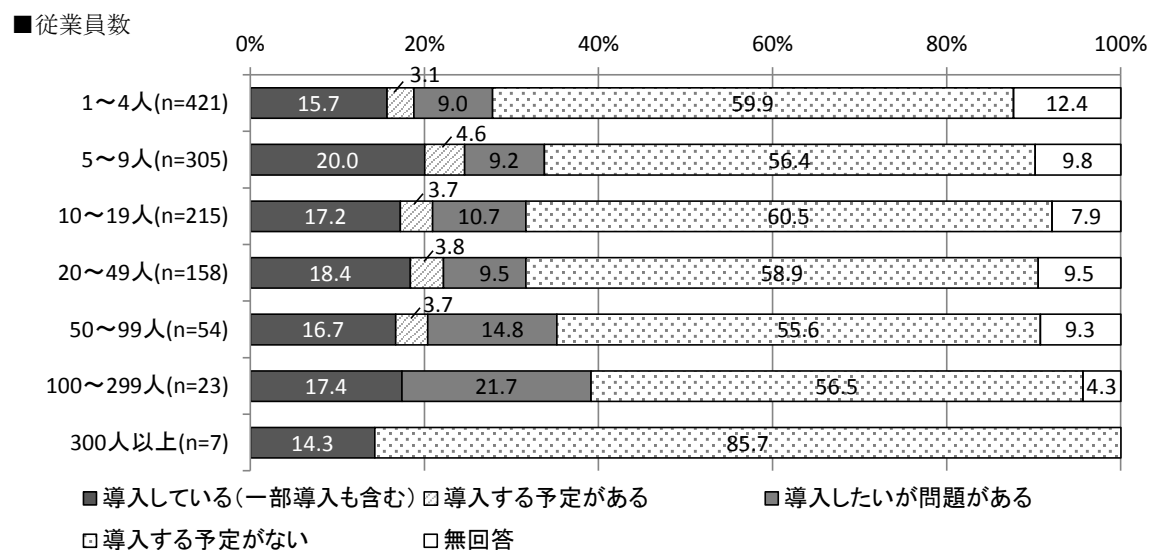
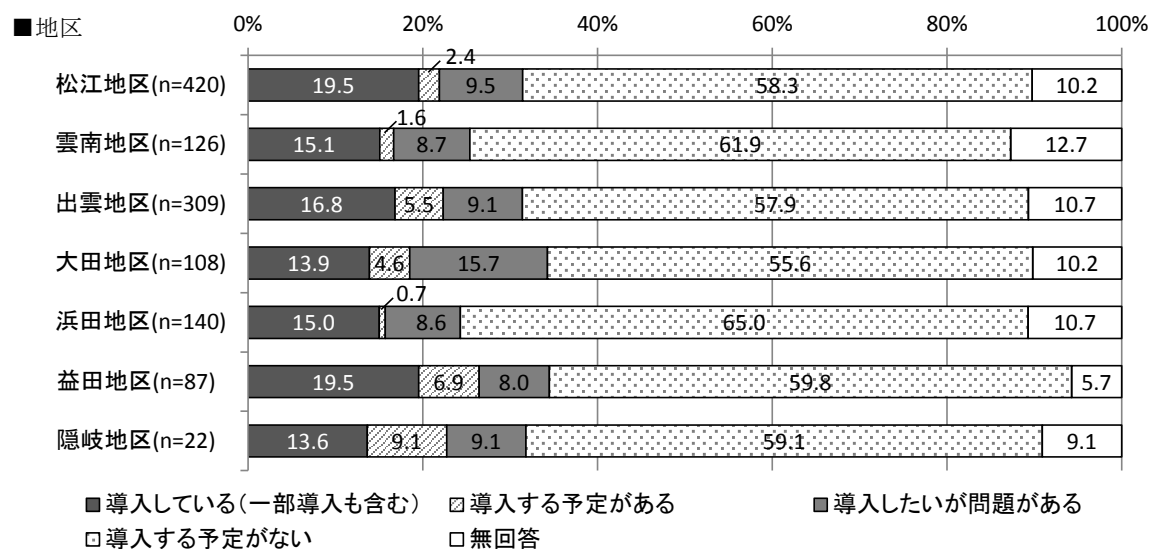
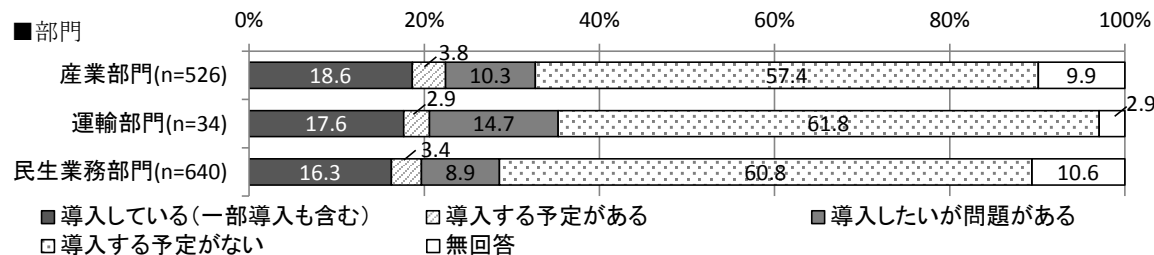
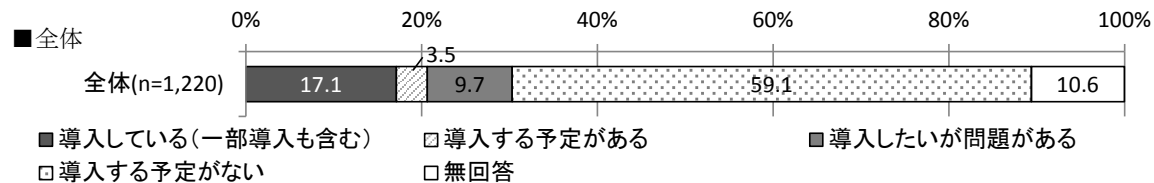
⑧蓄電池

- ・全体の導入割合は0.6%であった。
- ・従業員数別にみると、従業員数が多くなるほど導入割合がわずかに増加する傾向がみられた。



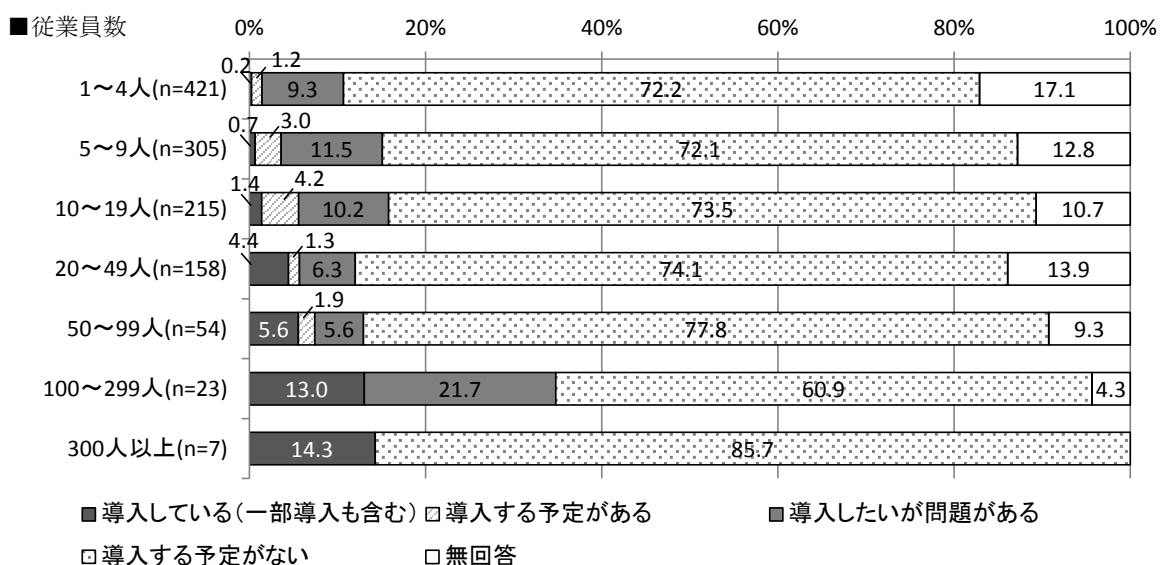
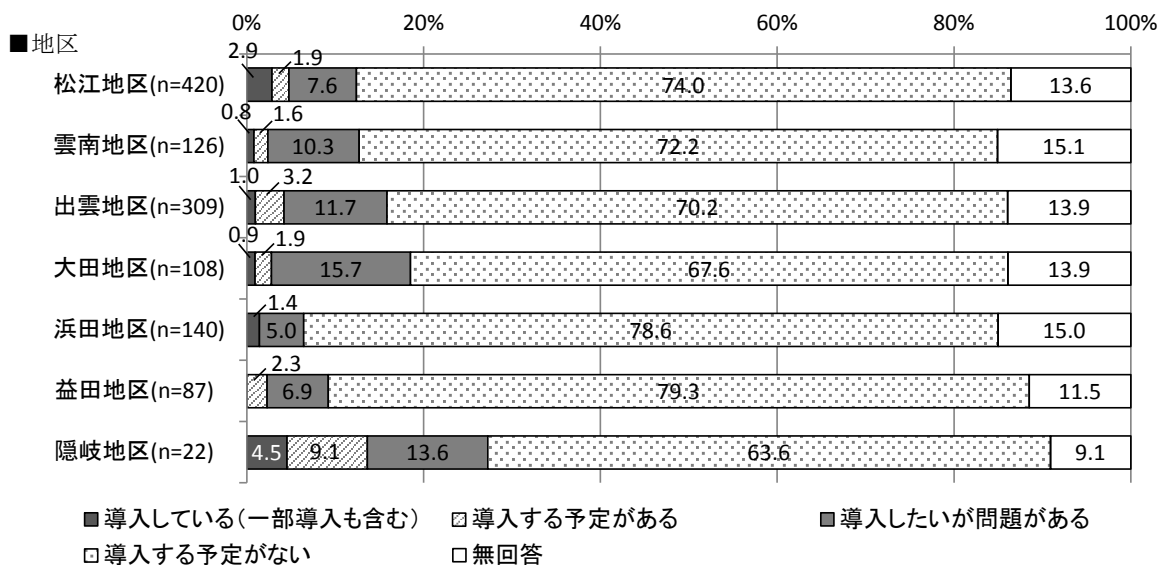
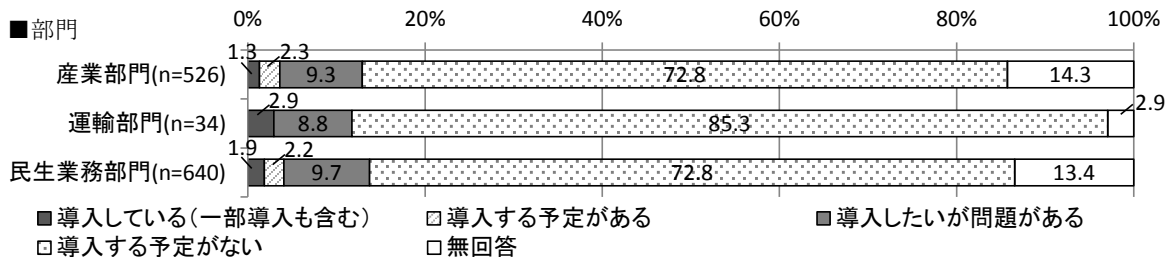
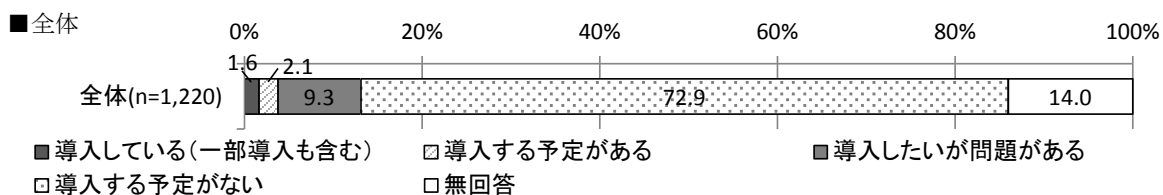
⑨ハイブリッド自動車やプラグインハイブリッド車

- ・全体では、他の設備と比べて導入割合は高く、「導入している」と「導入する予定がある」を合わせると2割程度となった。
- ・属性による有意な差はみられなかった。



⑩電気自動車

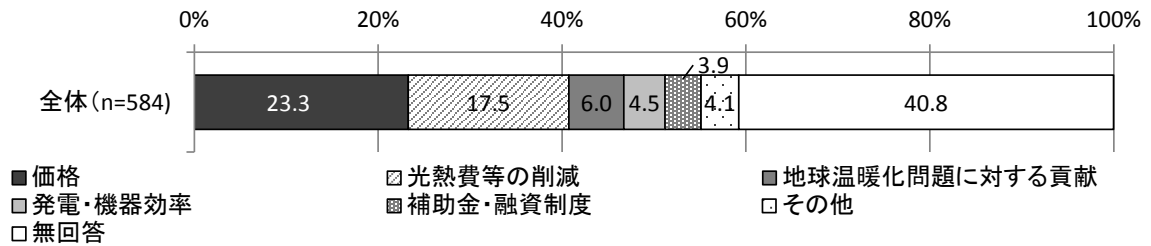
- ・全体の導入割合は1.6%であった。
- ・従業員数にみると、従業員数が多くなるほど、導入割合が大きくなる傾向がみられた。



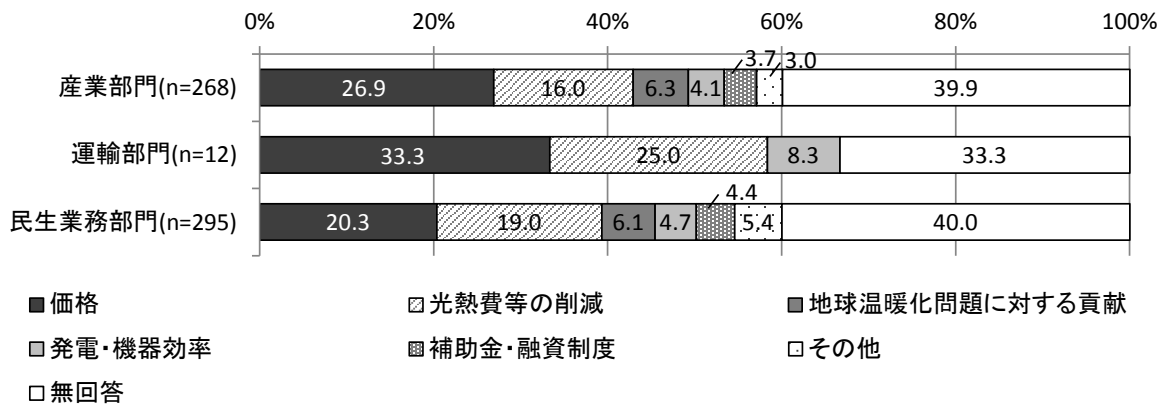
(2) 設備等を導入した際に重視したもの、もしくは導入する際に重視するもの（※1番目に重視したもの、重視するもの）

- ・全体の傾向として、主に「価格」と「光熱費等の軽減」が重視されていた。
- ・地区別にみると、益田地区では、「発電・機器効率」が他の地区よりも重視される傾向がみられた。

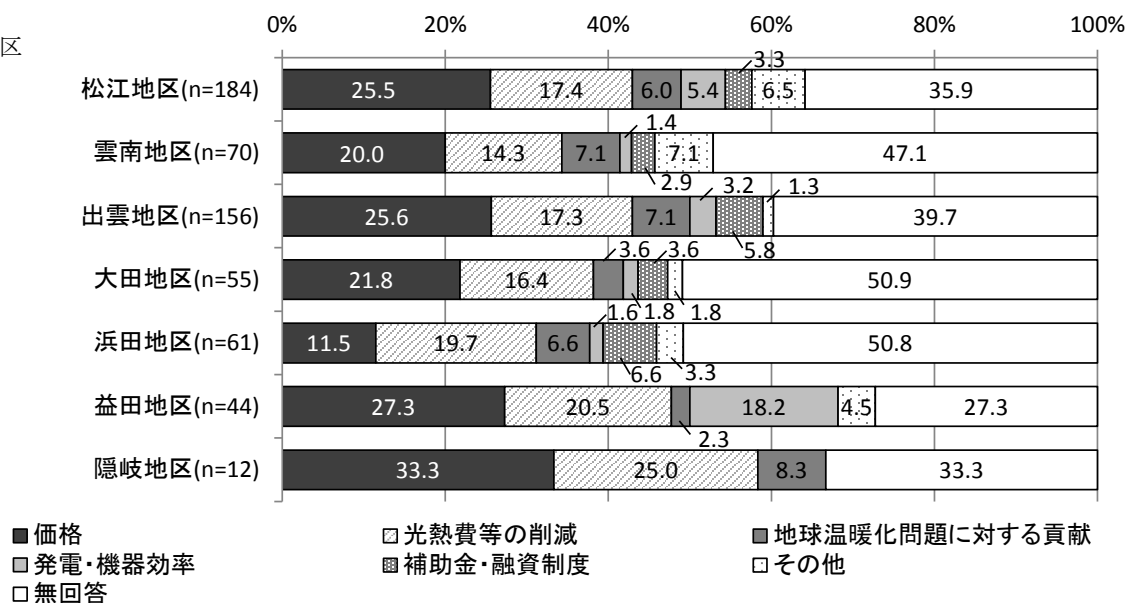
■全体

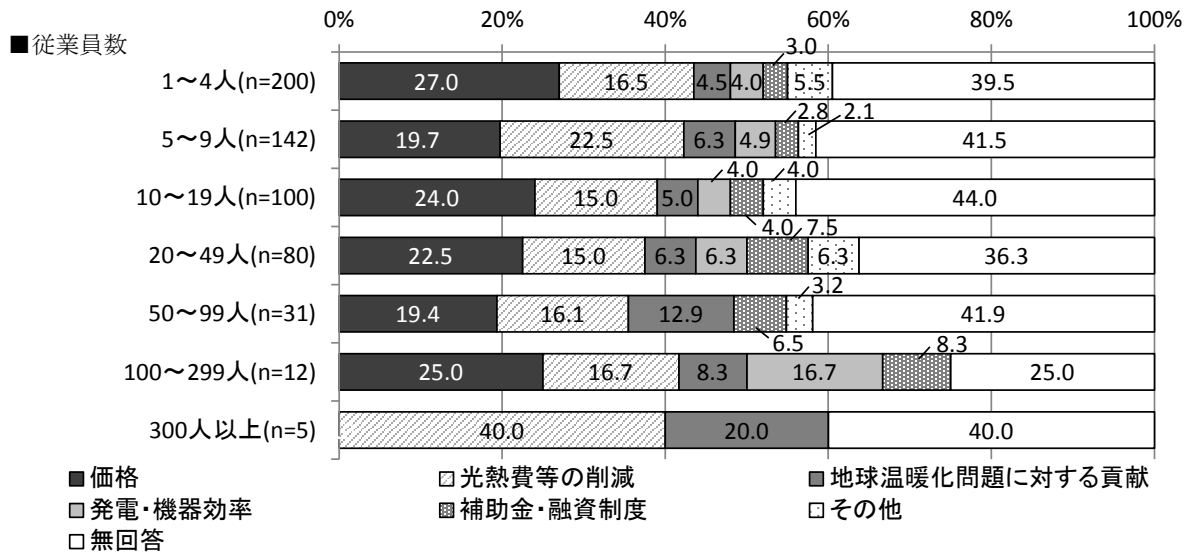


■部門



■地区





(3) 設備等を導入する上で問題となっているもの

- ・全体の傾向として、「価格が高い」が46.6%で導入する上での主な問題となっており、続いて、「社屋が古いため導入できる環境でない」が17.8%、「補助金・融資制度が不十分」が16.9%、「賃貸物件であるため導入できる環境でない」が15.9%であった。
- ・従業員数が多いほど「補助金・融資制度が不十分」の回答の割合が高くなる傾向がみられた。

■全体 (%)

	価格が高い	発電・機器効率が悪い	補助金・融資制度が不十分	環境に対する効果が疑問	光熱費等の削減の見通しがたたない	導入の仕方がわからない	社屋が古いため導入できる環境でない	賃貸物件であるため導入できる環境でない	そのほかの理由で導入できる環境でない	興味がない	その他	無回答
全体(n=1,113)	46.4	6.3	16.9	6.4	7.7	4.8	17.8	15.9	6.2	9.3	6.8	14.6

■部門 (%)

	価格が高い	発電・機器効率が悪い	補助金・融資制度が不十分	環境に対する効果が疑問	光熱費等の削減の見通しがたたない	導入の仕方がわからない	社屋が古いため導入できる環境でない	賃貸物件であるため導入できる環境でない	そのほかの理由で導入できる環境でない	興味がない	その他	無回答
産業部門(n=486)	49.2	7.0	16.9	6.8	7.6	3.7	17.9	12.8	6.8	10.1	7.2	14.6
運輸部門(n=34)	44.1	5.9	23.5	0.0	0.0	2.9	8.8	17.6	2.9	2.9	2.9	26.5
民生業務部門(n=577)	44.5	5.9	16.6	6.6	8.3	5.7	18.5	18.7	5.9	8.8	6.8	13.3

■地区 (%)

	価格が高い	発電・機器効率が悪い	補助金・融資制度が不十分	環境に対する効果が疑問	光熱費等の削減の見通しがたたない	導入の仕方がわからない	社屋が古いため導入できる環境でない	賃貸物件であるため導入できる環境でない	そのほかの理由で導入できる環境でない	興味がない	その他	無回答
松江地区(n=380)	45.5	5.5	15.5	6.8	6.6	6.6	16.8	22.4	7.4	9.2	4.7	13.2
雲南地区(n=115)	49.6	7.8	23.5	9.6	8.7	3.5	17.4	11.3	6.1	8.7	11.3	13.0
出雲地区(n=287)	45.6	5.9	16.7	5.6	6.3	3.8	18.1	13.6	5.9	9.8	5.9	16.0
大田地区(n=99)	56.6	10.1	22.2	5.1	10.1	2.0	18.2	11.1	4.0	5.1	11.1	13.1
浜田地区(n=125)	38.4	4.0	15.2	6.4	9.6	4.0	18.4	14.4	5.6	13.6	7.2	16.0
益田地区(n=81)	44.4	8.6	12.3	3.7	7.4	3.7	17.3	11.1	2.5	8.6	8.6	17.3
隠岐地区(n=20)	65.0	5.0	15.0	10.0	25.0	10.0	25.0	5.0	15.0	5.0	5.0	10.0

■従業員数 (%)

	価格が高い	発電・機器効率が悪い	補助金・融資制度が不十分	環境に対する効果が疑問	光熱費等の削減の見通しがたたない	導入の仕方がわからない	社屋が古いため導入できる環境でない	賃貸物件であるため導入できる環境でない	そのほかの理由で導入できる環境でない	興味がない	その他	無回答
1~4人(n=372)	43.0	5.1	11.8	6.2	5.9	3.0	18.0	19.1	4.6	10.2	9.4	16.9
5~9人(n=280)	51.8	6.4	15.4	5.0	6.4	4.6	18.9	18.2	8.6	8.6	5.7	10.7
10~19人(n=202)	43.1	7.4	22.3	5.9	7.9	6.4	20.3	13.4	5.0	11.9	4.0	13.9
20~49人(n=144)	45.8	6.9	18.8	10.4	13.2	4.9	12.5	11.8	6.3	8.3	6.9	13.2
50~99人(n=52)	59.6	7.7	28.8	9.6	15.4	15.4	15.4	7.7	5.8	5.8	3.8	11.5
100~299人(n=23)	69.6	17.4	43.5	8.7	13.0	4.3	21.7	4.3	13.0	4.3	8.7	4.3
300人以上(n=7)	57.1	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0

2-2-2. 事業所における省エネルギーの取組

現行の「再生可能エネルギー及び省エネルギーの推進に関する基本計画」では、平成 26 年度に実施した省エネルギー行動実態調査（事業者アンケート）の結果をもとに各項目の行動レベルを A、B、C に仕分けし、重点的に普及啓発に取り組むべき具体的な行動を「省エネ行動目標」として設定している。

【省エネ行動目標】

ア、行動項目ごとに、行動レベル（注）を A、B、C に仕分け

A：80%以上

B：40%～80%未満

C：40%未満

（注：「実施している（一部実施も含む）」と回答のあった事業所の割合を行動レベルとして算出）
イ、行動レベルが低いものは引き上げ、すでに行動レベルが高いものは現状維持

本調査では、省エネ行動の経年変化を把握するため、前回（平成 26 年度）の調査項目と同一項目を調査することを基本とし、項目の追加や削除・統合、わかりやすい設問に修正するなど一部見直しを行って実施した。

■本調査での省エネ行動項目 57 項目

（1）施設についての取組……………36 項目

〔設備に関するもの……………16 項目（追加 1、削除・統合 2、修正 4）〕

〔運用に関するもの……………20 項目（追加 2、修正 1）〕

（2）自動車・輸送についての取組……………6 項目

（3）資源の有効活用についての取組……………15 項目（追加 2）

■ 事業所における省エネルギーの取組

	省エネ 行動目標	H26 (n=696)		H30 (n=1,220)		取組割合の 増減 (H30 - H26)
		取組割合 (%)	行動 レベル	取組割合 (%)	行動 レベル	
1) 施設についての取組						
1.建物、作業所、店舗の断熱化を図っている		22.8	C	18.6	C	-4.2
2.空調機はゾーン毎にON/OFFができる		61.2	B	42.5	B	-18.7
3.ポンプやファンなどの設備について、インバーター機を導入している※1)		21.6	C	10.3	C	-11.2
4.空調設備の高効率型への更新※2)		12.5	C	16.5	C	4.0
5.蓄熱式空調システムを採用している		3.0	C	1.3	C	-1.7
6.デシカント空調システムを採用している		未実施	—	0.8	C	—
7.部屋の照明はゾーン毎にON/OFFができる		80.6	A	60.4	B	-20.2
8.LED照明を採用している		30.6	C	50.2	B	19.6
9.トイレなどに人感センサー付きの照明器具を採用している		17.2	C	21.2	C	4.0
10.デマンド管理装置を導入している		7.8	C	5.8	C	-1.9
11.集中管理装置(BEMSやFEMS)を導入している※3)		2.7	C	1.8	C	-0.9
12.給湯設備の高効率型への更新(エコキュート、エコジョーズ等)※4)		11.5	C	9.1	C	-2.4
13.冷蔵庫・ショーケースなどの高効率型への更新		9.5	C	8.1	C	-1.4
14.変電設備(トランス)の高効率型への更新		6.9	C	3.8	C	-3.1
15.廃熱回収・放熱処理システムを導入している		1.4	C	0.6	C	-0.9
16.ESCO事業の導入		2.2	C	0.6	C	-1.6
17.敷地や建物の屋上など緑化を推進している	○	18.2	C	14.2	C	-4.1
18.室温は、暖房時は20℃、冷房時は28℃を目安に設定している	○	56.3	B	47.5	B	-8.8
19.事務室など支障がない場所では、春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている※5)	○	80.7	A	74.2	B	-6.6
20.室外機等への散水を行っている	◎	20.7	C	16.6	C	-4.1
21.ファン、コンプレッサーなど設備の清掃を行っている	◎	53.3	B	43.3	B	-10.0
22.事業所として、クールビズ・ウォームビズを奨励している	◎	59.6	B	51.9	B	-7.7
23.昼休みに必要のない照明を消灯している	○	79.6	B	68.0	B	-11.6
24.明るい窓際では消灯に心がけている	○	72.1	B	61.7	B	-10.4
25.使用していないOA機器の電源を切っている	◎	71.0	B	61.9	B	-9.1
26.電気や燃料の使用データを把握し、効率的なエネルギー利用に取り組んでいる	◎	35.9	C	28.6	C	-7.3
27.管理標準を整備している※6)	◎	9.6	C	7.0	C	-2.7
28.環境マネジメントシステムを導入している		未実施	—	2.7	C	—
29.エネルギー管理体制を構築している	◎	7.2	C	2.5	C	-4.6
30.契約電力の見直しを行っている(メニュー)	◎	19.7	C	24.1	C	4.4
31.電動機のVベルトを取り替えている	○	15.2	C	8.4	C	-6.9
32.設備運転の見直しを行っている(温度・時間等)	◎	19.5	C	11.3	C	-8.2
33.省エネルギー診断を実施している	◎	7.5	C	4.4	C	-3.0
34.地球温暖化問題に関するセミナーや研究などに参加している	◎	9.5	C	6.4	C	-3.1
35.省エネ目標を設定している	◎	12.2	C	7.6	C	-4.6
36.貴事業所での取組(上記17~35など)を従業員に周知している		未実施	—	30.7	C	—
2) 自動車・輸送についての取組						
1.停車時のアイドリングストップを指導・励行している	◎	40.4	B	41.1	B	0.7
2.燃費向上のため、日常・定期点検整備を指導・励行している	◎	54.0	B	49.4	B	-4.6
3.経済速度での運転を指導・励行している	◎	62.4	B	53.6	B	-8.7
4.マイカー通勤の自粛を呼びかけている	◎	9.6	C	7.1	C	-2.5
5.多頻度・少量配送の見直しをしている	○	20.8	C	15.7	C	-5.2
6.共同配送システム及び配送サイクルの効率化を行っている	○	10.6	C	6.6	C	-4.0
3) 資源の有効利用についての取組						
1.廃棄物や資源物といったバイオマスエネルギーを利用している	○	2.6	C	3.4	C	0.8
2.廃熱の回収利用を行い、エネルギー利用率の向上を図っている	○	3.0	C	1.6	C	-1.5
3.廃棄物の発生を抑制し、リユース、リサイクルに努めている	◎	34.9	C	34.2	C	-0.7
4.グリーン製品、エコ商品を調達している	◎	27.6	C	22.6	C	-5.0
5.リサイクル部材を利用している	○	27.7	C	25.4	C	-2.3
6.使用済み製品の回収及び再製品化を行っている	○	25.4	C	23.4	C	-2.0
7.古紙パルプ配合紙を使用している	◎	43.0	B	36.8	C	-6.2
8.紙の表裏(両面)を利用している	◎	77.4	B	70.7	B	-6.7
9.梱包、包装の簡素化を図っている	○	46.4	B	33.9	C	-12.5
10.使い捨ての製品の使用を抑制している(紙コップ、割り箸、作業軍手等)	○	43.7	B	36.0	C	-7.7
11.工場、店舗の廃棄物を分別している	◎	70.0	B	61.6	B	-8.4
12.排水処理の改善を図っている	◎	24.3	C	18.9	C	-5.4
13.工場用水の再利用(洗浄水、冷却水の再利用)を行っている	○	5.7	C	2.5	C	-3.3
14.生産工程での歩留まり向上に努めている		未実施	—	11.5	C	—
15.在庫管理の適正化を進め、劣化廃棄をなくしている		未実施	—	30.6	C	—

※1) H26の設問:「インバーター機を導入している」
 ※2) H26の設問:「空調設備の更新(熱源交換)」
 ※3) H26の設問:「集中管理装置(BEMS)を導入している」
 ※4) H26の設問:「給湯設備の更新(エコキュート、エコジョーズ、ボイラー廃止等)」
 ※5) H26の設問:「春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている」
 ※6) 省エネ行動目標に記載の行動項目:「エネルギー使用設備の運転管理、計測・記録、保守・点検方法を定めたマニュアルを整備している」

注) 省エネ行動目標
 「○」:目標設定あり
 「◎」:優先的に取り組む省エネ行動

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

(1) 施設についての取組

- ・「7.部屋の照明はゾーン毎に ON/OFF ができる」の取組割合は 80.6%から 60.4%に減少し、行動レベルが A から B となった。
- ・「8.LED 照明を採用している」の取組割合は 30.6%から 50.2%に増加し、行動レベルが C から B となった。
- ・「19.事務室など支障がない場所では、春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている」の取組割合は 80.7%から 74.2%に減少し、行動レベルが A から B となった。

■全体	H26 (n=696)		H30 (n=1,220)			取組割合の 増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動レベル	取組割合 (%)	行動レベル	「該当しない 機器がない」 の割合 (%)	
1.建物、作業所、店舗の断熱化を図っている	22.8	C	18.6	C	31.1	-4.2
2.空調機はゾーン毎にON/OFFができる	61.2	B	42.5	B	33.8	-18.7
3.ポンプやファンなどの設備について、インバーター機を導入している ^{※1)}	21.6	C	10.3	C	55.6	-11.2
4.空調設備の高効率型への更新 ^{※2)}	12.5	C	16.5	C	34.9	4.0
5.蓄熱式空調システムを採用している	3.0	C	1.3	C	58.0	-1.7
6.デシカント空調システムを採用している	未実施	—	0.8	C	59.5	—
7.部屋の照明はゾーン毎にON/OFFができる	80.6	A	60.4	B	19.8	-20.2
8.LED照明を採用している	30.6	C	50.2	B	17.5	19.6
9.トイレなどに人感センサー付きの照明器具を採用している	17.2	C	21.2	C	37.1	4.0
10.デマンド管理装置を導入している	7.8	C	5.8	C	59.1	-1.9
11.集中管理装置(BEMSやFEMS)を導入している ^{※3)}	2.7	C	1.8	C	62.0	-0.9
12.給湯設備の高効率型への更新(エコキュート、エコジョーズ等) ^{※4)}	11.5	C	9.1	C	51.1	-2.4
13.冷蔵庫・ショーケースなどの高効率型への更新	9.5	C	8.1	C	48.8	-1.4
14.変電設備(トランス)の高効率型への更新	6.9	C	3.8	C	56.6	-3.1
15.廃熱回収・放熱処理システムを導入している	1.4	C	0.6	C	63.5	-0.9
16.ESCO事業の導入	2.2	C	0.6	C	58.7	-1.6
17.敷地や建物の屋上など緑化を推進している	18.2	C	14.2	C	37.4	-4.1
18.室温は、暖房時は20℃、冷房時は28℃を目安に設定している	56.3	B	47.5	B	12.2	-8.8
19.事務室など支障がない場所では、春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている ^{※5)}	80.7	A	74.2	B	7.5	-6.6
20.室外機等への散水を行っている	20.7	C	16.6	C	29.7	-4.1
21.ファン、コンプレッサーなど設備の清掃を行っている	53.3	B	43.3	B	21.6	-10.0
22.事業所として、クールビズ・ウォームビズを奨励している	59.6	B	51.9	B	17.8	-7.7
23.昼休みに必要のない照明を消灯している	79.6	B	68.0	B	9.2	-11.6
24.明るい窓際では消灯に心がけている	72.1	B	61.7	B	10.5	-10.4
25.使用していないOA機器の電源を切っている	71.0	B	61.9	B	9.2	-9.1
26.電気や燃料の使用データを把握し、効率的なエネルギー利用に取り組んでいる	35.9	C	28.6	C	23.4	-7.3
27.管理標準を整備している	9.6	C	7.0	C	37.8	-2.7
28.環境マネジメントシステムを導入している	未実施	—	2.7	C	46.6	—
29.エネルギー管理体制を構築している	7.2	C	2.5	C	46.8	-4.6
30.契約電力の見直しを行っている(メニュー)	19.7	C	24.1	C	31.1	4.4
31.電動機のVベルトを取り替えている	15.2	C	8.4	C	55.8	-6.9
32.設備運転の見直しを行っている(温度・時間等)	19.5	C	11.3	C	44.0	-8.2
33.省エネルギー診断を実施している	7.5	C	4.4	C	45.4	-3.0
34.地球温暖化問題に関するセミナーや研究などに参加している	9.5	C	6.4	C	38.9	-3.1
35.省エネ目標を設定している	12.2	C	7.6	C	37.0	-4.6
36.貴事業所での取組(上記17～35など)を従業員に周知している	未実施	—	30.7	C	25.6	—

※1) H26の設問:「インバーター機を導入している」
 ※2) H26の設問:「空調設備の更新(熱源交換)」
 ※3) H26の設問:「集中管理装置(BEMS)を導入している」

※4) H26の設問:「給湯設備の更新(エコキュート、エコジョーズ、ボイラー廃止等)」
 ※5) H26の設問:「春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている」

(A:80%以上、B:40%～80%未満、C:40%未満)

- ・従業員数別にみると、従業員数が多いほど、取組割合が高い傾向がみられる。
- ・延床面積別にみると、延床面積が大きい事業所ほど、取組割合が高い傾向がみられる。

■従業員数 注)各従業員数カテゴリの「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	1~4人 (n=421)	5~9人 (n=305)	10~19人 (n=215)	20~49人 (n=158)	50~99人 (n=54)	100~299人 (n=23)	300人以上 (n=7)
1.建物、作業所、店舗の断熱化を図っている	-4.6	-3.5	3.3	9.2	5.5	29.2	24.3
2.空調機はゾーン毎にON/OFFができる	-13.3	-4.1	10.1	19.5	27.9	31.4	43.2
3.ポンプやファンなどの設備について、インバーター機を導入している	-4.9	-0.5	-1.0	6.8	13.7	33.2	18.2
4.空調設備の高効率型への更新	-7.0	-0.1	0.3	9.5	18.7	35.7	12.1
5.蓄熱式空調システムを採用している	-0.6	-0.7	-1.3	2.5	2.4	7.4	13.0
6.デシカント空調システムを採用している	-0.8	-0.2	-0.4	1.7	-0.8	-0.8	27.8
7.部屋の照明はゾーン毎にON/OFFができる	-11.7	4.2	5.2	13.0	19.2	13.5	25.3
8.LED照明を採用している	-11.2	-3.3	5.7	16.3	25.8	28.1	35.6
9.トイレなどに人感センサー付きの照明器具を採用している	-4.6	-1.9	-1.2	9.8	8.4	39.6	35.9
10.デマンド管理装置を導入している	-4.4	-3.9	-2.6	6.8	23.8	37.7	65.6
11.集中管理装置(BEMSやFEMS)を導入している	-1.1	-1.1	-1.8	3.3	5.6	15.6	12.5
12.給湯設備の高効率型への更新(エコキュート、エコジョーズ等)	1.4	-2.2	-2.1	1.0	3.9	8.3	19.5
13.冷蔵庫・ショーケースなどの高効率型への更新	-2.4	-2.5	0.3	4.5	16.0	18.0	6.2
14.変電設備(トランス)の高効率型への更新	-2.1	0.2	-1.0	1.3	5.5	22.3	24.8
15.廃熱回収・放熱処理システムを導入している	-0.6	0.1	-0.1	0.7	-0.6	8.1	-0.6
16.ESCO事業の導入	-0.6	-0.2	-0.6	0.7	1.3	8.1	13.7
17.敷地や建物の屋上など緑化を推進している	-4.2	-1.7	3.0	6.1	4.3	29.3	28.7
18.室温は、暖房時は20℃、冷房時は28℃を目安に設定している	-3.1	0.7	-6.1	11.3	6.2	13.3	38.2
19.事務室など支障がない場所では、春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている	-5.3	3.2	3.0	6.2	12.9	-9.0	25.8
20.室外機等への散水を行っている	-4.2	0.2	3.9	3.7	7.5	0.8	12.0
21.ファン、コンプレッサーなど設備の清掃を行っている	-8.1	-0.3	5.6	6.1	14.1	30.6	28.1
22.事業所として、クールビズ・ウォームビズを奨励している	-9.1	-0.1	2.1	15.8	27.7	13.3	19.5
23.昼休みに必要のない照明を消灯している	-6.8	3.8	5.9	4.1	9.7	-2.8	32.0
24.明るい窓際では消灯に心がけている	0.5	1.6	2.5	-3.5	-0.6	-5.2	24.0
25.使用していないOA機器の電源を切っている	-6.3	3.7	5.6	0.8	10.3	12.0	38.1
26.電気や燃料の使用データを把握し、効率的なエネルギー利用に取り組んでいる	-4.6	-3.4	-1.2	10.6	15.8	45.3	28.5
27.管理標準を整備している	-2.0	-1.7	0.9	2.5	6.0	19.1	35.9
28.環境マネジメントシステムを導入している	-2.2	-1.7	-0.4	3.6	8.4	19.0	25.9
29.エネルギー管理体制を構築している	-1.6	-1.2	-1.1	2.5	3.0	23.5	40.3
30.契約電力の見直しを行っている(メニュー)	-9.1	-6.1	0.6	17.0	37.0	41.1	61.6
31.電動機のVベルトを取り替えている	-1.7	0.5	0.9	1.1	-1.0	9.0	48.8
32.設備運転の見直しを行っている(温度・時間等)	-4.7	-2.5	5.0	2.6	9.1	19.1	45.8
33.省エネルギー診断を実施している	-2.8	-0.8	-1.6	3.2	6.7	30.4	38.4
34.地球温暖化問題に関するセミナーや研究などに参加している	-2.1	-3.1	2.4	3.1	10.3	15.3	7.9
35.省エネ目標を設定している	-2.6	-1.1	-1.1	3.1	7.2	27.2	49.5
36.貴事業所での取組(上記17~35など)を従業員に周知している	-8.6	-1.1	1.9	9.9	28.6	43.3	40.8

■延床面積 注)各延床面積カテゴリの「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	1~100㎡未 満 (n=256)	100~500㎡ 未 満 (n=414)	500~1,000 ㎡未 満 (n=117)	1,000~2,000 ㎡未 満 (n=81)	2,000~5,000 ㎡未 満 (n=72)	5,000~ 10,000㎡未 満 (n=19)	10,000㎡以 上 (n=30)
1.建物、作業所、店舗の断熱化を図っている	-4.2	0.2	-2.4	4.9	17.5	13.0	21.4
2.空調機はゾーン毎にON/OFFができる	-12.4	3.2	4.5	10.6	20.0	31.2	14.2
3.ポンプやファンなどの設備について、インバーター機を導入している	-6.0	-0.9	4.2	7.0	7.7	21.3	33.0
4.空調設備の高効率型への更新	-5.9	0.4	1.5	8.2	15.5	30.9	16.9
5.蓄熱式空調システムを採用している	-0.9	-1.1	-0.5	4.9	1.5	-1.3	8.7
6.デシカント空調システムを採用している	-0.4	-0.3	-0.8	1.6	-0.8	4.4	2.5
7.部屋の照明はゾーン毎にON/OFFができる	-13.9	4.1	9.7	14.9	9.0	18.5	6.3
8.LED照明を採用している	-9.1	0.6	11.4	2.9	8.2	13.0	23.2
9.トイレなどに人感センサー付きの照明器具を採用している	-4.8	-2.1	3.6	13.3	7.9	20.9	22.1
10.デマンド管理装置を導入している	-4.6	-4.4	-2.4	5.3	20.6	25.8	37.5
11.集中管理装置(BEMSやFEMS)を導入している	-0.6	-1.6	-0.9	0.7	6.5	19.2	8.2
12.給湯設備の高効率型への更新(エコキュート、エコジョーズ等)	0.3	-0.4	-2.3	0.8	2.0	-3.8	4.2
13.冷蔵庫・ショーケースなどの高効率型への更新	-0.7	-1.4	-0.4	1.8	3.0	12.9	8.6
14.変電設備(トランス)の高効率型への更新	-1.8	-2.1	3.1	2.4	4.6	22.5	9.6
15.廃熱回収・放熱処理システムを導入している	-0.2	-0.3	0.3	0.7	-0.6	4.7	2.8
16.ESCO事業の導入	0.2	-0.6	-0.6	-0.6	0.8	-0.6	6.1
17.敷地や建物の屋上など緑化を推進している	-6.0	-2.1	2.1	8.0	5.3	22.7	15.8
18.室温は、暖房時は20℃、冷房時は28℃を目安に設定している	4.0	-4.3	7.2	5.5	-1.7	-0.2	25.8
19.事務室など支障がない場所では、春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている	-1.5	-0.5	6.2	4.8	5.0	-0.5	2.5
20.室外機等への散水を行っている	-3.3	-2.1	6.5	2.0	2.9	9.8	16.8
21.ファン、コンプレッサーなど設備の清掃を行っている	-11.2	-2.5	8.9	7.3	5.3	30.4	33.4
22.事業所として、クールビズ・ウォームビズを奨励している	-3.1	-3.8	6.2	13.5	9.2	32.3	24.8
23.昼休みに必要のない照明を消灯している	-6.3	3.5	-1.4	2.3	8.4	5.7	12.0
24.明るい窓際では消灯に心がけている	-0.4	0.8	1.5	6.2	0.8	-9.1	11.6
25.使用していないOA機器の電源を切っている	-3.7	0.9	3.9	8.5	7.6	11.8	4.8
26.電気や燃料の使用データを把握し、効率的なエネルギー利用に取り組んでいる	-5.6	-3.0	1.3	10.9	17.2	18.8	28.1
27.管理標準を整備している	-1.9	-3.3	0.7	-2.0	4.1	14.1	28.4
28.環境マネジメントシステムを導入している	-0.8	-1.3	-1.0	-0.2	1.5	7.8	24.0
29.エネルギー管理体制を構築している	-0.6	-1.8	0.0	-1.3	4.4	8.0	17.5
30.契約電力の見直しを行っている(メニュー)	-12.0	-6.7	7.5	16.6	31.5	28.5	49.2
31.電動機のVベルトを取り替えている	-6.0	-1.6	1.9	8.9	1.4	12.7	28.3
32.設備運転の見直しを行っている(温度・時間等)	-4.7	-4.1	2.4	8.4	6.7	25.5	25.4
33.省エネルギー診断を実施している	-2.5	-2.7	-0.2	4.2	8.1	11.4	25.6
34.地球温暖化問題に関するセミナーや研究などに参加している	-0.9	-1.8	3.9	-0.2	3.3	4.1	13.6
35.省エネ目標を設定している	-2.2	-3.5	4.3	-0.2	0.7	18.7	19.0
36.貴事業所での取組(上記17~35など)を従業員に周知している	-9.6	-1.9	6.1	6.4	11.0	11.4	39.3

・施設についての取組については、部門による大きな傾向はみられなかった。

■部門 注)各部門の「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	産業部門 (n=103)	運輸部門 (n=34)	民生業務 部門 (n=577)
1.建物、作業所、店舗の断熱化を図っている	1.0	-9.8	-0.2
2.空調機はゾーン毎にON/OFFができる	-6.0	-10.1	5.5
3.ポンプやファンなどの設備について、インバーター機を導入している	1.1	-10.3	-0.5
4.空調設備の高効率型への更新	-0.3	-7.7	0.9
5.蓄熱式空調システムを採用している	-0.7	-1.3	0.7
6.デシカント空調システムを採用している	-0.1	-0.8	0.0
7.部屋の照明はゾーン毎にON/OFFができる	-1.7	7.2	1.3
8.LED照明を採用している	-4.5	5.7	3.6
9.トイレなどに人感センサー付きの照明器具を採用している	-2.4	-3.6	2.5
10.デマンド管理装置を導入している	-1.4	-5.8	1.5
11.集中管理装置(BEMSやFEMS)を導入している	-1.6	-1.8	1.5
12.給湯設備の高効率型への更新(エコキュート、エコジョーズ等)	-1.1	-0.3	0.6
13.冷蔵庫・ショーケースなどの高効率型への更新	-0.9	-2.2	1.1
14.変電設備(トランス)の高効率型への更新	0.8	5.1	-0.8
15.廃熱回収・放熱処理システムを導入している	0.0	-0.6	0.1
16.ESCO事業の導入	-0.2	-0.6	0.2
17.敷地や建物の屋上など緑化を推進している	1.8	-8.3	-0.7
18.室温は、暖房時は20℃、冷房時は28℃を目安に設定している	-3.2	8.3	2.5
19.事務室など支障がない場所では、春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている	0.7	8.2	-1.1
20.室外機等への散水を行っている	1.7	1.1	-1.2
21.ファン、コンプレッサーなど設備の清掃を行っている	-1.6	0.8	1.1
22.事業所として、クールビズ・ウォームビズを奨励している	-4.4	4.0	4.1
23.昼休みに必要のない照明を消灯している	7.8	5.5	-6.6
24.明るい窓際では消灯に心がけている	4.1	3.0	-3.8
25.使用していないOA機器の電源を切っている	0.9	-0.1	-0.6
26.電気や燃料の使用データを把握し、効率的なエネルギー利用に取り組んでいる	-1.8	0.8	1.7
27.管理標準を整備している	-0.9	1.9	0.8
28.環境マネジメントシステムを導入している	-0.2	0.2	0.3
29.エネルギー管理体制を構築している	-0.8	-2.5	0.9
30.契約電力の見直しを行っている(メニュー)	-0.3	-12.3	0.9
31.電動機のVベルトを取り替えている	3.6	-2.5	-2.7
32.設備運転の見直しを行っている(温度・時間等)	-1.4	-5.4	1.5
33.省エネルギー診断を実施している	-1.4	-4.4	1.5
34.地球温暖化問題に関するセミナーや研究などに参加している	-0.7	-3.5	0.8
35.省エネ目標を設定している	0.0	-4.7	0.3
36.貴事業所での取組(上記17~35など)を従業員に周知している	-2.1	19.3	1.1

(2) 自動車・輸送についての取組

- ・自動車・輸送についての取組については、経年で大きな変化はみられなかった。
- ・従業員数別、延床面積別にみると、「1.停車時のアイドリングストップを指導・励行している」、「2.燃費向上のため、日常・定期点検整備を指導・励行している」、「3.経済速度での運転を指導・励行している」、「4.マイカー通勤の自粛を呼びかけている」は、従業員数、延床面積が大きくなるほど、取組割合が大きい傾向がみられる。
- ・部門別にみると、「1.停車時のアイドリングストップを指導・励行している」、「2.燃費向上のため、日常・定期点検整備を指導・励行している」、「3.経済速度での運転を指導・励行している」は、運輸部門での取組割合が他部門より大きい。

■全体	H26 (n=696)		H30 (n=1,220)			取組割合の 増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動レベル	取組割合 (%)	行動レベル	「該当しない・ 機器がない」 の割合(%)	
1.停車時のアイドリングストップを指導・励行している	40.4	B	41.1	B	20.1	0.7
2.燃費向上のため、日常・定期点検整備を指導・励行している	54.0	B	49.4	B	17.0	-4.6
3.経済速度での運転を指導・励行している	62.4	B	53.6	B	15.7	-8.7
4.マイカー通勤の自粛を呼びかけている	9.6	C	7.1	C	22.2	-2.5
5.多頻度・少量配送の見直しをしている	20.8	C	15.7	C	37.4	-5.2
6.共同配送システム及び配送サイクルの効率化を行っている	10.6	C	6.6	C	51.6	-4.0

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

■従業員数 注)各従業員数カテゴリの「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	1~4人 (n=421)	5~9人 (n=305)	10~19人 (n=215)	20~49人 (n=158)	50~99人 (n=54)	100~299人 (n=23)	300人以上 (n=7)
1.停車時のアイドリングストップを指導・励行している	-3.1	2.9	0.3	5.1	1.5	-10.6	16.1
2.燃費向上のため、日常・定期点検整備を指導・励行している	-7.9	-3.5	10.1	10.1	19.1	20.1	-6.6
3.経済速度での運転を指導・励行している	-3.7	-1.1	1.7	7.2	18.6	16.0	3.5
4.マイカー通勤の自粛を呼びかけている	1.4	0.7	-3.4	-2.1	-1.6	10.3	50.0
5.多頻度・少量配送の見直しをしている	-0.7	0.1	-0.3	5.9	-4.5	-2.6	-15.7
6.共同配送システム及び配送サイクルの効率化を行っている	-0.5	-1.4	-0.1	3.5	2.6	6.4	-6.6

■延床面積 注)各延床面積カテゴリの「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	1~100㎡未 満 (n=256)	100~500㎡ 未 満 (n=414)	500~1,000 ㎡未 満 (n=117)	1,000~2,000 ㎡未 満 (n=81)	2,000~5,000 ㎡未 満 (n=72)	5,000~ 10,000㎡未 満 (n=19)	10,000㎡以 上 (n=30)
1.停車時のアイドリングストップを指導・励行している	-3.2	-1.2	3.4	0.9	-3.6	22.1	8.9
2.燃費向上のため、日常・定期点検整備を指導・励行している	-8.8	-1.6	4.4	7.4	7.5	13.7	20.6
3.経済速度での運転を指導・励行している	-2.0	1.5	6.2	-5.5	6.1	4.3	23.1
4.マイカー通勤の自粛を呼びかけている	2.2	0.1	2.3	-3.4	-1.6	8.7	2.9
5.多頻度・少量配送の見直しをしている	-1.6	-0.7	-1.1	-2.1	-1.8	-10.4	4.3
6.共同配送システム及び配送サイクルの効率化を行っている	0.0	-1.8	-1.5	0.8	4.5	-6.6	10.0

■部門 注)各部門の「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	産業部門 (n=103)	運輸部門 (n=34)	民生業務 部門 (n=577)
1.停車時のアイドリングストップを指導・励行している	1.7	26.6	-2.6
2.燃費向上のため、日常・定期点検整備を指導・励行している	2.3	44.7	-4.0
3.経済速度での運転を指導・励行している	-1.3	40.5	-0.8
4.マイカー通勤の自粛を呼びかけている	0.3	-4.2	0.2
5.多頻度・少量配送の見直しをしている	2.4	-6.8	-1.7
6.共同配送システム及び配送サイクルの効率化を行っている	0.6	-0.8	-0.4

(3) 資源の有効利用についての取組

- ・「7.古紙パルプ配合紙を使用している」の取組割合は 43.0%から 36.8%に減少し、行動レベルが B から C となった。
- ・「9.梱包、包装の簡素化を図っている」の取組割合は 46.4%から 33.9%に減少し、行動レベルが B から C となった。
- ・「10.使い捨ての製品の使用を抑制している（紙コップ、割り箸、作業軍手等）」の取組割合は 43.7%から 36.0%に減少し、行動レベルが B から C となった。
- ・従業員数別、延床面積別にみると、従業員数が多く、延床面積が大きい事業所ほど、取組割合が高い傾向がわずかにみられる。

■全体	H26 (n=696)		H30 (n=1,220)			取組割合の 増減 (H30 - H26)
	取組割合 (%)	行動レベル	取組割合 (%)	行動レベル	「該当しない 機器がない」 の割合 (%)	
1.廃棄物や資源作物といったバイオマスエネルギーを利用している	2.6	C	3.4	C	58.3	0.8
2.廃熱の回収利用を行い、エネルギー利用効率の向上を図っている	3.0	C	1.6	C	61.9	-1.5
3.廃棄物の発生を抑制し、リユース、リサイクルに努めている	34.9	C	34.2	C	32.9	-0.7
4.グリーン製品、エコ商品を調達している	27.6	C	22.6	C	34.0	-5.0
5.リサイクル部材を利用している	27.7	C	25.4	C	36.0	-2.3
6.使用済み製品の回収及び再製品化を行っている	25.4	C	23.4	C	42.2	-2.0
7.古紙パルプ配合紙を使用している	43.0	B	36.8	C	28.6	-6.2
8.紙の表裏(両面)を利用している	77.4	B	70.7	B	10.2	-6.7
9.梱包、包装の簡素化を図っている	46.4	B	33.9	C	37.0	-12.5
10.使い捨ての製品の使用を抑制している(紙コップ、割り箸、作業軍手等)	43.7	B	36.0	C	24.4	-7.7
11.工場、店舗の廃棄物を分別している	70.0	B	61.6	B	21.2	-8.4
12.排水処理の改善を図っている	24.3	C	18.9	C	46.1	-5.4
13.工場用水の再利用(洗浄水、冷却水の再利用)を行っている	5.7	C	2.5	C	67.7	-3.3
14.生産工程での歩留まり向上に努めている	未実施	—	11.5	C	59.2	—
15.在庫管理の適正化を進め、劣化廃棄をなくしている	未実施	—	30.6	C	39.8	—

(A:80%以上、B:40%~80%未満、C:40%未満)

■従業員数 注)各従業員数カテゴリの「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	1~4人 (n=421)	5~9人 (n=305)	10~19人 (n=215)	20~49人 (n=158)	50~99人 (n=54)	100~299人 (n=23)	300人以上 (n=7)
	1.廃棄物や資源作物といったバイオマスエネルギーを利用している	0.0	-1.1	1.8	1.7	-1.5	-3.4
2.廃熱の回収利用を行い、エネルギー利用効率の向上を図っている	-0.4	-0.6	-0.6	2.9	-1.6	7.1	-1.6
3.廃棄物の発生を抑制し、リユース、リサイクルに努めている	-4.5	0.9	6.3	0.0	-2.7	13.6	37.2
4.グリーン製品、エコ商品を調達している	-5.0	-3.3	8.5	1.4	14.4	20.9	5.9
5.リサイクル部材を利用している	-4.0	-2.1	7.6	4.3	6.1	9.4	-11.1
6.使用済み製品の回収及び再製品化を行っている	-4.0	-0.8	6.8	3.1	6.2	7.0	-9.2
7.古紙パルプ配合紙を使用している	-4.5	2.5	8.3	1.2	-9.0	24.1	-22.5
8.紙の表裏(両面)を利用している	-9.5	4.7	4.6	5.8	16.3	24.9	15.0
9.梱包、包装の簡素化を図っている	-1.6	4.1	-1.4	-2.3	6.8	0.8	8.9
10.使い捨ての製品の使用を抑制している(紙コップ、割り箸、作業軍手等)	-0.1	1.7	0.3	-2.4	-2.7	3.1	21.2
11.工場、店舗の廃棄物を分別している	-9.5	5.0	5.9	8.1	10.7	8.0	24.2
12.排水処理の改善を図っている	-5.6	-1.8	7.2	3.9	14.5	2.9	38.3
13.工場用水の再利用(洗浄水、冷却水の再利用)を行っている	-1.7	-0.8	1.3	2.6	1.2	1.9	11.8
14.生産工程での歩留まり向上に努めている	-5.3	2.0	2.9	2.4	7.0	19.0	2.8
15.在庫管理の適正化を進め、劣化廃棄をなくしている	-7.3	2.5	4.8	3.6	13.9	21.6	-2.0

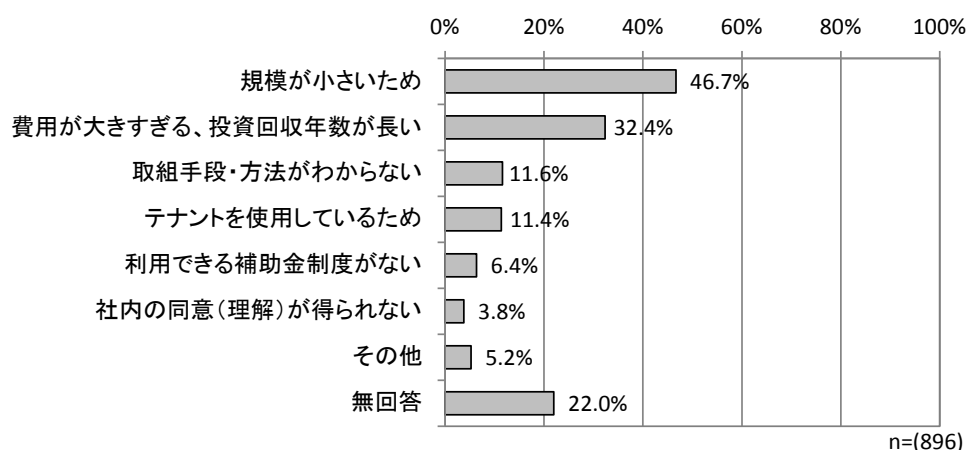
■延床面積 注)各延床面積カテゴリの「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	1~100㎡未 満 (n=256)	100~500㎡ 未満 (n=414)	500~1,000 ㎡未満 (n=117)	1,000~2,000 ㎡未満 (n=81)	2,000~5,000 ㎡未満 (n=72)	5,000~ 10,000㎡未 満 (n=19)	10,000㎡以 上 (n=30)
	1.廃棄物や資源作物といったバイオマスエネルギーを利用している	0.9	-0.5	0.9	0.3	2.2	7.2
2.廃熱の回収利用を行い、エネルギー利用効率の向上を図っている	-0.4	-0.1	-0.7	-0.3	-0.2	9.0	5.1
3.廃棄物の発生を抑制し、リユース、リサイクルに努めている	-5.3	3.0	8.6	-7.0	0.5	-2.6	15.8
4.グリーン製品、エコ商品を調達している	-2.7	0.8	3.9	-0.4	2.4	14.2	10.7
5.リサイクル部材を利用している	-4.3	1.9	5.4	-8.1	2.4	-4.4	17.9
6.使用済み製品の回収及び再製品化を行っている	-3.1	0.2	4.8	0.0	4.3	-2.4	6.6
7.古紙パルプ配合紙を使用している	-1.6	2.8	1.7	-2.2	-0.7	-10.5	3.2
8.紙の表裏(両面)を利用している	-6.7	-0.7	-1.5	7.0	7.0	13.5	19.3
9.梱包、包装の簡素化を図っている	0.4	-1.3	2.8	-1.8	-4.8	8.2	12.7
10.使い捨ての製品の使用を抑制している(紙コップ、割り箸、作業軍手等)	0.0	1.7	-0.9	-1.4	0.1	-14.9	10.7
11.工場、店舗の廃棄物を分別している	-14.7	5.6	6.8	7.6	-0.4	1.6	21.8
12.排水処理の改善を図っている	-6.4	-0.3	-3.5	7.1	11.7	12.7	24.5
13.工場用水の再利用(洗浄水、冷却水の再利用)を行っている	-1.3	-0.3	-2.5	0.0	7.3	2.8	4.2
14.生産工程での歩留まり向上に努めている	-7.2	-0.4	-2.1	2.1	12.1	14.8	18.5
15.在庫管理の適正化を進め、劣化廃棄をなくしている	-9.5	0.8	2.8	7.7	12.5	6.3	16.1

・資源の有効利用についての取組では、部門による大きな傾向はみられなかった。

■部門 注)各部門の「実施している」の割合から、全体の「実施している」の割合を引いたポイントを表示。	産業部門 (n=103)	運輸部門 (n=34)	民生業務 部門 (n=577)
1.廃棄物や資源作物といったバイオマスエネルギーを利用している	0.3	-0.4	-0.1
2.廃熱の回収利用を行い、エネルギー利用効率の向上を図っている	-0.2	1.4	0.2
3.廃棄物の発生を抑制し、リユース、リサイクルに努めている	3.5	-1.8	-2.8
4.グリーン製品、エコ商品を調達している	-0.6	0.9	0.7
5.リサイクル部材を利用している	0.8	9.9	-1.0
6.使用済み製品の回収及び再製品化を行っている	0.3	-5.8	0.2
7.古紙パルプ配合紙を使用している	1.6	-10.3	-0.4
8.紙の表裏(両面)を利用している	-0.6	-3.1	0.7
9.梱包、包装の簡素化を図っている	-2.6	-7.5	2.3
10.使い捨ての製品の使用を抑制している(紙コップ、割り箸、作業軍手等)	0.9	-3.6	-0.2
11.工場、店舗の廃棄物を分別している	6.9	0.2	-5.2
12.排水処理の改善を図っている	2.3	-4.1	-1.4
13.工場用水の再利用(洗浄水、冷却水の再利用)を行っている	1.0	0.5	-1.1
14.生産工程での歩留まり向上に努めている	9.1	-2.7	-7.1
15.在庫管理の適正化を進め、劣化廃棄をなくしている	5.0	-7.0	-3.4

(4) 設備改善の実施が難しい理由

・設備改善については「規模が小さいため」、「費用が大きすぎる、投資回収年数が長い」が、実施が難しい主な理由として挙げられた。



(5) 運用改善の実施が難しい理由

・運用改善については「規模が小さいため」が、実施が難しい主な理由として挙げられた。

